# 臺灣時報大正十一年十一月號 目次 （第四十號）


口絵 □□□□□□□□□□□□□□□□□
▼通霄に於ける海岸線開通式々場▼基隆沖の鰹漁業▼鰹節製造作業

海岸線の開通（卷頭言）………… 一

時報 ………… 二

海岸線鐵道開通▼全島協議會員改選▼總督府の物價調節施設發表▼本島人の特別任用▼田總督招宴▼賀來長官地方巡視▼餘震漸減▼兒玉將軍追悼會と遺墨展覽▼飛行家謝文達君後援寄金 □□□□□□□□□□□□□□□□

海岸線鐵道開通に就ての所感 ………… 新元鹿之助 六

支那農業の開發と我國 ………… 木村增太郎 一一

獨逸の物價調節と暴利令 ………… 田原 天南 二一

綠珊瑚（金平生）………… 二六

鰹漁業の南遷に就て ………… 宮上 龜七 二七

高雄州下長壽者の狀態 ………… 高雄州調査 三七


Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣東の貿易……井出季和太　四五
獨逸の將來は東方に在り……後藤改平　六六
思ひしのばる丶二つの史料……蕉鹿夢　七四
□□□□□□□□□□□□□□□□□
臺灣人口統計論……堤一馬　七七
北ボルネオの首狩……越村生譯　九四
島情……九五
海岸線開通式（鐵道部）……九五
總督府の物價調節施設十三箇條……九六
●●●●●●●●
州市街庄協議員の人名（州廳課）……九八
州稅徵收の成績（州廳課）……一〇八
征蕃私記（水野前長官手記）……一〇九
詞苑……一一三
臺灣日誌□人事消息□任命□編輯雜記□寄贈書目……一一五
□□□□□□□□□□□□□□□□
南支南洋其他海外重要記事……一—一〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 株式會社臺灣銀行（臺北）

## 支店出張所

### 臺灣

基隆　臺中　嘉義　臺南　高雄

宜蘭　淡水　桃園　新竹　南投

屏東　臺東　花蓮港　澎湖島

## 支店出張所

### 支那

上海　九江　漢口　福州

厦門　汕頭　香港　廣東

### 其他

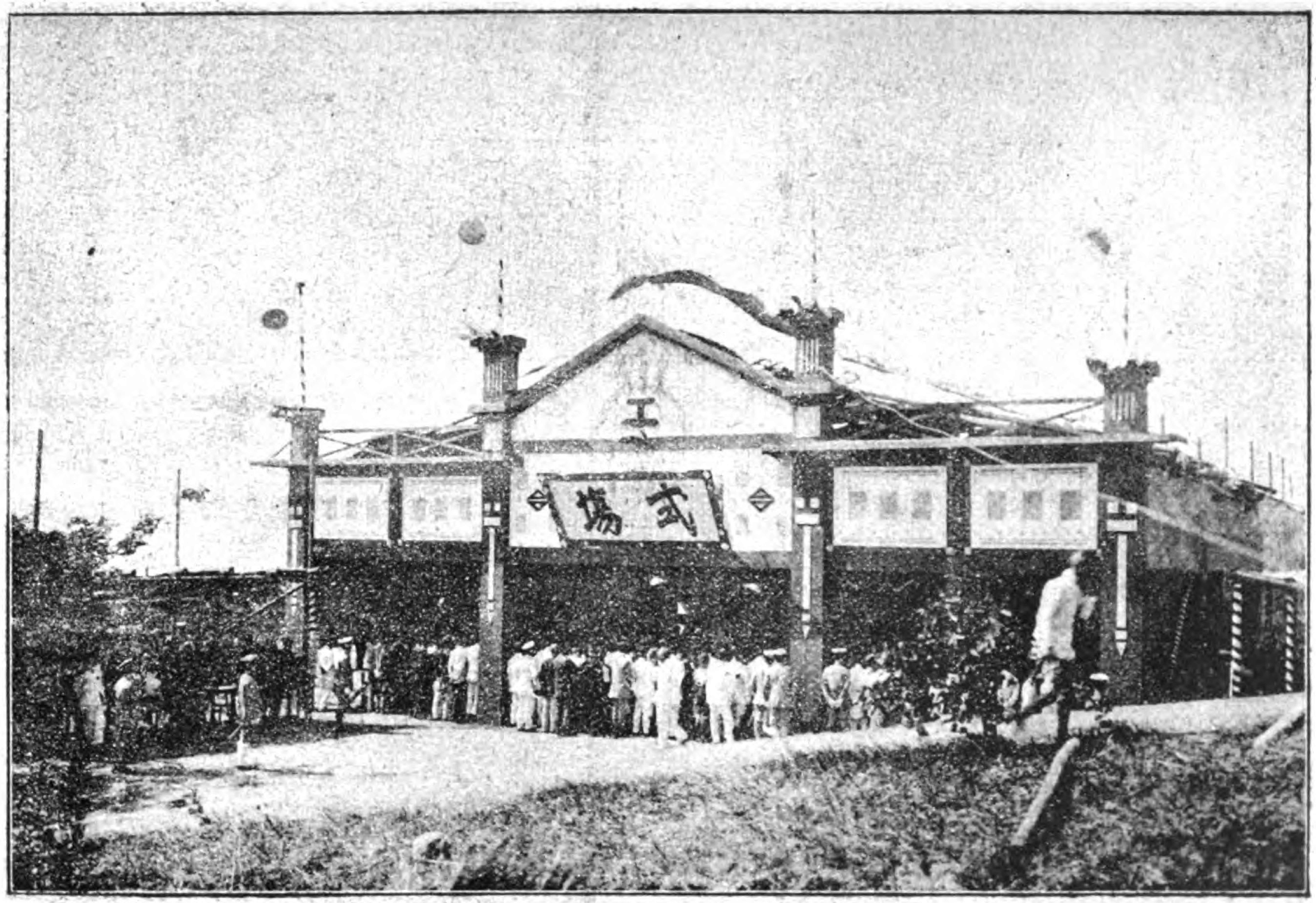
新嘉坡　盤谷　スラバヤ　スマラン

バタビヤ　孟買　倫敦　紐育

### 内地

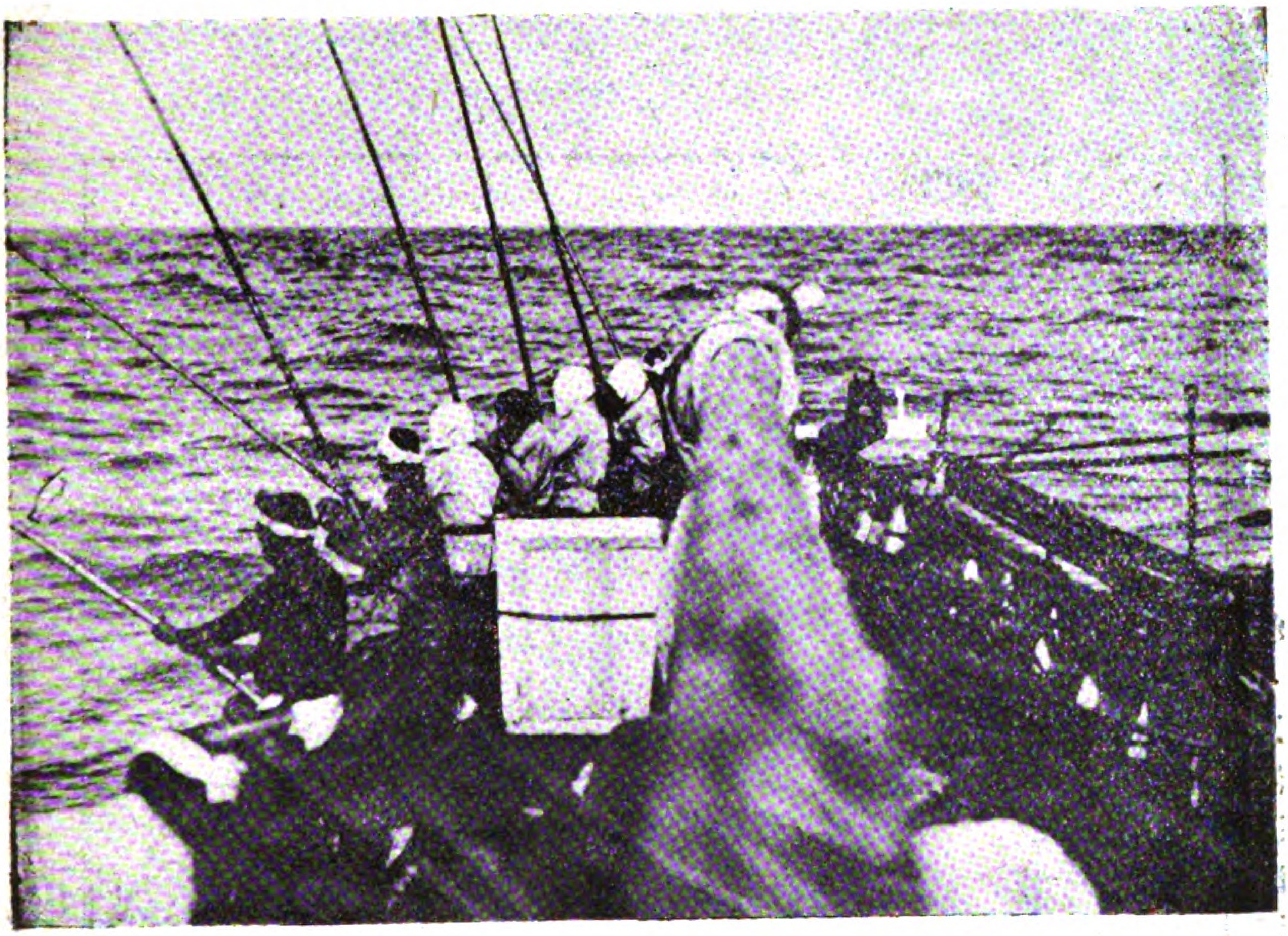
神戸　大阪　橫濱　東京　門司


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN




通霄に於ける海岸線鐵道開通式々場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



基隆港に於ける鰹漁業

鰹節製造（本島女子の骨抜き作業）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 海岸線の開通

臺灣縱貫鐵道海岸線の計劃せられたのは、當年歐洲大戰の影響として生じたる滯貨問題の永久的解決方法に出でたもので、开は全く産業政策の目的に出る卓絶なる鐵道政策として當局の英斷に推稱するに足るべきものである。今や其の工事が遂行せられて海岸線五十哩餘の完成を見、山線の急勾配なるに對して三倍の輸送力を加へたのは、中部臺灣の産業開發の促進は勿論、南北交通の一大進展の爲に洵に慶賀に堪へざる次第である。然るに今日偶々財界の不況に際し、折角の増設も其の輸送力を傾倒すべき機會に遭遇するを得ざる如きは遺憾の極に相違ないが、此の不景氣の中にも是れ丈けの餘裕を存することは、本島産業界の大なる强味であると謂つて可い。而して之を利用すると否とは島人の奮勵如何にある。差當り地方的にも中部人士の活躍を希望する。要するに海岸線の完成は本島文化の爲に大いに祝福すべきである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 時報

## 海岸線鐵道開通

臺灣鐵道縦貫線竹南驛より分岐し後龍、通霄、大甲等を經て王田驛に至り縱貫線に連絡する海岸線は今回工事完成したるを以て十月十日同沿線通霄に於て盛大なる開通式を擧行した右敷設の次第は別項島情欄掲載新元部長の式辭及び渡部技師の工事報告等で明瞭であるが要するに從來の山線は急勾配で輸送能力も制限されてあつた折柄、歐州大戰の影響を受けて本島鐵道の乘客貨物に激增を來たし爲に滯貨問題は一時臺灣鐵道に對する批難の的となつたので之が永久的解決方法として海岸線敷設計劃となり議會の協贊を經たる結果大正八年度から四箇年繼續事業、工費增額共千二百餘萬圓を以て敷設に着手し今回其の工事完成を見るに至つたので線路の延長五十三哩四分、難工事の箇所極めて多しと稱せられてある當日開通式には田總督を初め官民五百餘名來會、地方人民の觀光亦た頗る多く通霄の地は未曾有の盛況を呈したが式は午後一時に始まり橫光事務官の開會辭に次で新元部長の式辭、渡部技師の工事報告があつて後、田總督の深遠な祝辭演説があり夫れより官民の祝辭祝電等があつて午後一時四十分式を終り同時に模擬店が開かれ各種の餘興もあつて大いに興を添えたのは誠に盛んなことであつた、蓋し臺灣鐵道は本工事の完成によつて一層その輸送能力を增し本島產業の開發、文化の振興の爲に大いに資する所があるであらう。

## 全島協議會員改選

一昨年十月一日本島地方制度を改め地方自治の基礎を創定せらる、や州、市、街庄制の規定により全島各州市街庄協議會員二千八百十七名を任命する所ありたるが今や夫等の協議會員は任期滿了したるを以て

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

十月一日全部の改任を見るに至つた、從來の協議會員中には比較的官吏が多かつたが今回のは大いに趣を異にし州協議會員の如きも州制の規定による事務官以外には官吏の任命されたるものなく只だ新竹、臺中、臺南、高雄の四州は事務官たる内務、警務の兩部長の外に郡守一名宛の任命を見たるのみで今回は出來得る限り民間者を選任するに力め又た其の地方的分布の點に就ても各州一般に管内各郡から公平に選任し尚ほ今回の改任に就ては州協議會員に任命さるべきものは一年以上州下に住して州税を納め且つ州治に貢献し得べく又た貢献すべく努力を吝まざる人物を推したのである而して改任の結果は州協議會員に在つては百四十名の内三分一强は新任者であつて他は再任者であるが其の中、官吏を除けば内地人は七十四名、本島人は五十三名である此の割合は市に於ても略ぼ同樣であるが街庄に於ては其の大部分は全く本島人であることは前回の例と異る所は無い要するに今回の改任は民間者を主とするにあつたので協議會の機能を發揮するに於ても亦た大いに其の特色を示すことであらう。

### 總督府の物價調節施設發表

物價調節は今や我邦に於ても眞劍味を以て研究せられ著々實行中であるが臺灣總督府に於ても先般來之に就て審議考究を爲したる結果十月六日總督府會議に於て賀來總務長官を初め關係官民參集の上、賀來長官から別項島情欄記載の如き物價調節に關する施設十三箇條を說明せられ且つ之が實行に就ては官民の協力により充分の效果を擧げたしとの旨を述べられ種々質問應答ありて散會したが之が實行に就ては中央委員會、地方委員會を設け中央委員長は殖産局長之に當り地方委員會長は各州内務部長を以て之に充て殖産局商工課を中心として徹底的に調節策十三箇條の實行を期する筈である吾人は刮目して其の效果の擧らんことを待つものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 本島人の特別任用

高等文官特別任用に就ては既に其の規定の存する所であるが本島人に就ては地方行政の運用上別に特別任用の規定を設くるの必要ある爲め「臺灣の事情に精通し且つ相當の學識經驗ある者」に就ては高等文官試驗委員の詮衡を經て特に州理事官、廳理事官、郡守、市尹、市理事官等の高等官に任用するを得る旨十月四日勅令を以て公布即日施行された、之と同一の規定は朝鮮にも存することであるが本島としても此の規定は亦た事情宜しきを得たものであらう。

## 田總督招宴

本島多年の懸案たりし私法問題が今回解決されて民法商法が施行せられることになり九月十八日其の法令の公布を見るに至つたので田總督は曩きに歸府の後十月一日該法案の審議に關係ある總督評議會員竝に法令取調委員會員の諸氏を官邸に招待して晩餐會を催されたが其の席上田總督には叙禮辭として「一昨年の地方制度改正と云ひ昨年の教育制度改正と云ひ又た今回の民法商法施行と云ひ何れも臺灣統治上の重要事項であるが前二者は公法上の事に屬し時勢と共に推移することあるべきも民商法に至りては人類共存の私的關係を定めたる百年の大法であつて之が施行によりて臺灣も眞の法治國となり島民も私權の安固を得たるは同慶に堪へず」との趣旨を述べ之に關係せる兩會員諸氏の勞を慰する爲め小宴を催はしたる旨例の周到明析なる辯舌を以て餘蘊なく叙述せられ之に對して賀來總務長官からの謝辭があり「本件の圓滿迅速に進捗したるは全く總督閣下の指導督勵の宜しきを得、且つ中央政府に對する說明交涉の妥當なりしに因るものと拜察す、冀くは其の立案發布の圓滿なりし如く其の施行に就ても一層圓滿ならんことを」との趣旨を述べられたのは兩叙辭共に我が臺灣法制の上に記憶すべきものである。

## 賀來長官地方巡視

賀來總務長官は昨年新任以來政務多端の爲め地方巡視を爲すに至らなかつたが此頃寸暇を得られたるを以て十月二十一日早朝臺北出發、新竹、臺中、臺南、高雄等各州を巡視し各地の臺灣神社を參拜し、各州廳に地方行政の概況を聽取し、到る處に長官主催にて茶話會を開いて親しく地方官民に接し同二十三日歸府せられたり。

## 餘震漸減

本島北部地方には去る九月二日の强震に次で同月十五日の强震があり初回以來餘震頻りなることは本誌前號に之を報じたが爾來餘震は尙は未だ過まざるも其の回數は漸次減少し來り且つ殆んど人體に無感のものばかりで時に有感のものはあるが夫れも微震若くは微震の稍々强いものに屬し寧ろ震源地が漸次固定し行く作用の餘波として起るものと觀測されてある。亦以て不安を除くに足るべきである。（十月十日）

## 兒玉將軍追悼會と遺墨展覽

去る九月二十三日は第四代の總督兒玉藤園將軍の十七回忌に相當するので同將軍の開基に係る圓山の臨濟寺に於て午後三時から追悼會が擧行せられ賀來總務長官を初め官民六十餘氏參會、横澤次郎氏の故將軍に關する講演があつたが同二十三及ひ四の兩日臺北新公園なる博物館に於て同將軍の遺墨展覽會が開かれ出陳七十餘點、非常の感興を以て注目せられ兩日の來觀者一萬人以上に達せるの盛況を呈した。

## 飛行家謝文達君後援寄金

本島人中唯一の飛行家たる謝文達君は曩に千葉縣津田沼なる伊藤飛行研究所に學び次で帝國飛行協會の懸賞競技に參加して受賞の榮を得たが臺灣官民名士八十餘氏は同君の後援として飛行機購入の目的により寄附金を募集し此程二萬五千餘圓を得たるを以て右發起者は九月二十七日總督府警務局に出頭し發起者の一人たる相賀同局長に飛行機購入方を依託した。

# 海岸線鐵道開通に就ての所感

臺灣總督府鐵道部長　新元鹿之助

## 一

臺灣縱貫鐵道の竹南から王田に至る五十三哩餘の海岸線は、今回其の四年間繼續の工事完成して十月十日其の開通式を沿線通霄の地に擧げ、田總督閣下親しく臨場せられて深達なる祝辭を給はり、本線の完通に依つて本島南北交通の便大いに備はりたるを欣賞せられ、官民一般の協心戮力して其の利用を完ふせんことを激勵し、併せて從事員多年の勤勞を感謝する旨の辭を與へられたのは、吾々の洵に光榮に感ずる所である。が、今回本線の開通に就ては、自分は先づ當年滯貨問題の喧囂を極めて全島の批難が我が鐵道部に集中した時のことを想ひ起して轉た感慨の無量なるを禁ずることが出來ない。

回顧すれば我が臺灣鐵道は明治四十一年の全通以來、長足の發展を遂げ、旅客は勿論、貨物も大體に於て累年増加し來つたが、歐洲大戰の影響は一層貨客の激増を來し、大正六年以來、遂に滯貨を現出して世論の囂々を招くに至つたのである。蓋し歐洲戰亂に依りて蒙りたる影響の中で、其の最も激甚なのは鐵道であつて、世界列强の鐵道管理に大變革を來たしたのも全く此時である。當年我が臺灣の蒙りたる影響は、歐米又は內地滿鮮に於けるが如く甚しいものは無かつたが、然かも大正元年度の旅客貨物の指數百に對し、大正七年に於ては旅客の指數百九十二、貨物百九十といふ約二倍の增加率で、旅客は即ち四百五十六萬（千以下略す）に對する八百七十七萬人、貨物は即ち百八萬に對する二百五萬噸といふ增加であつたから、遂に輸送能力の不足を來して縱貫鐵路の沿線到る處に滯貨を現出するに至つたのである。當時大正七年三月以降、翌八年六月に至る各月末の滯貨噸數といふものは、月によつて多少の高低はあるが、概して十萬噸以上十六七萬噸、乃至二十萬噸を算するに至り、石炭、砂糖、米、肥料、木材、煉瓦等の滯貨の主なるものは、大稻埕、基隆、錫口、五堵、七堵、八堵、或は南方打狗等の驛頭に累々として、砂糖製品の置場すら無い爲に野天に曝露せられ、或は石炭輸送の遲滯の爲に製糖工場は作業を中止し、私設鐵道は運轉を止め、電燈會社は點燈を中絕する、或は內地行精米が新年祝餅の間に合はず、或は蔗苗が輸送遲滯の爲に枯死する等慘憺たる狀況は數へ來れば實に枚擧に遑あらぬ程であつた。

斯の如く滯貨は其の高潮に達したのであるが、熟ら其の原因を察するに、歐洲大戰は勿論其の遠因たるには相違ないが、併し戰亂の影響が本島に波及し來りしは漸く大正六年の秋季以後の事で、翌七年に入りて次第に其の濃度を加へたのである。然るに本島に於ける滯貨の原因は、上記一般的のもの、外、更に本島特有の原因があつて存したのである。即ち（一）冬季に於ける諸貨物の一時に輻輳する事情（二）本島人の財力伸張

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に因る旅客の激增(三)船腹の缺乏及船賃の暴騰に因る海陸運賃の不權衡(四)命令船運賃と自由船運賃との較差(五)従業員の轉業(六)世界的感冒の猖獗(七)鐵道用品の暴騰及び缺乏等は、滯貨を高潮せしめた本島特有の原因であつたのである。故に之が對應的施設に就ても、大戰に因る一時的影響に對するものとしてのみ之を觀ることは出來ない。少くとも本島特有の原因に對するものとして自から永久的の施設に出でなくてはならなかつたのである。

## 二

扨て之が對應的施設として當局の實行したものは一二にして止まらない。何れも國家の交通機關たる觀念に立脚し、公益的犧牲の精神を以て之に當つたことは識者の諒とする所ならんが、其の中、永久的施設として採擇したものは卽ち海岸線の建設である。抑も縱貫線に於ける大正七年度の運輸狀態を按するに、其の旅客貨物の計數は之を全通當初の明治四十一年度の旅客貨物輸送量人噸哩各々一〇〇に比するに、旅客人哩は三三一%に、貨物は四〇六%に相當するが、此の計算から平均增加率を得て推算すると、大正十三年度に於ては苗栗後里庄間四十分一の勾配線に在りては四十回の運轉を必要とする計算となる。然るに同所は地勢の關係上一時間一回卽ち晝夜二十四回の運轉を爲すことは、全く其の最大限度とせざるを得ない。然るに尙ほ夫れ以上の輸送能力の餘裕を保たしめんには、何うしても他に適當の線路を選ばなくてはならない。此の計算は平時に於ても當然到達すべき結論である。況んや當年滯貨問題の喧々囂々として鐵道部が批難の焦點となりし場合に於てをや。我が鐵道從事員が如何に惡戰苦鬪した所が、滔々たる大勢は到底支ふる事は出來なかつたのである。そこで海岸線敷設の計畫となつた次第であるが、此の計畫は滯貨問題の解決方法であつた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のは勿論、前述の通り本島將來の發展に順應すべき永遠の大計をも考量したものであつたのである。

然り而して此の海岸線は、縱貫鐵道の竹南驛から分岐し、後龍、通霄、大甲等を經て王田驛に至り、縱貫線に連絡するもので、線路の延長五十三哩四分、最急勾配百分の一、此の建設費追加共一千二百八萬五百九十一圓、大正八年より四箇年繼續事業で、今回その完成を見るに至つたのであるが、當時に於ては、滯貨を批難せる世論は尙ほ此の新事業までも中止せしめんとするの勢を示したのである。其の說に曰く、今や滯貨問題は未だ解決を見ざるに、運輸に全力を盡さずして新事業を計畫するは、第一其の事業に對する實力不相當にして、第二に建設に重きを置き運輸を無視するもの、宜しく此の逆施倒行の方針を改むべしと。此の說は誠に穩健にして立言亦た正大であつた。蓋し本島鐵道經營は改良を主として、建設を從とすべきや、將た建設を主として改良を從とすべきやは頗る考量に値すべき重要問題である。幷は時運の趨勢に關係する所多くして豫め一定し難いが、當年の運輸狀態に於ては、區々たる施設改善の能く時代の要求に順應すべきに非ざるを察し、遂に根本的改良を決行するの策を立て、鐵道部に於て中部海岸線の計畫を立案したのであるが、それが實現を見るに至り、今日其の工事完成して輸送能力に於て約三倍、南北直通に非常の便利を與へ、本島文化に至大の貢獻を爲すに至つたのは、全く其の立案を採用された當局の英斷果決に因るものと謂はざるを得ない。彼の軍事鐵道や政治鐵道が、時代の經過、產業の發達と共に經濟鐵道に變つて行くことは、鐵道論や交通論に於て說く通りであるが、本島に於ても多年統治の效果は著るしく、文化は振興し產業は發達した結果、我が縱貫鐵道も昨今全く異箇の經濟的鐵道の本能を發揮するやうな時勢となつた。此の折柄、滯貨問題の解決策として當局が軍事上に不利なる海岸線を採擇されたのは、全く產業政策に重きを置くべき時勢を達觀されたもので、軍人總督としての其の見地が實に卓絕のものであつたことを想はざるを得ない。特に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此の計畫實行に就ては、鐵道部のみの努力丈けでは遂行困難なるべきを察せられ、各方面の諒解、殊に土木局の如きは河川改修を行うて努力を相俱に與にして呉れた結果、今日の成功を見るに至つたのは、鐵道部として深甚の感謝を表する所であるが、皆な是れ明斷なる當局の方寸に出でたることを想はゞ眞に景仰を禁ずる能はざる次第である。

## 三

由來を話さなければ現在の妙味が分らぬので思はず長談義に渉つたが、過去の事は最う此の位に止めて、扨て將來の事を考へて見ると、本島に於ても產業の進步發達に伴ふて、縱貫線の複線、東西巡環鐵道、鐵道の電化等、問題は多々益々辨せなくてはならぬ。差當り枋寮線の潮州溪州間、宜蘭線の完成、海岸線開通に伴ふ彰化追分間の複線工事、玉里新開園間の完成、八堵牛稠港間の高架線等は確定したる計畫であるが、尚其他新竹州管內に大湖口尖筆山方面に二三勾配の改良を要する點がある、是等が完成した曉は愈々縱貫線複線計畫の工事に著手すべき手順である、更に東西巡環計畫は、屏東臺東連絡徑路としては、溢寮溪から知本溪に出づるものと、六龜里からパシカウ溪に出づる線との計畫がある。又た花蓮港宜蘭方面の連絡徑路は、目下工事中の蘇澳花蓮港間の道路完成せば鐵道の連絡も可能となる積りであつたが、昨今の地震等の關係よりして尚研究を要する。從つて、此の東西巡環の計畫に對して今日未だ指を染むるに至らざるは遺憾とする所である。而して電化計畫は自然、縱貫線複線の完成後に來るべき問題と思はるゝが、作業費の點から言へば電氣は却て蒸汽機關より非常に節約を爲し得ることは、電化の盛んなる米國の實例が善く之を證明して居る。殊に電氣列車は輸送力に於て蒸汽列車よりも五十%乃至七十五%の優つた能力を有し、爲に電化費用は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其の增收に依つて償ひ得られたといふ實例も是亦た同國に於て見られるのである。果して然らば吾々も亦た電化の實現に關し、時勢の進運に應じて大いに考量を加へねばなるまい、併し歸著する處は運輸數量の問題で、一日も早く電化を必要とする狀態に到達したきものと思ふ。

夫れは扨て置き中部海岸線が完成した今日、偶々財界不況の爲に輸送の全能力を發揮する機會に遭遇しないのは聊か拍子拔けの氣味もあるが、所在地方の官民は協力一致して大いに地方の開發に努めらるゝと同時に、又た大いにこの鐵道を利用されたいものである。

# 支那農業の開發と我國

木村增太郎

## 一

支那は由來農業を以て立國の本と爲し來つた國であつて、彼の國の重農主義は實に太古の農業時代に胚胎して居ると言つて差支ない。夫れに彼の儒教が又た旺に重農主義を鼓吹したが爲め、歷朝農業の保護には種種費心したものである。現に農政官の如きは已に太古時代から存在せしもので、彼の尙書舜典に后稷とあるは卽ち夫れである。隨て歷代勸農上に於ても諸種の劃策を施したもので、彼の有名なる王安石の青苗法の如く、農民に農業資金を貸付くるが如き、或は耕作上に使用する牛馬の保護と云ふが如き、或は又害蟲の驅除法の如き、此等の事項は隨分古くから實施せられたものである。而かも如上の保護策は近世に至つては、漸



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次細密に亘つて來て種々の關係法令も發布せらるゝに至つたと共に、元と保護に力めた農作物は、主として米、麥、綿、麻と云ふが如き生活上の必需品に局限されて居たものが、漸次に種々の雜穀類にまで及ぶに至つたものである。而して尚他面には倉儲の制を設けて、凶年に際して農民を救濟すると云ふが如きことも、近世に至るまで行はれたものである。斯の如くにして、支那では數千年間農業の保護に力を盡し、歷代崇農抑商政策を踏襲して來たに拘はらず、今日の農業は如何なる狀態に在るかと言ふに、勿論土地の開拓は比較的全國に行き亘つて居ると共に、他の產業に比しては、多少進步して居ると言へないことはないが、尙其の耕作法の如きも頗る幼稚であると共に、生產率にしても未だ極めて貧弱たるを失はない。從て全國の農產物の產額に至ては、其耕地面積の廣大なるに比較して實に微々たるものである。一體支那の耕地面積が果して幾干に上るやは、頗る提言に苦しむ問題であるが、後に詳述する如く、余は諸般の方面から觀察して、いかに少くも六億畝（一畝は我二百坪餘）と推算して居る。即ち我が反別に換算して一億萬町步以上で、凡そ我國本土の十八九倍に相當する。之だけの尨大なる耕地を有しながら、其農產物の產額に至ては、先づ主要食料品として米が約二億萬石、小麥が約二億五千萬石、粟が約二億二千萬石、高粱が約五千四百萬石、大豆が八千五百萬石、綿花が十億斤位である。又生產力から言つても、米の主產地たる楊子江沿岸に於て、平均我が一反步當り一石內外に過ぎぬ。いかに肥沃の地と雖も、二石以上に及ぶは實に稀である。我邦の如きは一反步四石に上るものが少なからぬと共に、全國の平均が一石七斗餘に及んで居る。あれだけ農業の保護に盡し、而かも農民一人當りの耕地反別から言へば、我邦に優るも劣らぬ支那に於て、今日尙斯の如きは、抑々如何なる事由に基くものであるか、蓋し之には種々の原因があらうが、要するに之を約言せば、從來政府の施設が當を得なかつたといふ事に歸するのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 二

元來支那の重農主義たるや、頗る極端に行はれたもので、凡ての政治の基礎を農業に置き、租稅夫役の義務の如きも、一に之を農民にのみ賦課したが爲めに、延いて後世に至つては著しく農民を疲弊せしむるの結果を生じたと共に、極端なる崇農抑商政策の結果は、却て商民を益々富ましむること〻なりて、漸次土地兼併の弊起り、遂に貧富の懸隔を益々甚しからしめ、社會の中堅たる可き自作農が漸次其跡を絶つて、農民の大多數が哀む可き小作人の地位に陷ること〻なつたのである。夫れでも尙近世に至る迄、尙古思想に囚はれた支那の爲政家は、此の誤れる農本主義を以て唯一の思想として固執し、遡つて根本的に國家の主要構成分子たる農民の地位を進めてやると云ふことを忘れて居たのである。其結果は却て啻に農民をして益々困弊せしめたのみでなく、折角農民の作つた農產物も其の利用の途が十分でないために、勢ひ自足的消極的の經濟を立つるに至らしめ、進んで富源の開發に努力せんよりは、寧ろ退いて既成の富を守るに至り、其結果今日の如く遂に人心をして著しく保守的退嬰的ならしめたのである。試に土地の生產に就て例せば、江蘇省は支那に於ける棉花の主產地で、現在其收穫率は我が一反步當り平均實棉百斤內外に過ぎない。處が近年上海に於て外國人の紡績業が勃興した結果、外人が附近の地方で試作して見ると、優に一反步三百三四十斤の收穫がある。然し此の實蹟を支那農民に示して奬勵しても容易に彼等は之を實行しない。此點に於ては旣に領有二十年を經たる臺灣に於ても同樣であつて、從來政府が種々の手段を盡して農事奬勵に力め、耕作法の改良、種子の選擇、施肥の方法等に關して、特に模範農田を設定して實物指導をも爲し來つたが、一般農民は容易に之に倣ふことを敢てしない。元來何れの國に在ても、農業と云ふが如き自然界の束縛制肘を受くるを免れな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い原始產業に從事する者は、勢ひ保守的となるを免れ難いものであるが、特に支那の農民をして斯の如く甚しく退嬰的たらしめたのは、上に敍へた如き過去に於ける政治の罪と言つて差支ない。尙施政上當を得ない點に於て、是非擧ぐ可きことは租稅制度の惡弊である。卽ち地稅の賦課法が極めて不公平で、兎角貧者に重く、富者は輕い傾きがあると共に、國內到る所に厘金局なるものがあつて、貨物の通過每に重稅を課するのみか、其外に尙舊關なるものが所々に存在して、重ねて通過稅を課し、漸くにして開港地に達し、更に他の開港地に運ぶか、若しくは外國に輸出せんとせば、共に輸移出稅を徵收せられ、更に他の開港地に移入せんか又沿岸貿易稅なるものを課せられ、實に生產地から消費地まで稅金攻めの態である。斯くては國內だけに於ても十分有無相通ずることが困難ならざるを得ない。夫れに商工業の發達せない爲め、折角の農民の生產物も、交通運輸の便が未だ十分完備して居ないのと相俟て、此が利用の途が不十分であるから、勢ひ農業の進步を阻止するに至るのである。

今試に一二の實例を擧げんに、支那の茶は產額約五億萬斤乃至六億萬斤で、十八世紀の末葉までは實に世界の市場を獨占して、每年の輸出額の如きも二億三四千萬斤內外に上つて居たものであるが、其後年次印度錫蘭茶の爲めに壓迫されて、今日では漸く全世界の需要額の二割五分を供給するに止まり、輸出額の如きも一箇年一億五千萬斤に下つたのである。斯く支那の製茶貿易の衰退した原因は那邊にあるかといふに、勿論印度錫蘭茶てふ勁敵が出現した結果、支那茶が同茶に比較して品質相應の價格でない爲めに、漸次壓迫驅逐さるゝに至つたものに相違ないが、夫れと云ふは近年支那茶の品質が[redacted]落しないからで、其原因たるや元來茶園に對する地稅の課稅方法が宜[redacted]を得ない爲め、栽培者は勢ひ土地を酷使し、其結果延いて茶の品質を損ずると共に、生產力を減退せし[redacted]ことに加へ、政府は一方茶商に一

種の營業税を課すると共に、彼等に茶の取扱上獨占的地位を與へ、恣に暴利を貪らしめたが爲めに、茶の取引は一に茶商に左右せられて、生産者殊に直接茶樹の栽培に從事する者は、益々困弊の地位に陷ること、なり、夫れに厘金其他の通過税の重い負擔あるは勿論、取引上の慣習として幾多の仲介商の手を經過して、漸く外國商人の手に依て始めて國外に輸出せらるゝ樣な狀態であるから、品質は漸次低落すると共に、其反對に價格は寧ろ上騰するの結果となり、遂に今日の悲境を見るに至つた次第である。次に支那の糖業にしても、現在尙ほ其産額は四億萬斤乃至五億萬斤に上るが、五六十年前にあつては、自國の需要を充たして、尙外國へ毎年少なからぬ輸出を爲して居つたものであるに拘らず、今日では國外への供給は愚か、毎年五億萬斤近くの砂糖を日本香港及爪哇等から仰いで居る有樣で、之が爲め支那は一箇年四五千萬圓の大金を支拂ふて居るのである。其産地から云ふても、甘蔗糖のみでさへ、福建、廣東、廣西、江西、四川と云ふが如き廣大なる土地を有して居りながら、斯の如き狀態に立到つたのは如何なる理由に基くかと云に先づ、第一に直接甘蔗の耕作に從事せる農民は大部分小作人であつて、地主たる製糖業者と多くは主從の關係を有する者である、處が通例製糖業者は土地を貸與する地主として、收穫の一割乃至一割五分を徵收して小作料に充當すると共に耕作費を前貸せる資本家として、貸金の一割五分内外を利子として徵收するが爲め、其の利得する所は頗る大なるも、小作人は之に反して如何に努力して收穫を增しても、結局其利益は地主に歸して、自己の得る所は極めて尠なく、土地の改良は愚か、萬に一を過ては負債を償ふ能はずして、奴隷の境遇に墜落せざるを得ないのである。夫れに近來米及麥の如き常食品の壓迫を被るに至つたに加へ、彼の苛重なる租税の負擔がある爲めに、漸次輸入外糖の壓迫を受くること、なりて、遂に現時の悲運に陷つたものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 三

支那は現在に於ても尚ほ農業國たるの域を脱することなく、其外國輸出貿易は、大正九年に於て五億四千萬兩、即ち邦貨に換算して約十億圓内外であるが、輸出品の太宗とも稱す可きは生絲でありて、輸出年額一億數千萬圓に上り、之に亞くは茶、大豆、豆粕其他の雜穀類であつて、輸出額の七八割は農產品である。爲めに國民の少くも七割以上は、農業に從事して居るものと觀てよい。從つて今日尚ほ支那は、農業を以て立國の基礎と爲して居るものと謂はねばならぬ。夫れにも拘らず、其農業の現狀が叙上の如き不振に陷れるは支那にとり寔に寒心すべきことたるを失はない。支那は其政治上より觀ても、財政の革新を要する點よりしても、要するに其幼稚なる經濟を振興することが緊急事であるが、支那の經濟が、以上の如く農本的の性質を有し、廣大なる土地と、之が開發に適當なる低級生產能力のある無數の勞働者とを有する以上、其經濟を振興するの根本方針は、矢張農業とか鑛業とか云ふ原始產業の發達を圖ることでなくてはならぬ。之を根本政策として、併せて徐ろに商工業の發達を期す可きである。勿論農業の進步と云ふが如きことも、結局其根本策としては、支那の政治經濟に拔出浚源の改革を與ふることを必要とするのであるが、此事たるや遽に實現し得可きことでないから、當面の急務としては、可及的支那の國情の許す範圍内に於て、一面產額の增加を圖ると共に、他面品質の改良を策するの方法を講ずることである。而して今後生產の增加を圖らんが爲めには、支那の人口は比較的稠密であつて、土地の開拓は大體に行き亘つて居るから、先づ其農業を集約することを必要とする。即ち從來土地の利用が極めて粗放でありて、生產力の小部分を姑息の方法に由て利用するに止つて居るのであるから、先づ之が爲めには、一方交通運輸の設備を十分ならしむると共に、他方輸出の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

促進を策することが必要である。斯の如くにして生産物に對して有利なる販路を與へ、以て農民の生産を刺激したならば、其耕作地の廣大なるだけ驚く可き生産増加を示すことが出來るので、過去に於ても其實例に乏しくない。現に近年支那及日本に於ける棉花の需要が急激に増加した爲めに、支那の棉産額は非常なる勢を以て増加し、天津の如き棉花の輸移出が、明治四十一年には僅かに三十八萬斤に過ぎなかつたものが、大正元年に一躍四千二百萬斤に上り、今や六七千萬斤に達して居る。大豆は滿洲の特産物の如く看做されて居るが、曾て日露戰爭に際し滿洲の大豆輸出が一時杜絕せし爲め、當時湖南湖北の大豆産を刺激し、其結果元と漢口に集散せらるゝ大豆は、四五千萬斤に過ぎなかつたものが、如上の機會に乘じて漸次増加し、爾來二億萬斤を超ゆるに至つた。又二十年前に漢口に集散した胡麻の數量が、四五千萬斤であつたものが、一たび獨逸が之が利用を策し、同國への輸出が開始せられて以來、忽ち二億數千萬斤の巨額に達することゝなつた。斯の如く生産品に對する利用の途さへ開かるれば、期せずして生産の増加を見ることが出來るのである。曾て支那の棉作指導顧問として米國より傭聘せられたジョブソン氏は、支那の棉花の將來に關し、北京日報誌上に寄せて曰く『支那の棉産額は、現時少くも八億斤に上るが、將來必ずや米國（五十億斤）の域を摩するの地位に達す可きは、疑を容れない。蓋し現に支那の棉作地面積は、年額十億斤乃至十七億斤を生産せるテキサス洲の二倍以上に相當する地域に及び、尙擴張の餘地が少なくないと共に、天惠に浴することが、米國の如きは到底支那の比でない。且米國に在ては、勞働の關係上、其收穫量は或る程度迄制限せらるゝのみならず、灌漑に依るべきものが殆どなく、作物に水氣を與ふるは、一に天水に待つの外なき爲め、其生長時に於て雨量が平均以下に降り、又は不平均に分布せられたならば、收穫は勢ひ著しく減少するを免れない。而るに支那に於ては廣く分布せられたる灌漑の組織が出來て居り、集約的農法を施し得る可能性がある等、幾

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

多有利なる事情が存在するから、米國にて一ペールの棉花を生産する地積に於て、優に二ペールの生産を擧ぐることが容易である」と。以て如何に支那の農業の前途が、展望無涯の感あるかを知る事が出來るであらう。

# 四

支那農業の進歩を圖らんが爲めには、叙上の如く生産物に有利なる販路を與ふることを第一の要務とするが、從來主として支那の天産物を利用した歐米各國が、今後更に今日以上旺に之が利用を圖るや否やは、戰後の歐米經濟界の實況に照して大いに疑なきを得ない。從來に於ても寧ろ此任務は、當然我國の擔當す可き所であつて、今日迄支那の主要生産物たる大豆、胡麻、落花生、麻、羊毛、豚毛、毛皮等の大半が、歐米に輸出せられて工業原料に供せられつゝあつたことは、我國の産業にとりては一大恥辱たるを失はない。勿論是れは我工業が幼稚たるを免れず、到底此等の原料を利用するだけの力がなかつたが爲めに外ならないが、之れと言ふも、畢竟從來我國では徒らに歐米の模倣工業にのみ沒頭し、固有産業の開發に鋭意努力する所がなかつたからである。今後我國たるものは須らく此豐富なる支那の天産物を、如何にして日支兩國民の生活上に利用す可きかを講究し、支那農業の開發を助成す可きである。而して支那は其輸出を促進す可く、先づ萬一に國内の現行通過税制度を大いに改善し、啻に機械製品のみならず、海外に輸出せらるゝ原料天産物の如きに對しても、一切の内地通過税を全免すると共に、其輸出税の如きは宜しく之を全廢す可きである。勿論支那の如く販路競爭の比較的激甚ならざる農産物の輸出を主とする國に於ては、輸出税は强ち自殺的制度とまで極言することは出來ないかも知れぬが、其輸出品が他國に生産せざる獨占品ではないから、矢張り競爭上不利の地位に立つことゝなるを免れない。殊に支那の如き自ら其資源を開くの力を有せない國に於て、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

輸出稅を設定するは益々其經濟の發達を妨ぐることゝなる。而して又交通機關の開設が、農業の進歩を促す上に於て、寄與する所の大なるは、疑なき所であつて、又過去の事實の明に證明する所である。今後支那の借款に應じ得可きは、主として日米兩國であるから、借款團をして可及的此方面に活動せしむ可く導くことが必要である。從來の如き百弊あつて一利だになき政治借款は、可成之を避けて、此種の生産借款に列國が協力する樣、我國が率先指導者となりて劃策することを要する。尙之と共に支那の河川運河に對する治水事業も亦た、農業を進歩せしむる上に於て、重要事たるを失はない。現に彼の米國の資本に依て企てられた淮河の治水事業の如き、之が完成の曉には、新たに九十萬町歩の耕作地を發生せしむることゝなつて居る。支那の治水工事の完備せない爲めに被つて居る農事上の損失たるや、實に莫大なるものである。今後此種の事業も借款團の手に依て行ふ可き要務である。

支那の農業生産品は、多種多樣であると共に、現時の生産額も決して僅少なるものではないが、唯概して品質上缺くる所のあるを遺憾とする。卽ち棉花の如きも、多くは以て太糸の紡出にしか適せない。羊毛の如きにしても、毛質荒く其まゝでは、以て軍用毛布若くは組雜なる洋服地以外の製造に供するを得ないとせられて居る。併し羊毛の如きは、戰前より旺に米國に於て之を使用しつゝある點より觀れば、之を利用するに足るだけ我國の工業が進歩して居ないものとも言へないことはない。加之此等品質上の缺點は、之を改良することが必ずしも難事ではない。現に滿鐵や青島軍司令部の試驗場では、羊毛の改良に相當の成績を示し、東拓の山東棉改良に於ても、在來種では反當り六十斤乃至八十斤の收穫を得るに過ぎないが、米國陸地棉の試作に於て、優に二百斤乃至二百五十斤の收穫が得らるゝのみならず、纖維や色澤等も大いに改良され、確

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に二十番手以上の綿糸の紡出に適することが實證せられたと稱せられて居る。支那政府に於ても、近年愛に留意し、農業試驗所をも設立するに至つたが、未だ見る可き實蹟を示すに至らない。此種の事業は、財政の窮乏せる點よりしても、技術の幼稚なる點より觀ても、到底支那自身の實行出來得可きことでないのは勿論、建國以來未だ曾て斯る積極的政策を施したことのない支那に於て、實蹟を擧ぐることは實に容易でない。是非とも先進國の助力に俟たねばならぬ。於是乎、此等の原料を有利に使用して、初めて經濟の發展を期し得る立場に在る我國としては、進んで支那を指導して、之が改良を助成せしむるの策を採らねばならぬ。而かも其結果たるや、彼我共に多大の利益を享取することが出來るのである。支那の農事改良に於て實蹟を示した著しき實例は、山東省に於ける英米煙草トラストの米國種煙草の普及である。同トラストは過去十年來、山東省の煙草の栽培に適應せるに着眼し、米國種子を輸入して農民に分與し、且肥料又は肥料代金を供給し着々實蹟を擧ぐるに至つた其巧妙有力なる遣方は、確に對支企業家の模範ともなる可きものである。其結果今や同省は優良なる煙草の生產地となり、青島よりの輸出額のみにても、五百萬圓を超ゆるに至つた。此等の事業は、夙に邦人の手に依て實行せられて居らねばならぬので、今後は各種の農產物に對して如上の事業に鋭意劃策す可きである。

# 獨逸の物價調節と暴利令（下）の一

田原天南

## 五　物價刑法

（二）絶對的物價の拘束（承前）

最高物價法に對する制裁は、前述の如く頗る峻嚴であるが、二回以上の累犯の場合（故意の最高物價法違犯若くは故意の不當なる物價釣上）は一層嚴罰を以て處分さるゝのである、即ち物價引上處罰令第三條、之れに連繫して密賣買所罰加重法第三條に據り、五年の懲役刑及五百萬マルク迄の罰金に處せらるべく、猶は最高價格で賣り得た賣得金の全部が沒收されるのである、所刑は之れに止まらず犯狀の重大な場合は、荷造りや運搬に使用した物件も所有者の如何を問はず悉く沒收される、其上に故意の最高物價法違犯者には公權も剝奪され、又累犯中情狀の最も重い者には警察の監視を付する事となつて居る、而して刑の宣告は故意の最高物價法違犯者に對し、違犯者の費用で一般に公告し、違犯者の營業所前にも張り出して制裁を加へるのである。犯狀の重い場合には以上の處罰の上更に日常必需品の商取引を全然禁止さるべく、刑期滿了後二年になつて始めて商取引を許される。營業の持主若くは之を代理して店務を指揮する使用人が、警察の監視を破つた場合は一年以下の懲役及び五十萬マルク以下の罰金に處せらるゝ。要するに獨逸に於ける暴利者處罰法は頗る嚴峻で、酷に過ぎはしないかと思惟せられるが、暴利者は元來厚顏無恥、國民を犧牲にして其の膏血を搾ばり取る最も惡むべき敗德漢だとすれば、暴利者及び累犯者に對して峻嚴な刑罰を加へ、之を懲戒すると共に他を警省するは極めて必要な事である、少數の暴利者を罰して多數の國民の利益を增進する事は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爲政者として正に取るべき方法である、我日本では世界第一の最高物價國と呼ばれ、多數國民の困難實に名狀すべからざるにも拘はらず、暴利を貪ばる奸商（我國の商業道德の低級なる上は問屋、卸屋より下は小賣商、雜貨商、闇れ賣、行商に至るまで詐欺的奸商と稱しても可なる程で、正直なる商人は實に寥々である）に對する制裁は實に緩漫で、折角問題になり掛けた暴利令も農相以下の反對で暗中に葬むられたとか傳へられ、國民大多數の利益を度外無視して、少數の暴利者を保護するとも見らるゝ狀態であるのは實に遺憾である。

獨逸の前述最高物價法は物價の境界を定めたものであるが、其外に物價の種類を定めた法律又は命令がある、此等はそれ〳〵當該法律（物價檢查所法及び物資配給法等）により違犯者は處罰せられる。獨り中央政府が此の物價最高の境界を定め得る許りでなく、物價檢查所法及千九百十五年九月二十五日の物資配給法によれば、最高物價法の施行法によれば最高物價を定むる權能を持たない市町村役場も上級監督官廳の許可を得て、若くは該上級監督官廳それ自身が、一般人民の爲め必要なる生活需要品の定まりたる物品に對し適當の價格を定むる規則を發布する事が出來る、此の必要なる生活需要品（Gegenstande des notwendigen Lebensbedarfs）と日常必需品（Gegenstande des Taeglichen Bedarfs）との間に著しい相違がないから、實際は同一に取扱はれるが、此の法律に違犯した者に對し、六箇月以下の懲役刑又は一萬五千マルク以下の罰金に處するが、賣得金の沒收、附加の制裁（公けの廣告）に處する事は許されて居ない。

最高物價法の制定は、物價の暴騰を防ぎ、暴利の奸商を懲らすには極めて適當であるが、さて是れが實行となれば中々困難で、獨逸は戰時中重要需用品の配給を政府が管理し、物價の高低は政府が隨意に定め、圓滑に行くべき筈に拘はらず、實際は施行困難の爲め、戰後强制管理法が改正され、自由販賣を許された物品に對しては、政府は最高物價法を適用せぬ物もある。而して各聯邦に於ける最高物價法の運用如何と見るに、該法施行の結果、商品が最高物價法で價格の制限を附せられた地方から、より高き最高價格の地方又は最高

物價の定めなき地方へ(最高物價法の施行如何は各聯邦の狀態による事となつて居る)移動する傾向あり、往往有名無實となる爲め、各聯邦の中央政府又は地方官廳は此等の商品に對し、輸出禁止を爲す事とした、然れども此等の規則は通例物資過剩地の利益の爲め發布せられ物資需要地には不利となるので、獨逸では是れが善後策をも考慮し、それ〲處分法を講じて居るが餘り煩冗であるから略する。

(二)適當と認むる物價の公定

此の物價の公定は最高物價法に比し其の效力が薄い、公定は最高物價を決定するの權能を有す官廳より取り極め發布されたものが有效である、食料品及家畜飼料に關しては千九百二十一年四月十六日の配給法により地方廳に物價を公定せしむる事を許さない、是れは最高物價法決定の場合と同じく種々の弊害があるからである、どうも此の正しき物價(Richtpreis)を官廳で公定すると云ふ事は實際に於て困難な事であり、適當の價格であるか否やの標準を定むる事は容易でない、假令へば昨年末各地に於ける馬鈴薯市場の困難な場合に食糧及農務省が各聯邦政府に勸めて各馬鈴薯產地に地方的委員會を組織せしめ、農業者、商業者、消費者側より代表者を出さしめ、官廳の議長の下に正當なる物價を評定させたのである、此の評定した正當の價格が暴利者處分に就て刑事問題の基礎となるのであるが、畢竟名は美なるも、適當なる物價の公定は、實際上容易でないので、獨逸の物價調節上には餘まり重きを置かれて居ない。

(三)數字的物價範圍の列擧による形式的自由相場

官廳が數字的に物價の範圍を公定して之を列擧し、之に違犯する者を暴利者と看做し、物價引上處罰法及密賣買處分法により處罰するのであるが、此の暴利者なる名稱に就て一寸說明するの必要がある。戰前に於ける獨逸刑法の定義によれば、他人の窮境に乘じ、又は輕率及無經驗を奇貨とし利益を貪ぼる者を暴利者(Wucher)としてあるが、戰時中及び戰後に於ける各法律に現はる、暴利者とは全然之に反し、一箇人の究

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

境に乘ずる云々の意味を超越し、國民の究境に乘じて不當の利益を貪ばる者を一般に指すので頗る廣き意味を有するから、之を社會的暴利者（Sozialwucher）と稱するを適當とする、而して今日物價暴利法（物價釣上處罰法によれば日常必需品及軍需品の取引に於て暴利を貪ばる者を嚴罰するのであるが、軍需品の方は平和の今日最早不用の規定となつたが、日常必需品の規定は益々必要となつた。

此の日常必需品の定義範圍に就て、獨逸では屢問題起り、裁判沙汰となり、種々の判決例もあるが、物價釣上處罰法（暴利法）最初の規定によれば各種の食料品及飼料、未製の天然物、暖房及點燈材料を日常必需品としてあるが、斯かる列擧は到底不完全で、日常必需品は時と場合、需要者の位置身分、配給の關係等に異なるので、最初の規定は最早廢止されたのである。一般的解釋としては日常必需品は有體動産を指し、不動産、建物や使用權等の無形物は日常必需品の中に含まない。又日常必需品の物體としては國民の廣き範圍に於て即時的滿足に供せらるゝ物を云ひ、各人が日々需用する事を條件とし、或る需用範圍だけに缺くべからざる物體であるからと云ふ事は日常必需品の解釋には必要でない、原料品の如きも、それが果して日常必需品の製造に必ず使用せらるゝものとなれば、矢張り日常必需品の中に含まるゝのである。

國民總體の需用と云ふも、國民の大なる範圍に於ての需用なれば假令へば工業、營業、商業、農業又は公やけの行政等で、或る物件を規則正しく需用して居れば、是れ亦日常必需品である、有產階級の嗜好品も、彼等富豪が日々の必需品なりとすれば、是れ亦日常必需品で、暴利取締法は啻に無產階級に對する保護のみならず、有產階級に對しての暴利も同じく處罰する次第である。實際の奢侈品即ち國民の多數缺乏にしても差支なき物件で、一般の生活に影響の無い物は日常必需品の範圍外である。

暴利令の範圍は單に賣買の場合に限られたるかと云ふに交換をも含むが、之に反して勤務、服役等の勤勞契約による報酬は之を含まない、最も混合契約即ち半分は勤勞、半分は物品を以てする契約で、物品の方が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

重きを爲す場合には同じく暴利取締法の範圍である、所謂臨時的暴利者(Provisionswucher)即ち日常必需品又は軍需品取引營業の紹介を爲し不當の利を貪ばる者も暴利取締法の制裁を受くるのである。

此等の原則により暴利取締法第一條により不當の物價を釣り上げたる者は、故意の最高物價法違反者と同じく處罰さるゝが、今該法第一條の規定を掲ぐれば

暴利取締法(一九一九年五月八日發布)第一條　不當なる物價値上を爲したる者は懲役刑及二十萬マルク以下の罰金又は兩刑の一を以て處罰せらる。

一　何人と雖も故意に日常必需品又は軍需品に對し全體の關係より見て不當の利益ありと認むる價格を要求し、又は他に提供せしめ又は約束せしめたる者。

二　何人と雖も故意に日常必需品又は軍需品取引の紹介に對し全體の關係に於て不當の利益ありと認むる報酬を要求し、又は他に提供せしめ又は約束せしめたる者。

三　何人と雖も日常必需品又は軍需品を製造し又は取得し不當の利益を得る目的を以て之を貯藏する者。

四　何人と雖も故意に日常必需品又は軍需品の價格を不正なる策略殊に連鎖取引 Kettenhandel により釣り上げたる者。

五　何人と雖も日常必需品又は軍需品の價格を釣り上ぐる目的を以て貯藏品を用ゆる能はざる狀態に破壞し又は其の製造又は取引を制限し又は他の不正なる策略を用ひたる者。

六　何人と雖も故意に上記第一乃至第五の所罰事項に關する交渉に參加し又は連絡に加はりたる者。

七　何人と雖も故意に上記第一乃至第五の所罰事項に關し他を勸誘し刺激し又は提供したる者。

輕率の違犯者、累犯者、特別の重き犯狀ある者及警察の監視義務者に對する處罰實得金沒收及附加刑に關しては最高物價法に於ける規定に從ふのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# みどりさんご樹（綠珊瑚）

金平生

綠珊瑚は嘉義郡海口厝の海岸から、漸次南方の屏東郡東港に至る一帶の、海濱の砂地や老虎石の上に生へて居り、特に高雄街の海岸に多く、又彭湖島にも各所に散在する小灌木である、又臺北やその附近にも栽培品を見受ける事がある。この樹の特長は、枝が圓筒狀で、綠色を呈し、恰も珊瑚の形に似て居るので、みどりさんご又はあをさんごと呼んで居る。

更にこの樹を仔細に觀察するならば、葉は節を有し、著大で折れ易く、切口からは乳の如き液を分泌する。小枝の先端には時として小さな鱗片を附着するが、この鱗片は葉である、何故箇樣に葉が小さいかと云ふと、海岸や岩石のある土地では水分が非常に少いから、可成蒸發作用をしない樣にするため、葉は次第にその形を小さくした。

然し空氣中から養分をとる處の同化作用は止める譯に行かぬから、小枝の中にクロロフイル卽ち葉綠素を蓄へる樣になつたものと見える。言ひかへれば、枝が葉の代理をして居るのである。

花は小枝の先端か又は分岐點に出來るが、極く小さく且つ稀に咲くのみである。臺北附近の土人は、この樹に花が咲くと、地面か陷沒するか又は搔亂があると云ふ。明治三十七八年の日露の役があつた頃、臺北枋橋街林鳥九の宅にあつたみどりさんごが花を著けた、といふので騷いだことがあると云つて居る。

この樹は元と東アフリカの原產で、枝は挿木により繁殖する。熱帶地の海岸に廣く分布して居るのを見ると、多分海流によりて播布したものと想像せられる。この樹の枝は勿論樹膚に傷を付けると、白色の乳液が出るが、過て之が人間の眼に入ると危險であるから注意せねばならぬ。英名にてミルク、ブッシユ又はミルクヘツヂ、臺灣土名は鐵樹、宜呼樹と云ひ、主に藩籬に用ひられる。

この樹から出る乳液の利用につき初めて研究したのはハイネ（一八一四年）で、その後種々の研究結果か出て居るが、未だ具體的に利用する域に達して居らぬ。臺灣でも先年研究した事がある。その成分はまだ確定せぬが、恐らくはガツタペルカと彈力護謨との中間のものであろふと云ふ事である。若しこれが果してガツタペルカの代用品となす事が出來るならば、更らに研究の價値があると思はれる。臺灣に於ける生產量はどの位あるか分からぬが高雄を中心とする海岸で面積總計百五十町步位かと思ふ。多くは只單に所々散在するのみであるから、利用を目的とするならば、更らに增殖を計らねばならぬ。何れにしても、この樹はその形態特色があるので、內地の觀察者や旅行者が、最も奇異に感ずる植物の一つである。臺北植物園には高さ一丈餘のものが數本栽培せられてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

調査研究

# 鰹漁業の南遷に就て

水產學士　宮上龜七

## 一　本年の漁況良好

今年は昨年より約十日早の四月二日、臺灣海陸產業會社の興登里丸が約四千貫（節値として千五百圓）の初漁の大漁で、鰹漁業者は頓に景氣を加へた。然れども本年も例年の例に洩れず、四五の兩月は餌料鰮の缺乏にて一時困つたが八方手分して基隆港附近は勿論、金山、野柳、澳底、印灣、と東奔西走して餌料購入に狂奔し、臺北州鰹漁業の興廢は餌料供給の難易にありとし是等地方の庄役場又は地方有志と連絡を取り、其地方々々の地曳網及焚寄網漁況通信を取り、又鰹漁業者の餌料鰮の持高と購入價格を通信させ、之を一纒として鰹漁業者と本島人鰮漁業者に通信し、兩者の融和連絡を計り、餌料鰮の缺乏の緩和に努力した結果、此四五兩月十一萬五千貫（前年七萬四千貫）と云ふ記錄を作り、六月に入りては餌料廻り順調を來し、鰹群亦た濃密、魚體も四五月頃五六百匁のもの漸く四つ節の一貫目近くとなり、漁場も次第に與那國、盲目曾根、先閣列島等と擴大し約二十萬貫（前年八萬貫）の漁獲高となり、更に七月に入りては漁場は近海となり、基隆島西

万約十哩内外の三貂角の鼻、龜山の瀨、蘇澳瀨等一日航海の近海漁場となり、且餌料廻り益々好況を加へ、例年の如く餌料缺乏出漁不能の如き殆ど皆無の狀態にて、既に同月末を以つて前年の全漁獲高より二萬貫を超過し、八月に入つて一寸北部近海に低氣壓通過により、捗々しき漁事なく、例年の通り同月末三四の休業者を出せるが、九月に入り俄然例年に見ざる海況を呈し、鰹群三貂角棉花嶼及富貴角近海の、基隆より十四五哩の沖合に現はれ、一日二航海で、工場には生鰹山積され、處理困難の爲め、漁獲制限をなした處もあり、本年は鰹撈界は比較的順調に經過し、今分では鰹節生產高百八十萬圓は無理のなき觀測である。

翻つて內地漁況は最近までの各地報告を綜合するに四國東海道東北方面は何れも不漁にして、九州沖繩にかけて多少漁事ありしも思はしき漁獲なく、水產講習所某技師の六月末各地方報告を綜合しての報告によれば、各地方の漁況は著るしく不漁で、昨年の其半分にも達せないだらうと。昨今までの大阪東京方面の鰹節主要市場の商況を按ずるに、三四月の新舊節の端境期には臺灣本節にて一時百圓臺(十貫建)を破り、財界の不況を水產關係主力銀行破綻の爲め、節値の前途を悲觀されたる向きもあつたが、五月に入り百十五圓、六月に入り百二十圓乃至百三十圓、七月に入り百五十圓乃至百六十圓、基隆渡し百三十圓と云ふ高値を呼び、各地盛漁期に向ふに連れ、節値は例年は下向きとなるを通例とするが、本年は反對に反撥して高値を呼ぶ狀態にして、節市場の氣配より見ても本年の鰹漁況は全く不漁と見るより外無いのである。臺北市內の物價指數中、鰹節は好景氣時代に比し多少下落の傾向あるも、其率たるや極めて僅少のもので二九一指數を保つて居る、之は決して本島のみならず、內地鰹節の物價指數も殆ど之に類似したものである。內地は近年鰹漁業は引續き不漁にて、一時二千萬貫に達せんとせしも、大正八年には其約三分の一に減少し、年々減少の傾きにて、他方需要は交通機關の發達と、人間が次第に贅澤となつた結果、益々增加する狀態なるを以て、鰹節値は茲暫く下落の見界立たず、寧ろ本年の秋口より冬に掛けては二百圓臺に達するならんと觀測さる。

然るに臺灣の鰹漁業は茲三年經營順調にて、漸く基礎確立せんとし、且年と共に發展の傾向にあり、昨年生鰹四十七萬貫のもの本年は八十萬貫に達し本漁業の前途眞に祝福に耐へざるものである。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 二　鰹の習性と分布

（一）體の構造最も活動的なり。鰹、鮪、の類は從來學界で鯖鰆類と同じくScombridaeの内に包含せられて居たが、最近東京帝大の岸上博士が十有七年苦心研究の結果、是等をサバ科、サワラ科、シビ科の三とするが適當なりとし、最近農科大學紀要によりて發表せられ、鰹は其中シビ科の中に包含する樣になつた。

人間が考案して水中動作に最敏捷なるものは現在に於ては魚形水雷の形である、然らば鰹の形體は魚類中最も魚形水雷に類似し居り、從て海中に於ける鰹の動作は實に敏活なるもので、漁撈中餌料漁りに來る有樣は全く矢の如しとは、斯るもの丶形容を稱するのであらう。從て體の構造が活動的に出來てゐる、先づ體表は、魚は普通鱗を以て被はれて居るが、鰹は胸部に存する一部荒皮と稱するもの丶外鱗無く、滑かで脊上には凹所を有し脊鰭を之に收納せしむる構造にて、運動に對して可成抵抗を少くし、敏捷ならしむる樣になつて居る、又た内部の構造に於ても其れを認める、所謂吾々が刺身にして嫌な、血合なるものは血管系中の毛細管の發達したもので、運動を敏捷にする必要上、體の中樞即脊椎骨の運動を必要とし、其周圍の筋肉に血行系の發達を助長せしめたものである、又た消化器の如きも活動を敏活にする必要上、消化を速かならしむる爲め、幽門垂（みのわた）の部分を發達せしめて居る、鰹は體の各部の構造が斯く活動を最敏捷ならしむる樣に構成されて居る、之は群居をなして索餌及保護上の必要から起つたものであらう。

（二）鰹は廣く世界的に分布して居る。鰹は暖流の清水を好み團體的生活をなし、餌を取るにも群をなして之を取圍み攻め寄せるのであるそして其分布も廣く世界的であつて、本邦では臺灣、琉球、九洲、土佐、紀州、靜岡等の黑潮流域に多産し、北の青森邊まで分布するが、同地では漁期は二三箇月位の眞夏の期間だけであるが、南になると琉球の如きは本年は二月に初漁を見終期は普通十月である、本島では四月二日の初漁で約二箇月遲れて居る。本島では鰹漁は年中行ひ得るが、餌料の關係上十一月より三月までは從業せないまでであつて、冬でも南部海面には洄游して居て、北部でも一二月頃屢々曳縄にかゝることがある。又世界に於ける

分布は吾人の知れる處では南洋の新占領地には到る處に產し、ボルネオで南洋開發組が漁業して居たタワオのマベル島附近には鰹の大群を以て數哩の間を埋めて居ると云ふし、又た布哇に於ける邦人漁業者は鰹を盛に漁獲し居り、近着の米國の漁業雜誌によれば南加州にては鰹は縞鮪（Striped tuna）の名稱にて夏の後半期間釣漁法で漁獲され、鑵詰として市場にして居るが、新興の漁業で、將來大いに有望視すべき漁業であるとされて居る、墨國にも亦た產する。

鰹の洄游に就ては未だ之を明かにすることを得ないが其の敏捷なる點よりする時は大區域に亙り洄游することは困難でない、本邦では明治二十年頃には潮の岬の脚下、東京灣の入口で獲れたものであるが、次第に漁場が延びて伊豆七島、八丈島となり、近頃では小笠原島と三四百哩も出漁する樣になり、臺灣でも鰹漁業創始の當時明治四十三四年頃は漁場は基隆島附近であつたが、近頃は蘇澳瀨、與那國、盲目曾根、尖閣列島と、基隆より五十哩乃至二百哩も出るやうになり、漁場は各地とも次第に遠隔に延びる樣になつた。

（三）鰹の洄游の方法は不明なるも大區域に亙るものである。鰹の洄游は大體垂直的及平面的洄游に分けて考へることが出來る、後者の平面的洄游は又海岸に平行と直角に分けて考へる必要がある、英國のミイリ氏の如きは鯖の洄游は夏期トロール船で漁獲し、多は流網で捕る所より推して垂直的洄游として居るが、鰹は垂直的運動ではないが平面洄游の何れに屬するかは不明である。東北地方では七八月の候、北の方に上つて十月頃には歸つて行くと云つて居るが、東海道四國九州南加州にては多分は全く姿を見せない處から平面直角的運動でもない樣である、と云つて平面的運動と斷定も出來ない。臺灣でも菲律賓方面より夏分洄游して北上し、多分南に歸るとも思へない、又多分になつて沖合に消へ去るとも思はれない、然し鰹に近親族の本島東部沿岸に來游する惣田鰹は、確に產卵の爲め南より北の沿岸に來襲するものにて、鰹の洄游の如きも何か、是等に類似したる原因により洄游するに非ざるか、現に角現在では鰹は夏分に限られ多分は何れにか消え去るもので、其洄游の區域は速力から推して廣汎の海洋に亙り暖流性のものであることは確かで、從て南に多くて北に少いとも云へるが、然し何故に又如何に洄游すると云ふことは全く不明である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 三　本邦の鰹漁業

鰹は元來中古にては輕視され、徒然草にも下賤の輩にも賞美されなかつたと記されてある位、一向振はなかつたが、德川時代に至り上下逸樂に耽り好んで賞美し「初鰹一兩までは買ふ氣なり」と川柳まで歌はれ、鰹節としては祝賀の意を表し、贈答用に使用さるゝに至り益々珍重され、隨つて此時代より鰹漁業は隆昌を來して居る、明治に入り一層盛んとなり、明治四十一年頃より石油發動機が鰹漁業に利用せられる樣になり、益々隆昌を來したるが、大正五年より發動機漁船により濫獲したる結果、漁場を荒廢せしめて下向きとなり、近年は年々衰退に傾き成漁時代の三分の一にも達せざる狀態になりつゝあり。（左表參照）

□鰹漁獲高統計□

| 年次 | 漁獲高（貫） | 備考 |
|---|---|---|
| 明治三十二年 | 九、六八八、[illegible]一五 | 和船漁業時代 |
| 同　三十七年 | 八、四一七、二四九 | 同 |
| 同　四十年 | 八、八〇八、二六四 | 同 |
| 同　四十二年 | 一[illegible]、七四一、五八〇 | 發動機船勃興時代 |
| 同　四十三年 | 一一、〇五七、九一四 | |
| 明治四十四年 | 一三、一九一、八九二 | |
| 同　四十五年 | 一[illegible]、二九七、九[illegible]五 | |
| 大正二年 | 一一、二七[illegible]、[illegible]九〇 | |
| 同　三年 | 一四、三五八、〇八七 | |
| 同　四年 | 一九、二〇九、二六一 | |
| 大正五年 | 九、四七七、六七九 | |
| 同　六年 | 八、八六六、八五六 | |
| 同　七年 | 七、六九八、九五四 | |
| 同　八年 | 六、六八〇、二八一 | |

現今主要漁業地としては大正八年統計によれば、高知、沖繩、鹿兒島、福島、靜岡の順位であるが、五年前大正三年の順位は、鹿兒島、靜岡、高知、福島、巖手、又た其五年前明治三十二年は、福島、靜岡、高知、鹿兒島の順位なるが、左表は便宜上九州帶（九州沖繩）、四國帶（四國より潮の岬まで）東海帶（潮の岬より犬吠岬に至る）東北帶（犬吠岬以北）にかけ五年置きに是等五地方の代表的鰹漁業地を二十箇年統計を記載せるものなるが。鰹漁業は初め東海帶、東北帶が其の首位を占め來りたるが、大正三年以降に至りては九州帶著るしく擡頭し來り、四五年頃は沖繩の鰹漁業の如き殆ど其の存在さへ危ぶまれたる狀態のもの第二位を占め、東北、東海帶は殆ど優勝圏内より脫し去りたるを認むるを得之を概括して云へば「鰹漁業は次第に北日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本は衰退し南日本が興隆を來たし斯くて鰹漁業の南遷を立證することを得るに至つた。

| 縣別＼年度別 | 明治三十二年 | 明治三十七年 | 明治四十二年 | 大正三年 | 大正八年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 千葉縣 | 九九九、八二九、〇〇〇匁 | 四四、〇六七、〇〇〇匁 | 七二三、四三六、〇〇〇匁 | 七九九、三〇八、〇〇〇匁 | 三四八、四九六、〇〇〇匁 |
| 静岡縣 | 一、九七八、三五一、〇〇〇 | 八三、〇六二、〇〇〇 | 一、八六六、三七一、〇〇〇 | 二、一〇七、六六九、〇〇〇 | 四一六、八〇八、〇〇〇 |
| 福島縣 | 五〇八、六八三、〇〇〇 | 五九三、三二八、〇〇〇 | 一、九六七、四六七、〇〇〇 | 一、〇八二、七九三、〇〇〇 | 四九二、三六七、〇〇〇 |
| 岩手縣 | 二七四、七四五、〇〇〇 | 四九二、八〇三、〇〇〇 | 四九七、七三一、〇〇〇 | 一、〇七五、二八七、〇〇〇 | 一一九、八九六、〇〇〇 |
| 和歌山縣 | 二六五、三八三、〇〇〇 | 二四五、〇三一、〇〇〇 | 三二一、九二九、〇〇〇 | 三九六、七三七、〇〇〇 | 二六一、一四〇、〇〇〇 |
| 高知縣 | 一、〇三五、三六一、〇〇〇 | 一、四七五、五九二、〇〇〇 | 一、三八三、七七三、〇〇〇 | 一、二三二、三五〇、〇〇〇 | 一、一八七、一三六、〇〇〇 |
| 鹿兒島縣 | 六〇一、一八一、〇〇〇 | 九二三、六六六、〇〇〇 | 一、〇〇三、九七〇、〇〇〇 | 二、九九七、六二七、〇〇〇 | 八八一、七八一、〇〇〇 |
| 沖縄縣 | 一三、三二五、〇〇〇 | 一八、四四四、〇〇〇 | 二六四、四五一、〇〇〇 | 四九〇、九三八、〇〇〇 | 九〇八、一三二、〇〇〇 |

而して注目すべき現象は鰹釣漁船が次第に増大し、遠洋に出漁すること、なつたことである、大正八年の漁獲高統計上静岡縣は僅少額なるも之は鹿兒島、土佐海、巖手沖縄等に出漁し、其漁獲高は其地方々々の產額に編入せられたからであるが、静岡縣人の鰹漁獲高は恐らく全國中其の右に出るものなかるべく、大正八年實に五百四十萬圓の巨額に達せりと云ふを以ても其一般を知るに足る、從つて同地方の漁船は全國の模範とするものにして、同縣の櫓漕船時代には漁場は伊豆七島中、御藏島以北に限られ、八丈島に出漁するものなかりしが、石油發動機附漁船利用されてより、漁場は漸次南方に擴大され、八丈近海は勿論、小笠原島、土佐海、薩南方面の奄美大島等に出漁するに至り、此の異狀の發達に伴ひ船型は次第に増大され、現在にては七十五噸百二十馬力のものを建造せるものあり、近くは鋼鐵製大型船を新造せんとするものありと聞くが、静岡大型鰹漁船が大擧して本年薩南海遠征の高唱さるゝや、鹿兒島の山川方面の鰮漁業者、鰹漁業者等は之に對抗せん爲め大いに善後策を講せると、又た沖縄の鰹漁業は近時目覺しく發展を遂げ、現今は節の生產高二百五十萬圓に達せりと云ふ、斯の如く內地鰹漁業は漁場は次第に遠洋に擴大され、各地方共船型噸數の増大

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、石油發動機を蒸汽機關に改造せんとする傾向にあり、而して北日本の鰹漁場は次第に荒廢し南日本に移動しつゝあり小笠原、薩南海、沖繩方面の漁場は近時益々擡頭しつゝあるのである。

## 四　本島の鰹漁業

本島に於ける鰹漁業は明治四十三年の創始にして、前年度は約百萬圓の年額に達し、本年は百八十萬圓に達し惣田節を加へて二百萬圓は動かざる所である。本島には鰹は東部海面の黒潮流域に洄游し、西部は屏東郡、小琉球嶼近海までにして、臺灣海峽には棲息せぬ。漁場としては北は尖閣列島より、東は與那國、八重山の沖、南は紅頭嶼火燒島鵞鑾鼻沖に至る。北部海面では冬期は少きも、南部海面には鰹群濃密にして、昨今現漁業者の一二は年中を通じて漁撈せんと云ふものゝ生ずるに至つた。然れども從來餌料供給難の結果は漁期は四月より十月までなりとされ、盛漁期は六七八の三箇月間である。漁船も創業時代には十五馬力二十馬力の小型發動機船により基隆島沖合にて大漁し來れるものであるが現今は五十馬力六十馬力と成り、年々船型增大し、本年は從業船十九隻、馬力數八百二十五馬力前年より百五十五馬力の增加である。大正八年の最盛時二十七隻九百三十馬力に比し敢て遜色ない。今創業以來の漁獲高從業船馬力數を示せば次の如である。

□創業以來鰹漁獲高表□

| 年次 | 從業船數 | 馬力 | 漁獲高 | 一馬力當り漁獲高 |
|---|---|---|---|---|
| 明治四十三年 | 一 | 二五 | 一六、〇〇〇 | 六〇〇 |
| 明治四十四年 | 四 | 六三 | 四〇、〇〇〇 | 六四〇 |
| 大正元年 | 一四 | 二三五 | 二三〇、〇〇〇 | 九八〇 |
| 大正二年 | 八 | 一三五 | 一四〇、〇〇〇 | 一、〇四〇 |
| 大正三年 | 七 | 一三三 | 一〇四、〇〇〇 | 七八〇 |
| 大正四年 | 八 | 一五二 | 三〇一、〇〇〇 | 一、九七〇 |
| 大正五年 | 二 | 二二〇 | 四一六、〇〇〇 | 一、八八〇 |
| 大正六年 | 二〇 | 五〇〇 | 三四〇、〇〇〇 | 六八〇 |
| 大正七年 | 三〇 | 九〇〇 | 四一八、〇〇〇 | 四六〇 |
| 大正八年 | 二七 | 九三〇 | 五一八、〇〇〇 | 五六〇 |
| 大正九年 | 二一 | 七〇五 | 五〇九、〇〇〇 | 七二〇 |
| 大正十年 | 一八 | 六七〇 | 四八〇、七一六 | |
| 大正十一年 | 一九 | 八二五 | 四九一、八二四 | 七月三十一日末蘇澳除く |

鰹漁業の將來を觀るに、生産能力を左右するものは漁場の廣汎、餌料の供給能力及製造能力に起因する。第一の漁場の生産能力は現在海洋調査不充分にして斷定を下すことは出來ないが、現今の五十萬貫以上の生産は困難でない。漁場としても現今にては漸く北部漁場の開拓されたるのみ、其漁場の廣汎なるは尚は充分漁船　加の餘力がある。尚は中部漁場は殆ど手を染めずと云ふを得べく、鵞鑾鼻沖よりバリンタン海峽にかけては該方面出漁者の言に徵するも魚群は可なり濃密のもので、七月十九日長崎の第八大黑丸と云ふ百二十馬力乘組員六十人の大型漁船は基隆にて餌料鰮三十六籠を積込み、バリンタン海峽に遠征したと云ふから、此方面も相當漁獲あるものと見て可からう、從つて未だ漁場の生産能力は悲觀の要ないのであらう。

餌料供給能力に就ては由來非常に論議せられた問題で、吾人としても斷定的議論を下すことは避けるが臺北州下沿岸の地曳網漁業の鰮を鰹漁業者に供給するを得ば敢て悲觀の要ないであらう。要は內臺漁業者の融和連絡を計り如何にして圓滿に供給するを得るかにあるのである。

第三は製造能力であるが現在は製造工場九箇所で一漁期間(九十日)普通能力で六十五萬貫を消化し、少し馬力を掛れば優に百萬貫は困難でない。鰹節製造業は他の工業の如く機械力を利用する所少く、多く勞力によりて如何にでも增減することの出來るもので、他の生産能力が如何に增大するも製造工場の規模小さき爲め他を制限する如き事は無く、勿論悲觀の要はないが唯だ本島では職工の多くは內地より漁期間招聘せざる可らざる結果、生産費極めて高率にし、從來の經營難は全く之に起因して居るから、吾人は敢て玆に臺灣の鰹節生産能力か製造能力の一項を加へたるもので、臺灣では生賣りナマリ賣りは全く行はれない。

由來本島鰹漁業は、漁場の近海なると根據地の完備せるにより、內地在住鰹漁業者の垂涎措く能はざる所にして、其一航海二日の日數にて、能く一千貫の漁獲を擧ぐるが如き、到底內地の同漁業に見る能はざる好成績なるに拘はらず常に經營難に陷り、昨年の如きは二十隻に滿たざる從業船にして鰹漁業不振の原因は實に製造困難による生産費の高率に失するが爲である。鰹漁業が本島にては全く新興の水産業にして、漁獲製造共に、內地より漁夫職工を招聘せざる可らず、創業後二三年間は製造の不熟練と、內地招來職工漁夫の本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島氣候風土に馴れざる爲め、疾病者續出し製品は粗惡にして十九圓(十貫建)の仕切値を出したる如き、幾多の經營難に陷りたることあつた。內地の如く農閑を利用して、節製造業を家內工業の如く副業的にし、工賃を副產物にて仕拂ふ如き經營をなす能はず、本島にては高き勞銀に往復旅費を仕拂ひ招來せざる可らず、且常時一定數の生鰹を消化すべき職工を備へ置くを要し、其結果全能力の發揮は一漁期間僅少にして、之が爲めに要する失費多大である。本年の如き製造費二十三四圓見當で、原料を加へると八十四五圓を要す、本年の鰹漁業の景況の好いと云ふのも要は節値の高き爲めにして、例年の如く百圓臺を破らんか、本島鰹漁業は決して樂觀を許さざるものであつて、從來官廳では生產費遞減法を講ぜん爲め大正六年以來五箇年計畫で仕上女工の養成を行ひ、或は男工の養成を計畫するとか、品質の向上を計るとか、鋭意生產費の遞減法を講究して居るのである。

それから本年の生產費が十貫八十四五圓を要するので、仕上り十萬貫の鰹節には八十四五萬圓の流通資金を必要とする譯である、然るに金融梗塞の折柄、之だけの金額に對し銀行は決して容易に貸出に應せない、當業者は多年の經驗上、春夏にかけて切り込んで、秋口より冬に掛けて賣ると、多大の利益のあることは分つて居るが、無い袖は振れないそこで先高見込は立つていても、右から左に金になる樣に直ちに問屋仕切りで、委託販賣する、又た東京大阪方面の商人は當業者が融通資金に困つて居る足許を見透かして居るから叩く、漁業者は背に腹は替へられない、問屋の云ひなり次第に仕切ると云ふ狀態で、船荷證劵により金融をつけるとか、八尺門の冷藏庫完備と共に、之により入荷證劵により銀行が貸出すとか、何とか云ふ方法を講せないと今年の如き節値の高相場は每年續くものでない、大いに考慮すべき講究すべき問題であつて、金融機關の策立は生產費の遞減と共に刻下の臺灣の鰹漁業上の二大問題である。

## 五　鰹漁業は南遷す

近年內地鰹漁業界は、年々不振を極め、一時二千萬貫に達せんとした其の漁獲高は、大正八年には六百七

十萬貫、即ち殆ど其三分の一に減少して居る、勿論明治と大正との端界期前後には、石油發動機が新たに漁船に取り附けられた頃で、一時振興を極めたが、大正五年以降は年々不振で減少一方で、本年の如きは殆ど前年の半分だらうと云ふことだ、而して其減少率は東北帶、東海帶は年々甚しく、四國帶は減少せりと雖も前二者の如く激しからず、九州帶に至りては北九州帶は多少減少せるも、西九州帶に至りては、反對に甚だしく增加して居る。之を概論する時は「內地に於ける鰹漁業は近年著るしく減少せるが其減少率は北に進むに從ひ激しく、反對に西に進む時は減少せるも薩南海以南は反つて增加の傾向を有する」と云ふことが出來る。其原因の那邊に存するや明かならざるも、發動機船は櫓漕船より敏活に活動し得る結果、鰹の濫獲を誘致し近海漁場にて從業せる小型發動機船及櫓漕船は收支相償はざる爲め廢業せるは其一因たること明かである。

由來鰹は暖流性の魚族であつて、南日本の暖かい四國帶、九州帶及臺灣帶に多く棲息するものであると云ひ得る。從つて鰹漁業は漸次南に遷つて來て居ると云ふことが出來る、而して漁船が次第に大型に噸數馬力が增大して遠洋出漁式になり、將來は長時間出漁に耐へ得る樣に米國の船內製造式(Floating factory)になり鮮魚は一度煮沸してナマリ節程度にて保存する樣に石油發動機々關は蒸汽に變へられ、其の蒸汽を利用して一時腐敗を防止する樣な方法に進んで來るでなからうか。而して臺灣の如きは未だ北部海面の漁場のみ開拓され、南部海面は未開發の狀態であつて、南は火燒島及び小琉球以南、パシ・バタン海峽にかけて鰹群の洄游が可なり濃密のものであつて、又北部漁場と云つても餌料供給難生產費高率及び金融機關の缺乏は、斯業經營難の最大原因にして、從業船十九隻八百二十五馬力位の極めて小規模の活動能力であるが上記三項目さへ滿足に補塡されたらんには、尙ほ發展の餘力充分で、將來鰹節の生產、節値の市價は沖繩臺灣により左右される樣になる運命のものである樣に思はれる。而して本年靜岡の鰹漁船が薩南海から沖繩にかけて遠航出漁せる所より、早晚內地鰹漁船が本島近海に殺倒し來ることは拒むことが出來ない、今年既に長崎漁船が本島からパシ海峽にかけて遠航せる所よりすれば、其の將來は決して遠くでないだらうと思ふ、是等と角逐して

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣の鰹漁業者は果して競爭し得るか、生產費の遞減金融問題の解決等、大いに講究しおくことが必要で日本の鰹漁業は次第に南漸して臺灣漁場が其の爭奪線内に入るのも決して遠き將來でなからう。（完）

# 高雄州下長壽者の狀態

高雄州調査

## 一

長壽は人生の幸福にして萬人等しく希望するところなるも、各其の天賦の體質に强弱あり、又た其の周圍の狀態に差別ありて當一なる能はず、平素保健法に專心する者が往々にして夭死し、之れを省みざる野夫田人に長壽者の多きは又社會上種々の錯綜せる因果關係あるに因るとするも、約言すれば單に風土服合の適否如何と、精神を過勞すると否と、又た勞役の關係如何とに歸するを得べけん。左れば之れを地方別に觀察闡明して以て素質の改善に資し、保健法宣傳の方便たらしむるも亦た公衆衛生上肝要の事項たるべし。而して長壽は啻に一身一家の繁榮と幸福とを來すものなるのみならず、惹て地方一般の福祉を增進し國家の堅實なる基礎を建成するものなるに想到すれば、職に地方に在るものは、普く其の狀態を詳にして以て地方改善の資料を得るに努めざるべからず。

本州に於ては此の目的を以て州下の本年五月末日現在に於ける七十歲以上の長壽者に對し、擔任警察官吏に於て夫々觀察せる事項を綜合するに、總數五、八〇五人の内、男一、七三八人、女四、〇六七人にして、之れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を州下總人口に比例するに男千人に付き七十歲以上の者は六人二、女は其の二倍半餘にして一五人を算し、總平均の人口千人に付き一〇人六の割合とす。而して總長壽者の割合を男女別に見るときは男は女より極めて低率にして、女の長壽者百人に付四二人七分を示すは畢竟男は比較的に社會上常に危險に遭遇すること多きも其一原因なるべし。

## 二

今本州に於ける敍上長壽者を各郡別に其の順位を示せば左の如くなるべし

| 郡別 | 人口 男 | 人口 女 | 長壽者 男 | 長壽者 女 | 人口千に付長壽者 男 | 人口千に付長壽者 女 | 平均人口千に付長壽者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 人 | 人 | 人 |
| 澎湖 | 二八、二八八 | 三〇、九二四 | 六四二 | 一、三二四 | 二二・〇 | 四八・八 | 三五・〇 |
| 岡山 | 三六、六三〇 | 三四、〇〇一 | 一九〇 | 四九八 | 五・二 | 一四・六 | 九・七 |
| 旗山 | 二九、〇三八 | 二七、七〇一 | 一三六 | 三三二 | 四・七 | 一二・〇 | 八・三 |
| 潮州 | 三〇、四九一 | 三〇、五二三 | 一二七 | 三六六 | 四・二 | 一二・〇 | 八・一 |
| 恒春 | 一一、〇九八 | 一〇、九四八 | 六〇 | 一一七 | 五・四 | 一〇・六 | 八・〇 |
| 鳳山 | 三二、一七四 | 三〇、六七二 | 一二〇 | 三七六 | 三・七 | 一二・三 | 七・九 |
| 東港 | 三四、六六五 | 三二、九五七 | 一九三 | 三二三 | 五・八 | 九・八 | 七・六 |
| 屏東 | 三六、二八一 | 三四、二七〇 | 一一一 | 三六三 | 三・〇 | 一〇・六 | 六・七 |
| 高雄 | 四一、一五六 | 三七、二三一 | 一五九 | 三六七 | 三・八 | 九・七 | 六・七 |
| 計 | 二八〇、三六一 | 二六八、七七七 | 一、七三八 | 四、〇六七 | 六・二 | 一五・〇 | 一〇・六 |

以上の如く澎湖郡に長壽者の多きは其の地勢環海の區にして四時氣溫の劇變少きが爲なるべし冬季に於ける烈風の砂塵を飛散して失明者と眼病者を多發するも亦た全島に冠たり之其結果は他郡に比し四季蚊族の發生稀にして、本島の風土病たる麻剌利亞の如きも亦た少く、一般の保健上頗る優良なる結果を見つゝあり。岡山、潮州、恒春等には比較的に僻陬部落多きと又瀕海地方は何れも季節風の爲めに蚊族の少きこと澎湖に同じきものあり、最も特筆す可きは東港郡下の琉球嶼にして是亦た周圍四方里餘、人口四、一七六人に對し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て長壽者七四〇人、卽ち人口千人に對する一八人の割合にして澎湖の次に位する狀況に在り。

三

更に考察を要するは、比較的に衞生狀態佳良ならざる部落に於ても、廣東人は常に優勝の位置にあるに反し、同一部落にある福建人種は遙かに其の下位にあることなり。开は平素廣東人の勤勉努力の風習に馴致せられたる結果なるべし。左に其の郡別種別を示せば

| 郡別 | 廣東種族人口 | 廣東種族長壽者 | 同人口千に付長壽者 | 福建人種人口 | 福建人種長壽者 | 人口千に付長壽者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 潮州郡 | 二九、〇一八 | 二六五 | 九・〇 | 三三、九三〇 | 一八四 | 五・七 |
| 旗山郡 | 二〇、六六二 | 一八七 | 八・九 | 二七、〇一六 | 二三七 | 八・四 |
| 屏東郡 | 一九、九七七 | 一六六 | 八・三 | 四三、二二二 | 二五〇 | 五・九 |
| 恒春郡 | 四、四〇八 | 四五 | 一〇・二 | 一四、五五四 | 九九 | 三・五 |
| 東港郡 | 六、二五三 | 三八 | 六・四 | 六〇、一四五 | 四六五 | 七・七 |
| 計 | 七六、九一八 | 七〇一 | 八・七 | 一六七、五四七 | 一、二一九 | 七・〇 |

是に由れば潮州、屏東、旗山の三郡下に於ける廣東人種には割合に長壽者多く、同部落の福建人には遙かに少し。而して恒春東港二郡下に於ては廣東人種に長壽者最も少く福建人種に長壽者多し。左れど總平均より之れを比較するときは廣東人種に長壽者の多きを知るべし。

尙ほ高雄・岡山・鳳山・澎湖の四郡下の少數廣東人と福建人との長壽者を比較すれば

| 郡別 | 廣東人種人口 | 廣東人種長壽者 | 人口千に付長壽者 | 福建人種人口 | 福建人種長壽者 | 人口千に付長壽者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 高雄郡 | 一八九 | ― | ― | 六七、一三四 | 四六九 | 六・九 |
| 岡山郡 | 二九〇 | ― | ― | 六九、九八九 | 六八六 | 九・八 |
| 鳳山郡 | 一七〇 | ― | ― | 六〇、六一四 | 四九二 | 八・〇 |
| 澎湖郡 | ― | ― | ― | 五七、八五六 | 一、九六五 | 三四・〇 |
| 計 | 六四九 | ― | ― | 二五五、五九三 | 三、六〇二 | 一四・一 |

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

以上に由れば澎湖郡は長壽者最も多く、高雄、岡山、鳳山の三郡下廣東人に一人の長壽者なきは蓋し轉入日淺きの結果壯年者のみ多きに因るものにして、岡山郡の福建部落に長壽者主位を占むるは、社會上生活の安定の比較的多き結果にある可し。

## 四

次に縁事上の關係より長壽者を觀察するに、長壽者中男の未婚者總數二九人、女四人にして又七十歲以上にして配偶あるものは男は三〇%六を占め、女は僅に六%二五に過ぎず。尚ほ鰥は六〇%以上、寡は更に多く九三%以上に達す。今其の内譯を示せば次の如し

### 口長壽者中

| 郡別 | 未婚 男 | 未婚 女 | 配偶ある者 男 | 配偶ある者 女 | 鰥又は寡 男 | 鰥又は寡 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 高雄郡 | 一 | — | 五三 | 一二 | 一〇五 | 三五五 |
| 岡山郡 | 五 | — | 七一 | 三 | 一二四 | 四七六 |
| 鳳山郡 | 一 | — | 四五 | 一六 | 七四 | 三六〇 |
| 旗山郡 | 五 | 二 | 四七 | 一五 | 八四 | 三一六 |
| 屏東郡 | 二 | — | 四二 | 八 | 六七 | 三九五 |
| 潮州郡 | 一 | — | 六八 | 一三 | 八八 | 三五三 |
| 東港郡 | 二 | 一 | 四二 | 一〇 | 一四九 | 三一二 |
| 恒春郡 | — | — | 二九 | 一三 | 二一 | 一〇四 |
| 澎湖郡 | 三 | 一 | 二六七 | 一四五 | 三六五 | 一、一七八 |
| 計 | 二九 | 四 | 六三四 | 二五四 | 一、〇七五 | 三、八〇九 |

以上に由れば長壽者中最も多きは女子にして殊に寡婦大部分を占むるを知るべし。

## 五

次に男女年齡別及び男女の割合を見るに、長壽と雖も百歲を超ゆる者なく九十八歲を最長とす。其の總數は

| 年齡別 | 性體 | 澎湖 | 岡山 | 旗山 | 潮州 | 恒春 | 鳳山 | 東港 | 屏東 | 高雄 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 七〇—七五迄 | 男 | 三六五 | 一五八 | 八一 | 八八 | 三六 | 九〇 | 一三八 | 六五 | 一一三 | 一、五七三 |
|  | 女 | 五九五 | 三三三 | 一九一 | 二九五 | 七一 | 三二八 | 一六九 | 二四四 | 三三三 | 三、一〇八 |
| 七六—八〇迄 | 男 | 一七七 | 三九 | 三六 | 二九 | 二〇 | 二〇 | 五〇 | 三一 | 三四 | 一、四五五 |
|  | 女 | 四四〇 | 一一四 | 九九 | 七〇 | 三一 | 一〇〇 | 九六 | 八一 | 九一 | 一、一三〇 |

| | 八一—八五迄 男 | 八一—八五迄 女 | 八六—九〇迄 男 | 八六—九〇迄 女 | 九一—百迄 男 | 九一—百迄 女 | 計 男 | 計 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 五五 | 一六二 | 一五 | 六四 | 二 | 三 | 六四二 | 一、三二四 |
| | 九 | 五五 | 四 | 一一 | ― | 五 | 一九〇 | 四九八 |
| | 一七 | 四〇 | 一 | 四 | 一 | 三 | 一三六 | 三三三 |
| | 八 | 三五 | 二 | 四 | ― | 二 | 一二七 | 三六六 |
| | 三 | 一一 | 一 | 二 | ― | ― | 六〇 | 二一七 |
| | 七 | 三八 | 三 | 一〇 | ― | ― | 一三〇 | 三七六 |
| | 三 | 四九 | 二 | 八 | 三 | 一 | 一九三 | 三二三 |
| | 九 | 三二 | 四 | 四 | ― | 二 | 一一 | 三六五 |
| | 一五 | 四 | ― | 九 | ― | 一 | 一五九 | 三六九 |
| | 一五五 | 四四九 | 三二 | 一一六 | 六 | 三六 | 一、七三八 | 四、〇六七 |

以上は各郡別に於ける長壽者の男女別年齡別にして、更に之れを女の長壽者百人に付男の割合を比較するに平均七〇歲—七五歲迄は六五人にして夫れより漸次遞下す。卽ち七六歲—八〇歲に達せば三九人となり、更に八一歲以上八五歲に於ては三〇人に減じ、八六歲九〇歲に於ては二七人となり、九一歲以上一〇〇歲以下に於て一六人に減じ、平均年齡に見るときは女百人に付男四二人の割合となる。

## 六

更に之を各郡別に比較すれば左表の如し

| 年齡別 | 澎湖 | 岡山 | 旗山 | 潮州 | 恒春 | 鳳山 | 東港 | 屏東 | 高雄 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 七〇—七五 | 六二 | 四一 | 四二 | 三五 | 四二 | 四〇 | 七八 | 二六 | 五〇 | 六五 |
| 七六—八〇 | 二五 | 三四 | 三八 | 四一 | 六〇 | 三〇 | 五二 | 三五 | 三六 | 三九 |
| 八一—八五 | 三四 | 二五 | 四二 | 二三 | 三四 | 一八 | 四二 | 二八 | 三〇 | 三〇 |
| 八六—九〇 | 二四 | 三七 | 二五 | 九〇 | 九〇 | 三三 | 二五 | 一〇 | ― | 二七 |
| 九一—一〇〇 | 九 | ― | 三三 | ― | ― | ― | 三〇 | ― | ― | 一六 |
| 平均女百人に付男 | 九四 | 四八 | 四一 | 二五 | 九〇 | 三二 | 六〇 | 三〇 | 四三 | 四二 |

以上に由れば高雄に最も長壽者の少くして次は、屏東・鳳山・潮州・岡山の順となる高雄の少なきは新開地の爲め移轉者の多き關係に基くものにして、屏東・鳳山・潮州・三郡下の如きは水利の地にして四時蚊族の發生旺盛にマラリアの猖獗なる結果なる可く。岡山・旗山・澎湖・恒春・東港の順位を以て比較的に瀕海部落多き地方に長壽者の多きは大いに考察を要すべし。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 七

七十歳以上の長壽者中の强壯者卽ち相當の稼業に就事し自己の用辨は勿論未だ不生產者と看做す可からざる强壯者を調査するに、次の如くにして、之れを男女別及び郡別に見るに、總數男一、一四四人にして、長壽者百人中平均男の强壯者は六五人八分にして、其の主位は潮州・鳳山・高雄・旗山は平均以上にあり其の以下に屬するものは屛東・岡山・澎湖・恒春・東港の順序にして、概して交通不便の僻陬部落に長壽者あるも强壯者は少なきが如し。女の長壽者中强壯者の總數は二、一四七人にして長壽者百人中五二人七分の割合にして、男子よりも低率なり女子の强壯者の順位を見るに潮州・旗山・高雄・鳳山・恒春・東港・岡山の七郡は平均以上にして屛東・澎湖の二郡は平均以下にあり。比較的强壯者少なきは福建種族の婦人多き關係なる可し。其の詳細は次の如し。

□ 長壽者中强壯者

| 强壯者別 | | 澎湖 | 岡山 | 旗山 | 潮州 | 恒春 | 鳳山 | 東港 | 屛東 | 高雄 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 强壯者 | 男 | 三九七 | 一四三 | 九四 | 九七 | 三六 | 九一 | 一二四 | 七五 | 一二六 | 一、一四四 |
| | 女 | 五四四 | 二七六 | 二〇六 | 二三一 | 七〇 | 二三七 | 一七九 | 一九〇 | 二三四 | 二、一四七 |
| 長壽者百人中强壯者 | 男 | 六二・五人 | 六五・〇人 | 六九・〇人 | 七六・〇人 | 六〇・〇人 | 七九・八人 | 六〇・〇人 | 六九・五人 | 七二・五人 | 六五・八人 |
| | 女 | 四一・五 | 五五・〇 | 六一・七 | 六五・一 | 六〇・〇 | 六〇・四 | 五六・〇 | 五二・〇 | 六一・〇 | 五二・七 |

以上は長壽者の價値を示す可き基準にして、畢竟强壯なる先天的體軀と、平素の勤勞的努力及び衞生的合理的生活等に關すること大なるもの〻如し。

## 八

長壽者婦人中、纒足と自然足との比較を見るに次の如くにして、長壽女百人に付總平均七十人五分の纒足婦人を見る。其の順位は、澎湖・岡山・高雄・鳳山の四郡を平均率以上とし、東港・屛東・旗山・潮州・恒春の五郡を平均率以下となすと次の如し。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| 纏足と天然足別 | 澎湖 | 岡山 | 旗山 | 潮州 | 恒春 | 鳳山 | 東港 | 屏東 | 高雄 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 纏足者 | 一、二九七 | 四八九 | 一〇九 | 五八 | 七 | 三〇九 | 一四九 | 一〇三 | 三四五 | 二、八六六 |
| 天然足 | 二七 | 九 | 二二四 | 三〇八 | 一一〇 | 六七 | 一七四 | 二六一 | 二一 | 一、二〇一 |
| 長壽者百人に付纏足者 | 九八 | 九八 | 三三 | 一六 | 六 | 八二 | 四六 | 二八 | 九四 | 七〇・五人 |
| 率 | 1 | 2 | 7 | 8 | 9 | 4 | 5 | 6 | 3 | |

是等纏足女子が今尙は長壽者中七〇%以上を占むるを想はゞ、多年の因襲たる不具者的纏足の廢止も亦た大いに絕叫せざるを得ず。

## 九

長壽者中、多年本島人の因襲たる慢性的自殺の行爲に等しき阿片吸食を繼續しつゝある同癖者を調査するに、總數男一六四人、女二八人にして、平均長壽者男百人に付九人六分に該當し、女は之れより低率にして〇人七分の割合とす。之を郡別にすれば、男に於て高雄の一九人三分を主位とし、潮州之れに亞ぎ、恒春・岡山・旗山の順位にして、鳳山・東港・屏東・澎湖の四郡は平均以下にあり。女に於ても亦た高雄主位にして、東港・屏東・鳳山・潮州の比較的に都邑地にありて平均以上に達し、岡山・澎湖は其の以下にあり。旗山恒春には絕無とす。今其の實數と比例を示せば、

### ロ　長壽者阿片吸食の數

| 種別 | | 澎湖 | 岡山 | 旗山 | 潮州 | 恒春 | 鳳山 | 東港 | 屏東 | 高雄 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 阿片吸食者 | 男 | 二四 | 二九 | 一一 | 三 | 一〇 | 一二 | 一六 | 八 | 五一 | 一六四 |
| | 女 | 二 | 二 | — | 四 | — | 六 | 八 | 六 | 一九 | 二八 |
| 長壽者百に付阿片吸食者 | 男 | 三・七人 | 一四・五人 | 一〇・〇人 | 一七・〇人 | 一六・六人 | 九・二人 | 八・五人 | 七・二人 | 一九・三人 | 九・六人 |
| | 女 | 〇・七 | 〇・四 | — | 一・一 | — | 一・六 | 二・五 | 一・六六 | 五・二 | 〇・七〇 |

以上によれば阿片吸食は專ら醫藥の代用にするの慣習なるも、事實は僻陬部落よりも都會の長壽者に吸食者

の多きを見、殊に婦人に於ては全然都邑に多き傾向あるを見る。

## 十

長壽者中、飲酒の習慣ある者を比較するも亦た大いに保健上考察の要あるべし。即ち男の總飲酒者數は七二三人に達し、總長壽者の四一％七の平均數に當り、概して僻陬部落に多きを見るは又一般本島の實例と略々等しきものゝ如し。即ち潮州郡其の主位を占めて恒春之れに次ぎ、澎湖・鳳山・屏東は平均以上に在り、旗山・東港・高雄・岡山は最低位とす。女子の總飲酒者を見るに六六六人にして、女長壽者百人に付一六人六分に當り、恒春其の主位に在りて潮州之れに亞ぎ、澎湖・屏東・旗山は平均以上にあり、鳳山・高雄・岡山・東港は平均以下とす。上記の實數と比例數を示せば左の如し

□ 長壽者中飲酒者

| 種別 | | 澎湖 | 岡山 | 旗山 | 潮州 | 恒春 | 鳳山 | 東港 | 屏東 | 高雄 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 飲酒者 | 男 | 三四七 | 二三 | 四四 | 八六 | 三五 | 五八 | 五〇 | 四七 | 三三 | 七二三 |
| | 女 | 二五三 | 二九 | 五九 | 一〇三 | 三四 | 五八 | 一八 | 六五 | 四七 | 六六六 |
| 長壽者百人に付 | 男 | 五四・一人 | 一三・一人 | 三二・三人 | 六六・〇人 | 五八・三人 | 四八・三人 | 二六・〇人 | 四二・五人 | 二〇・六人 | 四一・七人 |
| | 女 | 一九・〇 | 五・八 | 一七・九 | 二八・五 | 二九・〇 | 一五・四 | 五・七 | 一八・〇 | 一三・〇 | 一六・六 |

## 十一

以上は州下に於ける保健調査資料に過ぎざるが、今之を總括して所見を述ぶれば左の如し

一、瀕海部落に最長壽者多し
二、廣東人種に於て强壯なる長壽者多し
三、風土病のマラリヤ多發する部落に長壽者少し
四、長壽者中の强壯者は割合に智識程度の發達せる田舍に多く都會に少し
五、長壽の纏足婦人が澎湖・岡山の瀕海地方に多きは地方的に婦人の勞働を要すること少なきに因るべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六、阿片吸食者は都會に多くして僻陬部落に少し
七、男の長壽者中には比較的に適度の飲酒を爲す者四一%七を占む以上の外、長壽者の職業別及び子孫の狀況等は追報として調査報告すべし

# 廣東の貿易

臺灣總督府稅關事務官　井出季和太

## 三　重要貿易品

### （一）輸出品（承前）

第二　絹織物　本品は主として紗類にして南洋方面に於ける支那人の需要に供するものとす。而して外國人向として英・米又は印度等に輸出するもの多少あり。又刺繡・絹綿・交織物等を相當輸出しつゝあり。殊に刺繡は從來の支那式のものは主として印度人、其他外國人向として輸出し近年發達の新式のものは支那人向として輸出す。

絹布類の輸出額近年著しく增進せず。戰前一九一四年には八百八十七萬餘兩なりしものが戰爭末年の一九一八年には減退し、七百九十四萬兩となり翌一九一九年及一九二〇年は共に一千餘萬兩に增加せり。

當地方には大規模の工場なく主として家庭工業として、自家製造の繭を繰絲し自家の子女に依り紡織し、

又或は數臺の機臺を据付け原料繭を附近より買入れ紡織す。器械車に依り繰絲したるものは殆んど全部輸出向とす。而して製品は江蘇地方の優良品に及ばず。中以下の需要に供せらる當地織物の中心市場は廣東の外佛山を主とす。

第三　花莚　本品原料藺草の生産は濕潤なる廣東「デルタ」に最も好適し、包席と共に重要なる特産物の一に屬す。戰前多きときには三、四十萬卷を輸出したるが、戰時に及び運賃及銀貨の暴騰に依り著しく其數を減退し、一九一八年の如きは十分の一以下に下れり。而して戰後の恢復期に入り即ち一九一九年以降漸次增加の傾向を見るに至り、本品の仕向地は香港又は九龍を經由して米國を主とし、其の他英國·日本·佛國又は南阿濠洲印度等に及ぶ。

藺草には二種あり。一は東莞草又は連灘草と云ひ、一は肇慶草と云ふ前者は花筵、後者は包蓆の原料にして玆に述ぶる所の花筵の原料たる藺草は、廣東より四十哩を隔つ東莞連灘羅定等を主産地とす。

栽培及收穫の時季は必ずしも一定せざれば、普通は冬春二期の乾水期に苗を植付け、二年又は三年位にして高さ四五尺に達し多くは四五月頃より、十二月頃迄に收穫すると云ふ。(但し二三回迄は株出に依り必しも毎年種植するを要せず)肥料としては普通人糞等を用ゆるが生長十分ならざるときには、豆粕或は落花生粕を少量に使用することがあり、刈取りたるものは上部を結束し竿又は繩張りに掛けて乾燥し、特に灰分を混じて水分を吸收せしむるものあり。數日後根元より五寸位切り取り長短を揃ひ更に地面に散布して十分に乾燥す。一箇年の收穫量は東莞連灘地方のものにて約五六十萬擔に達すると云ふ。

花莚の織法は依然として舊式手織に依るもの多く、特に改良したものなし、只輸出向上等品としては連灘品を第一とし、羅定東莞品之に亞ぐ、尤も河南には問屋直營の工場あり新式器械を据付け。多數職工を使役し上等品を製造す。原料藺草の價格八百斤約二、三弗より四五弗とし、其の製造に供する數量は巾一碼長さ四十碼の輸出向花莚一卷に付五六十斤を要す。經絲には麻を使用し經絲の多きを優良品となし、其の數百十六本に達するものは廣東に於ける特製品とす。機臺一個に付職工二人を要し一卷を織上ぐるには約四日間を要

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

す。職工には問屋專屬のものあり。請負業のものあり。殊に地方に依つては農家に對して原料藺草及麻絲を供給し織成せしむるものあり。或は農家自身にて副業として織成するものあり。職工賃は元より一定せざれば普通には巾一碼長さ四十碼のもの一卷に付、一元三十仙乃至一元四五十仙なりと云ふ。前記中農家自身織成するものは一定の期日に開市し取引するを例とす。染色法は古來主として植物性染料を使用したるも、最近は田舍地方の外は殆んど化學染料に改め鹽基性を使用する結果、色合美麗となれり。同染料は之を熱湯に溶解し普通約十五分間煮込み色付を了するも、其の濃淡及適當の色相を定むるは專門的經驗の手加減に依るものにして、染料の多少染色時間の長短及染料の品質に從つて區々たり。普通鹽基性染料の用途としての濃淡は十五倍の水に溶解したものを濃色とし、三十倍を中庸とし五十倍以上を淡色とす。

花莚の品質鑑定法としては(一)光澤あるもの(二)彈力に富むもの(三)藺草の大小一樣なること(四)經絲多きこと(五)織目の少なること及(六)藺草の乾燥充分なることに注意すべきである。

取引慣習に關しては問屋が注文に依つて製織するものと一定の商取引あるものにして、其の需要を見越して平時より常に職人をして織成せしむるものとの二種あり。又連灘及東莞厚街に於ては問屋が既に製織したるものを買集むるもの及、原料を供給して賃織をなさしむるもの等あれば問屋は主として、製品の統一を貴び一等品或は模樣入等は概して自己使用の職工をして織成せしむるもの多し。

建値は無地もの巾一碼長さ四十碼は普通一卷を以つて單位とし、荷造は普通花莚一卷とし外部を(アンペラ)にて包む其の他特種の包裝なし。

取引方法としては現物賣買たると先動契約に依るとを問はず、總て河航船迄の積込其他諸掛稅金等は賣人たる問屋の負擔とし、代金は引渡後遲くとも一週間内の支拂とす。但し支那戎克にて輸送しｃｉｆ契約に依るときには、製品が香港に到着後代金を支拂ふものと廣東にて、戎克に積込を了すると同時に支拂ふものとあり。前者の輸送中の危險は支那問屋の負擔とす。

支那問屋の主たるものは昌隆五記五裕萬金紹和悅盛臨信號等なるが、外國輸出商の主あるものは志利洋行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

安利洋行・海通洋行・其昌洋行・臣福洋行・的貝洋行等とす。

花莚の市價は經絲の多少染料及花模樣の良否織方の巧拙等に依り區々たり。今一九一九年及一九二〇年の價を對照すれば左の如し

東莞物

| 重量 | 品種 | 一九二〇年(二月現在) | 一九一九年(同) |
|---|---|---|---|
| 四〇―四五封度もの | 接合模樣入 | 一碼に付 一〇仙 | 一〇½ |
| 五〇―五五同 | 接合なし模樣入 | 同 一二 | 一三 |
| 六〇―六五同 | 同 | 同 一三½ | 一四½ |
| 七〇―七五同 | 同 | 同 一五 | 一五½ |
| 八〇―八五同 | 同 | 同 一六½ | 一七 |

連灘物

| 重量 | 品種 | 一九二〇年(二月現在) | 一九一九年(同) |
|---|---|---|---|
| 七〇―七五封度もの | 接合なし模樣入 | 一碼に付 二〇 | 二〇¾ |
| 八〇―八五同 | 同 | 同 二三 | 二三¼ |
| 九〇―九五同 | 同 | 同 二四 | 二四½ |
| 一二六の(經絲) | 同 | 同 二六 | 二七 |

廣東花莚の最近十年間に於ける輸出數量の變遷を示さば左の如し

| 年次＼輸出港 | 廣東 | 九龍 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 一九一〇年 | 卷 三五五、七九二 | 卷 四一、八〇四 | 卷 三九七、六九六 |
| 一九一一年 | 三五五、二四〇 | 七二、八九六 | 四二八、一三六 |
| 一九一二年 | 二一七、六四一 | 六九、九六九 | 二八七、六〇〇 |
| 一九一三年 | 一五七、二五九 | 一〇五、二〇五 | 二六二、五六四 |
| 一九一四年 | 一一三、四七二 | 七三、五二三 | 一八六、九九四 |

| 年次＼輸出港 | 廣東 | 九龍 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 一九一五年 | 卷 六二、四八六 | 卷 五〇、六八三 | 卷 一一三、一七九 |
| 一九一六年 | 一四五、九九〇 | 四一、二七二 | 一八六、八六二 |
| 一九一七年 | 四四、一四六 | 二七、八一六 | 七二、九六二 |
| 一九一八年 | 二一、五四二 | 三〇、一〇六 | 五二、一〇六 |
| 一九一九年 | 九八、七四五 | 三五、八九七 | 一三四、六四二 |

前表に依れば一九一九年は前年に比して廣東の分に於て、約五倍以上に增加したれば尙戰前に比し二分の一乃至三分の一以下に在り。而して輸出價額を見るに、一九一八年には包蓆を加算して三十餘萬兩に過ぎざりしが一九一九年には激增し、同上百四十七萬兩に上り更に一九二〇年には花莚のみにて百三十二萬餘兩に達せり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

要之、廣東の花莚は其の原料の豊富なると勞銀其他生産費の低廉なるとに於て、日本製品に對する一大勁敵なるべしと雖も支那人の常にして舊慣に安んじ意匠の改良流行に注意せず、製織の設備極めて幼稚にして製品の粗惡なるに於て、近き將來到底新式方法に依り海外の嗜好を研究して、製造したる日本品に拮抗し得ざることは明なり。

第四包蓆　本品の原料たる藺草は蒲の一種にして、前者と同じく廣東(デルタ)の特産物とし殊に本品は輸出品たると、内地用たるとを問はず凡て廣東産に屬し廣東の包蓆は同時に世界に於ける特産物なり。雷州半島を主とし肇慶府東莞地方に産し多年廣東省内の各港より他地に出る、各種包蓆用の草蓆は約二千五百萬枚乃至三千萬枚に達し、尙包蓆を以て袋に仕立てたるもの一箇年の輸出數百萬個餘あり。肇慶産のものは草筋細く品質優良にして、生絲・茶・米等の包裝用に使用せられ普通之を茶蓆と稱す。雷州産は專ら砂糖・雜穀類の包裝用に供す。而して包蓆の大部は雷州半島産にして、運賃・倉敷料其他問屋と製造業者との關係上、從來澳門經由香港に廻送せられ、直接香港に輸送せられたるもの極めて稀れなりしなり。從つて花莚の場合と異り大部拱北より輸出し、其他九龍・江門・三水・廣東等より輸出すれど廣東より輸出する額比較的少し。

本品も亦戰爭の反響に依り戰時輸出を不況ならしめたりしが、最近に至り漸次市場を恢復し增加の見込あり。而して最近藺草は包蓆用の外に草の儘に海外に輸出せらるゝもの漸次增加し、日本にても大阪名古屋地方にては製蓆用に供すと云ふ。

包蓆の品種を見るに先づ普通用途に依れば左の六種に分たる。卽ち(一)絲京　帆又は日本にては生絲の荷造用にするもの(二)茶蓆(青蓆)　茶箱用にするもの(三)摺蓆、敷用となすもの(四)大蓆・雜貨の荷造用とするもの(五)糖蓆・砂糖の荷造とするもの及(六)計蓆・暹羅・米其他米穀の荷造とするものとす。次に寸法より左の如く分たる。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 六四 | 六尺四寸もの | | 縦さ横さの寸法に合したるもの |
| 六二 | 六尺二寸 | 同 | 同 |
| 六尺 | 六尺 | 同 | 同 |
| 五八 | 五尺八寸 | 同 | 同 |
| 八斗 | 五尺六寸 | 同 | 同 |
| 七斗 | 五尺四寸 | 同 | 同 |
| 六斗 | 五尺二寸 | 同 | 同 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 五斗 | 五尺 | 同 | 縦さ横さの寸法に合したるもの |
| 四八 | 四尺八寸 | 同 | 同 |
| 四六 | 四尺六寸 | 同 | 同 |
| 全・皮 | 四尺三寸 | 同 | 同 |
| 單皮 | 四尺 | 同 | 同 |
| 大齊 | 三尺八寸 | 同 | 同 |

雷州半島地方にては六尺八寸もの六尺六寸もの六尺四寸もの六尺二寸もの、六尺もの、五尺八寸もの、の六種ありと云ふが、雷州尺の七尺は香港尺の六尺四寸に相當する故に、雷州の六尺八寸ものは香港の六四ものに當る。又香港商人は最近等級を一號二號三號又は上中下の三種に大別し之を巾及長さの寸法に依り區別する取引慣例を開始し、更に進んでは重量に依り品質を區別する方法、漸次實施せらるゝに至れり。重量に依るものは、四百封度もの、三百八十五封度もの三百八十封度もの、三百七十五封度もの、三百六十五封度もの等數種あり。蓋し包蓆は織方は粗密に依り、長さ巾の大なるものも重量之に伴はざることありて、品質の良否に干係すること少からず。故に取引商人は寸尺の外に重量に注意す。日本向は六四もの三百八十五封度として、日本内地の精糖の包装用に充つと云ふ。

商取引中買出の順序は包蓆商は地方に依り、定めたる日に市場に至り草を買入れ、又は包蓆を買入れ或は直接農家に至り草又は包蓆を買集め、包蓆商の倉庫に運搬したる後草は包蓆一枚に對する織賃を定め、包蓆は其の寸法品質に依つて區別し、市日は毎月一定せるも各市同時に開場するものに非ず。肇慶附近にては白土市場最も盛大にして、包蓆二千兩以上草五百兩の取引ありと云ふ。荷造は大小に依り百枚二百枚或は二百五十枚を以て一梱とし、荷造に最も注意すべきは輸出の際運賃の關係上十分に壓搾するを要す。建値は茶蓆には百枚を單位とすること多きが普通一千組(二千枚)又は一萬組(二萬枚)を單位とすることあり。支那人間屋は積込及輸出税を負擔する慣例とす。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其他の點に就ては香港貿易の部を參照せらるべし。

支那人問屋の主たるものには厚昌號・昌隆・五裕・同登利平等あり。外商(輸出商)の主たるものには、安利洋行・的見洋行・其昌洋行・渣甸洋行等あり。

最近五箇年間に於ける各國の輸出數量を掲ぐれば左の如し

包蓆(枚)

| 輸出港 | 一九一五年 | 一九一六年 | 一九一七年 | 一九一八年 | 一九一九年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 拱北 | 一八、四六八、四五 | 二一、九二六、六九七 | 一七、九六一、九九一 | 四七、二六六、六六一 | 一四、五九四、四七八 |
| 廣東 | 一、八一七、四〇〇 | 一、四六七、二六八 | 一、二三一、一一〇 | 五三一、一〇八 | 二、〇〇一、六八七 |
| 九龍 | 六、〇七七、〇〇〇 | 八、八三三、〇〇〇 | 一三、〇一三、〇〇〇 | 一五、八三三、〇〇〇 | 一〇、五九九、〇〇〇 |
| 江門 | 五六五、七八〇 | 一八〇、〇〇〇 | 四〇九五 | 五一〇 | 一、一五〇 |
| 三水 | 一、九二〇、四〇〇 | 二、五五五、〇一一 | 一、二九五、五八二 | 二、六二三、六四〇 | 九五、九八四 |
| 合計 | 二九、九九九、一〇五 | 三四、四四六、九九六 | 三一、九九四、七七六 | 一九、五三一、七〇九 | 二七、〇四六、三二九 |

蓆袋(個)

| | 一九一五年 | 一九一六年 | 一九一七年 | 一九一八年 | 一九一九年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 江門 | 一、二二五、一〇四 | 六四八、九一九 | 八二九、九五〇 | 七八、五五八 | 七六一、三三〇 |
| 三水 | 四、九六五、九一八 | 二、八二七、二九八 | 三二八、〇四〇 | 一二三、七五五 | 一、四二三、三三三 |
| 拱北 | 一六六、八〇五 | 三三六、〇〇八 | 五六四、五四一 | 三〇八、一五一 | 二六一、六九六 |
| 合計 | 六、二四六、八四七 | 三、八〇二、九〇五 | 一、四二二、五三一 | 五一〇、九六〇 | 一、一〇四、二八六 |

●第五頭髪　本品は貿易價額としては多からざれど支那殊に、廣東の特殊輸出品に屬するを以て一言せんとす。本品の支那に於ける集散市場は天津・重慶・長沙・漢口・九口・上海・汕頭・廣東にして毎年支那より諸外國に輸出するものは約二萬五千擔乃至三萬擔價額約百五十萬兩に達すと稱し就中、廣東は第一位に在り。一箇年約六七千擔乃至一萬擔を占め總額の約四分に當れり。廣東市場に集散するものは主として四川・雲南・湖南・廣西及廣東の奥地より來るものとす。而して一九一三年民國に至り、斷髪の結果一時其の數量を激増し

たれど近來漸次減退したるは蓋し本品の性質上より來る自然の情態なり。

建値は正味百斤とし價格の寸法の長短に依り荷造は當地問屋に於てa、b、c、d、e、fの六種とし、aは小束とし蘭草にて縛し正味二百斤を包蓆にて包み一個とし、b以上長きものは小束を黄絲にて結ひ、正味百斤を箱入とし其外部は油紙にて貼り更に包鞍にて包む。各束の大さは寸法に依り一定せず。大體bは三百束dは二百二三十束eは百五十束fは三十四、五束にて百斤となる。品質の鑑定は光澤あり。長短整正にして不純物の混入なきを上等品となす。海外に於ては寸法a、b、cは之をStampと稱し以上の長きものは之をDrawnと稱す。

最近十年間に於ける輸出數量は左の如し

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一九一〇年 | 六、四二七擔 | 一九一三年 | 二、九〇一擔 | 一九一六年 | 六、七七〇擔 |
| 一九一一年 | 九、五五五 | 一九一四年 | 六、四四五 | 一九一七年 | 七、八八九 |
| 一九一二年 | 九、六七一 | 一九一五年 | 六、〇八〇 | 一九一八年 | 五、五一五 |
| | | | | 一九一九年 | 六、九九一擔 |
| | | | | 一九二〇年 | 四、八九二 |

**第六豚毛**　本品は一に猪毛又は剛毛と稱す。支那は露國に次ぎ世界に於ける、本品の産地にして重要輸出品の一たり。本品は刷子製造用に供するも刷子の需要の增加と反對に其の供給が漸次減少しつゝあり。露國の如きは代用品として、植物性纖維を使用すれば到底豚毛に匹敵することを得ず。粗品は又軍用鞍の塡裝に供す産地は、四川・山東・直隸・滿洲・貴洲・山西・河南・雲南等の各地なるか就中四川・山東・山西・及滿洲を著名となす。四川省の産品は品質最も優良にして、同省の榮香及嘉定の二縣を主産地とし、瀘洲及叙洲等之に亞ぎ省内の産額二百萬斤乃至三百萬斤と稱し、重慶を集散市場となす、主として漢口及上海に仕向く廣東市場に集るものは同じく四川・雲南の産にして最近廣東に於て刷子事業漸く盛なるも總て下等品にして歯刷毛等に過ぎず。又其の需要多からず、依然豚毛の儘にて香港其の他歐米日本に輸出せられ、其の數量は相當額に達す。廣東に輸入する豚毛は白及黒の中黒毛多く七割を占め白毛は三割とす。

豚毛中背部背側に生ずる長き強靱なるものを猪鬃と稱し、肢部又は脚部に生ずる短き柔軟なるものを亂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛と云ひ、前者は總て刷子の原料として輸出し、後者は又春肥と稱し民家に於て農產物の肥料又は鞍の裝塡用に供せらる。廣東に於ては漢口等と異り寸法其他の區分多からず、極めて簡單にして(エキストラ、エキストラ)(エキストラ)及a、b、cの五等に區別し輸出す。其の荷造は直徑約二吋半乃至三吋位の小さき丸形の束とし、黃絲を以つて結り二個を以つて一包(紙にて包む)とし、正味百斤を箱入とし外部は油紙を貼り更にアンペラ包となす。但し中味の紙及小束の絲は正味重量中に入る。

最近十箇年間に於ける輸出數量は左の如し

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一九一一年 | 一〇、〇七四擔 | 一九一四年 | 四、七二六擔 | 一九一七年 | 六、四六四擔 | 一九二〇年 | 六七二擔 |
| 一九一二年 | 七、七六五 | 一九一五年 | 五、七一九 | 一九一八年 | 六、八七三 | | |
| 一九一三年 | 六、九七六 | 一九一六年 | 五、四三一 | 一九一九年 | 一、三三一 | | |

**第七セメント** 本品は從前より河南の政府經營に係るセメント工廠の生產に係り、近年一日の公稱能力八八個の(ボイラー)を裝置し約五百樽(四百封度入)一ケ月一萬五千樽卽ち一箇年約十八萬樽とし、重量に換算せば五十四萬擔に達すべし雖ども一九二〇年には實際十三萬樽を生產したり。主として支那沿岸及海外に輸出し、其の數量は同廠當事者の說に依るに一箇年五、六萬樽卽ち十五萬擔なりと云ふ。輸入品に比して品質劣等なれども價格低廉なり。原料石灰は北江地方より來る。廣東及魚地にて消費する數量は外國輸入の分を加算すれば約五六十萬擔に達す。

**第八燐寸** 本品は從來主として日本製品の供給を仰ぎ重要輸入品の一たりしが、近年國產振興及排日貨の影響に依り、熾に廣東及其の附近に於て製造しつゝあり。廣東には功明・吉祥及大益等の燐寸製造會社機械を日本より輸入し作業中に在り。其の他最近には廣東の東部東山に大工場を建設し、又市外の黃河の廣東火柴公司又鹽步の民生火柴廠は一九二〇年新に竣立せり。現在二十箇に近き工場あり。一は日支合辦にして配當五割に達す。而して原料は日本其の他よりの輸入品の外に外國品を改裝し土貨として市場に供給するもの少からず。近年輸出入地位を顛倒し急激に輸出を增加し來り自ら原料軸の輸入の如きは一九一八年には一萬

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

七千六百餘擔に對し、一九一九年には二萬三千六百餘擔に增加せり。殊に一九二〇年には輸入原料一萬一千八百餘兩日本よりの材料二十一萬五千餘兩に達し乃ち輸出製品は一九一八年には僅かに八千餘哥に過ぎざりしが一九一九年には五十餘萬哥に上り一九二〇年には百四十八萬八千餘哥（香港行百餘萬哥支那各港仕向四十八萬二千餘哥）價額六十五萬五千餘兩に達したるが如し。反之日本品の輸入は十數年前には八百萬哥に達したるものが既に戰前の一九一三年頃には僅かに四十餘萬哥十二萬餘兩に下り、最近一九一八年及一九一九年には各年三十三萬餘哥に減退したりしか一九二〇年には稍增加して四十九萬餘哥となれり。

第九製紙　廣東の製紙は現在江門工場及鹽步の綿遠工場に於て生產し當地消費に充つ。又香港及新嘉坡に輸出す。兩工場共に主として英國製機械を据付け襤褸又は屑紙を原料として更紙を作り、包裝用紙となす。江川工場にては最近少量の木材「パルプ」を使用し新聞紙及燐寸紙を製したれど品質甚だ良好ならず。製造能力は綿遠は一日四噸餘一箇月四十萬封度江川は一日約三噸一箇月三十萬封度と稱すれば燃料其他總て輸入に俟ち又製造方法幼稚なるが故に生產費比較的高くして當分外國紙と競爭すること困難なり。從つて排日貨の風潮を利用し努力しつゝあれど綿遠紙の如きも一九一八年及一九一九年に各自一萬六千五百餘擔及一萬七千二百餘擔を輸出したるに過ぎず。而して一九二〇年紙輸出は二萬五千餘擔に達せり又北江及東江地方にては竹の「パルプ」及石灰を以つて手工業に依り製造したる土紙あれど、禮拜紙又は化粧用紙となすに過ぎず。

第十綿織物　綿織物中土布其他の綿製品は燐寸と同じく、廣東に於て近年其の生產を增加し來り、輸入粗製綿布を抑制しつゝあり。又綿製手巾の如きも一九一九年には前年の千二百打に對して千七百十一打に增加し、綿製の浴布は五千七百三十三打に對して一萬七千七百七打、綿製靴下は五萬一千二百四十一打に對して六萬八千二百五打に增加せり。然れども綿紗は當地方に需要多く土產品を以つて滿足することを得ず。一九二〇年上海綿紗の輸入は價額に於て四百十三萬八千餘兩に達し輸出綿紗は二百十四萬一千餘兩即ち約半額となす。尙土布の輸出は一九一八年の五千四百五十四擔、一九一九年の五千七百八十五擔に對して一九二〇年には依然一萬四千五百餘擔に增加せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第十一肉桂　本品は主として廣西省内の生産に依り當地に輸送し、香港を經て獨逸に輸出せられたるを以て、戰前には相當額に達せり。而して戰時其の數量を減退したりしが一九一九年には再び市況を恢復し例へば、桂皮は前年の五萬二千二百餘擔に對し十二萬六千八百餘擔にして、約倍額以上に增加し一九二〇年には稍減じて七萬一千餘擔に下れり。肉桂は一九一八年及一九一九年には各自三千二百餘擔三千八百餘擔なりしが一九二〇年には二千餘擔に減退し其他の肉桂は一九一八年には十四萬五千餘擔一九一九年には十七萬七千餘擔に上り一九二〇年には十萬擔臺に下れり。

第十二革類　當地製革も相當需要あり。漸次輸出を增加し熟皮は一九一七年當時は二萬七千餘擔に過ぎざりしが、一九一八年には三萬五千六百餘擔百九十四萬九千餘兩一九一九年には四萬二千六百餘擔二百十九萬三千餘兩となり、更に一九二〇年には增加して五萬七千餘擔三百五萬一千餘兩に達せり。其他生牛皮の輸出が一九一九年には一萬二千九百餘擔に達し、前年に對して倍額以上に增加したれど一九二〇年には七千八百餘擔に減せり。

近年河南の白鶴洲に建設せられたる大星公司は資本十萬弗を以つて、米國製最新式の機械を据付け一日ボツクス約五百平方尺價額三百弗位の製造能力あり。當地の需要を充たす外に漢口・爪哇・馬尼剌・安南等の注文に應ずと云ふ。

第十三煙草　廣東省より輸出する煙草には葉煙草及刻煙草あり。而して産地よりすれば廣東省外に廣西産江西産及河南産あり。更に種類別にすれば熟煙は廣東産・江西産及廣西産あり黃煙は廣東産及河南産あり。就中廣東省の鶴山煙・天堂煙は年産額數十萬擔と稱せらる。煙草の取引には(一)當地煙草莊に卸し刻煙草とするもの(主として福建煙)(二)當地煙草會社(廣東南洋兄弟―の如し)に賣込むもの(三)南洋輸出煙草として支那商人の取扱に係るもの及(四)外國輸出煙草として日米等外國商館の取扱に係るものあり。

輸出額は戰前一九一三年には葉煙草三萬五千四百餘擔二十四萬二千七百餘、刻煙草三萬餘擔六十八萬餘兩にして全省輸出商の約三割を占め、其の後一九一五年には更に增加し、前者四萬五千八百餘擔三十二萬八千

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

九百餘兩、後者三萬五千餘擔八十九萬九千餘兩にして、前者は全省輸出高の六割、後者は其四割餘を占め、一九一九年には栽培法の改善其の他に依り、前者は、六萬九千餘擔に增加したれど、後者は二萬八千餘擔に減退せり。而して一九二〇年には前者は四萬三千餘擔に下りたれど其の價額百五十四萬餘兩に達せり。後者は同じく四千七百餘擔に減せり。

第十四其他の輸出品　(一)タングステン鑛其他鑛產物　タングステン鑛は一九一八年には、輸出額八萬七千二百餘擔三百三萬八千餘兩に達したりしが、一九一九年には減じて二萬七千三百餘擔四十一萬六千餘兩に下れり。蓋し戰爭終る後本品の價格は著しく下落し一九一九年初季には一擔八十弗を唱へたりしが其の後十二弗となれり。但し一九二〇年には稍恢復して五萬八千餘擔に達せり。

安質母尼鑛の如きも一九一九年に至り著しく其の輸出數量を減退し、前年の四千餘擔より五百十三擔に下り、一九二〇年には稍增加して二千六百餘擔となれり。廣東省内の鑛物として石炭・錫・安質母尼・銅・鐵・石炭等豐富なるが如きも未だ市場に搬出するに至らず。殊に石炭に就ては現在北江筋の產出あるも其の輸出數量多額に達せず、其の數量豐富なれど搬出の不便なると、坑夫の供給困難なるとにより採掘せられず。尤も最近百萬弗の資本を以つて採掘會社の設立を見たりと云ふを以て、將來期待すべきものあり。要するに廣東に石炭の生產なかりしは、香港と同じく工業の勃興せざる一大原因なること前に述べたるが如し。

(二)茶　廣東より輸出するものは紅茶(工夫・花香・白毫・珠蘭・小種等の中工天・紅茶が殆んど全部を占む)にして近年輸出したるもの一箇年約一萬四五千擔あり。價額に於て一九一九年は前年の四十八萬一千餘兩に對し四十四萬二千餘兩に減退したれど昨一九二〇年には五十萬七千餘兩に增加せり。

(三)粗糖(赤糖)　廣東省は福建省と同じく砂糖の豐富なる生產地にして汕頭奥地を主とし潮陽・普寧掲陽等の各縣に於ては、一箇年各自二十餘萬包を產す。廣東より輸出するものは主として赤糖となす。海關統計に依れば戰前の一九一三年には一萬九千餘擔一九一五年には一萬七千百餘擔一九一七年には五萬二千餘擔なりしが一九一九年には約十分の一に減退し五千三百餘擔となり、一九二〇年には再び增加し約十倍の五萬餘擔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に上り價額に於て四十萬餘兩を示せり。

## 二　輸入品(包移入品)

**第一綿絲及綿布**　(一)綿絲　本品の輸入には外國品と上海品とあり。外國綿絲は日本絲及印度絲とし近年多きは十萬擔以上少きは四、五萬擔にして約七八萬擔と見は大差なきが如し、細絲は密輸入額莫大なるものあり。實際の數量を知ること困難なり。香港を仲繼として輸入し、當地原料として消費する外に、貴州・雲南等に移出す。從來十二手の如き太物多かりしときには印度絲殆んど獨占の姿なりしが、近年當地新機業の勃興及生活程度の昂上に從つて、日本機器及日本絲の輸入を增加し、又戰時印度絲の輸入困難となりしを以つて、益々其の勢力を助長し、廣東市にては四十二手の細物及三十年物が衣類の原料として、需要を增加するに至れり。然るに最近排日貨の反響に依り上海絲の輸入を增加したると同時に、國產奬勵策の一として當地工場に於て、織布業の發達を來し例へば黃埔織造社の如きは六十臺の大機械と、五百臺の手機とを以つて、比較的品質優良の綿布を製造しつゝあり。而して其の大半を新嘉坡其の他に輸出す。

今近年の輸入數量を見るに印度絲一九一八年には四萬五十八擔なりしが、一九一九年には五萬六百三十五擔に增加したれど一九二〇年には二萬六千五百四擔に減じ之に對して、日本絲は一九一八年及一九一九年には各自二萬八千擔臺なりしか一九二〇年には二萬七千擔臺に下れり。但し當地に於て消費せらるゝ綿絲は日本品七割印度品三割なりと云ふ。

上海綿絲の輸入は一九一八年には三萬二千二百五十五擔なりしが、一九一九年には二萬三十一擔に減退せり。當地某商人の推定に依れば年に依り元より增減あれど廣東に入る綿絲の總額は約五六十萬俵なるべしと云ふ。

外國綿絲の輸入は價額に於て戰前の一九一四年には二百二十三萬六十餘兩なりしが、一九一八年には三百三十九萬九千餘兩、一九一九年には四百九十八萬三千餘兩、一九二〇年には七百六十二萬一千餘兩に達し、漸次增加し來りたるは機業發達の自然の大勢とす。又河南には資本五百萬弗の新式の紡績工場も新に建設せ

られ、將來相當自給を見るべし。

以上三種綿絲の競爭上の地位を案ずるに、上海絲の移入を增加したるは、殊に昨年以降に屬し將來は日本絲に對して、印度絲よりも尙一層勁敵たりと云ふものあれど、香港の當業者の意見に依れば、香港經由の上は外國絲となり、廣東輸入の際は關稅の負擔あるが故に、長江以北の如く急激には增加せざると稱するものあり。又取引の性質より曰へば日本商人は支那商人と異り、手形に對する利子製品に對する保險料等を支出し、比較的諸掛多き點と長期の投機的信用に堪ふること能はざるとの外に、困難の地位に在ると云ふ。

(二)綿布類　綿布類中金巾(生及晒)は從來より英國產が優勝の地位を占め、就中生金巾の如きは一九一九年の輸入は七萬七千六百餘疋に達し、前年に比し一萬四千二百餘疋を增加したるに反し、日本綿製品の大宗たる浴巾・フランネル其他の減退したるは排日貨が主因たり。又當地に於て類似品の製造が發達したるに依る。而して綿製品全體に就て一九一九年は前年の三百四十八萬八千餘兩に對して稍減退し、三百二十二萬九千餘兩となり殊に價格に於て騰貴したれど數量に於て著しく減少したもの少からず。例へば無地晒金巾・天竺巾・(三十二吋二「トヤール」)・薄金巾・寒冷紗・モスリン・著色綿「イタリアン」絲染綿ネル同綿布・綿天鵞絨・綠取毛布・日本浴巾・雜綿布等とす。就中日本浴布は前年の二十一萬四千餘打が八萬二千餘打に減じ、雜綿布は三十二萬二千餘碼が十二萬一千餘碼に減じ、絲染綿布は七十四萬六千碼が二十三萬七千餘碼に減せり。而して增加したるものは僅かに生金巾・綾織木綿・「ポプリン」類手巾等のみとす。(廣東日本領事館報告に依れば綿製品總額に於て、前年の六百八十五萬兩に對して、却つて增加して八百八萬餘兩に達したとあるが、前記實業公司の調査に基ぎたるものと異ることあり暫く疑を存す。)

內國品の移入は生巾・土布及精巧土布に於て一九一九年は前年の八千五百四十疋、二萬八千百二十八擔及一萬七千八百五十疋か各自三千二百四十疋、二萬六千百九十二擔及千五百七十九疋に減退したるは、一に當地綿織業興隆の結果なり。但し一九二〇年には增加して各自一萬七千二百十六擔三萬一千三百五十八擔及二千四百七十八擔となれり現在廣東には靴下又は襯衣の五工場及數百個處の小工場あり土布を製造しつゝあり乃ち

日本商人としては今日廣東地方土布製造の發達に際しては燐寸の場合に於けると同じく、粗布の製造に關しては極めて、底廉なる勞力に對抗すること能はざるを以て、所謂工場の輸入をなすと同時に、尚比較的有利の地位に在る。原料綿絲の輸入を増加し、一方精巧品の製造輸入をなし英國の「マンチイスター」金巾を驅逐するに努め、今日迄開拓したる市場の奪回をなさゞるべからず。

**第二製紙**　洋紙の輸入は一九二〇年の實際數量約五萬擔餘即一萬三千三百以上と見て大差なし。從來の例に徵するに印刷用紙包裝用紙及薄葉紙等は大部獨逸紙にして、日本製紙の如きは漸く一九一二年始めに輸入せられたるが、當初は品質劣等の上に價格比較的高かりしを以つて、外國品と競爭することは不可能なりしなり。偶々戰爭の結果十萬擔以上十二三萬擔に達したる獨逸品の輸入全然杜絕し、漸次日本品の需要を喚起し三井物產代理の木曾王子富士製紙其の他の製紙場製品の輸入益々増加するに至り、又一方に於て近來紙價騰貴の爲に土紙を以つて代用するに至り。現在土紙は海關統計に依れば、一箇年三萬五千擔位とすれば實際は其他戎克船に依り移入し、計上せられざるもの多數あり。總體に於ては五萬擔位に上るを以つて從來と其の地位を顚倒し、土紙を主とし外國紙は其の代用たるの觀あるに至り、日本は戰爭末には外國紙の七割位を占むるに至りしが最近に至りては外國紙ト伯仲の間に在り。日本紙(ザラ紙)染料紙有光紙上等印刷紙等を主として輸入す。

蓋し一九二〇年春期には世界に於ける紙の不足の結果市價騰貴し歐州殊に瑞典紙は日本紙と競爭すること能はざりしなり。而して瑞典の勞働問題・燃料問題等の解決と同時に中歐の製紙業は秩序恢復したれど尚、日本紙に對する勁敵にはあらず。又最近歐州よりの報告に依れば相當紙價高きが爲に、日本紙の地位杞憂するに足らずと云ふ。殊に最近日本は製造過剩の爲に製紙聯合會は操短して、市價の維持に努力しつゝあり。市況平穩の氣味あれば下落の虞は今日に於て之なきが如し。

用途としてはザラ紙(四六バン)は主として新聞紙及包裝用に供し約二千梱(一梱は三百七十五打入五百封度とす)染料紙(ザラノ大部)は佛山に市場あり。當地にて染め上げて使用す。主として支那沿岸及南洋方

面に輸出す。其數量は約七千梱あり。（中に包裝紙もあり）有光紙は書籍・廣告紙及染料紙に使用し、最近其の需要を增加し來り。染料紙の市價高きが爲に之が代用とす。其の他の雜紙（模造紙漉色紙等）約五百梱とし印刷用又は支那人の繪紙とする外に、上等印刷紙は印刷及繪紙又は當地外國商館の書籍等に使用す。前記數量を掲ぐれは左の如し。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ザラ紙 | 一,〇〇〇 | 有光紙 | 三,〇〇〇 | 上等印刷紙 | 八〇〇 |
| 染料紙 | 七,〇〇〇 | 雜紙 | 五〇〇 | 計 | 一二,三〇〇（五〇,〇〇〇擔） |

市價は日本の操短及聯合會の努力に依り、内地は稍持直しの情態にあると同時に、一方銀爲替下落の爲に最近取引あり。一九二〇年三月現在相場はザラ紙一封度十六仙五厘、有光紙十八仙上等印刷二十七、八仙模造紙同上漉色紙に十三仙位（廣東倉渡し）とす。（戰前はザラ紙七仙有光紙八、九仙一九一九年には最高市價ザラ紙二十二三仙有光紙二十五仙上等印刷紙三十仙包に達せり）

土產紙の移入するものには二種あり。福建土紙と南雄土紙とし前者は約百五十萬兩後者は約三百萬兩に達し（一部香港其內は輸出す）兩者共に竹パルプを原料とする。前者は支那人の帳簿書籍書畫等にして後者より厚く品質優良なり。包裝用及書畫用としては洋紙の代用品となす。

海關統計に依れば凡て紙の輸入高は一九一八年には五萬一千餘擔一九一九年には六萬九千餘擔一九二〇年には七萬五千餘擔に上れり。

第三石炭　廣東に於て消費する石炭一箇年約二十六、七萬噸乃至三十萬噸に達するも、大部は外國炭にして土炭の移入は一部とす。外國炭中日本炭は九州炭にして、戰爭當初の一九一五年には十四萬四千餘噸一九一六年には尙八萬八千餘噸を輸入したりしが、最近に至り其の數量を減じ、例へば一九一九年には二萬三千餘噸となり、一九二〇年にも一萬九千噸に過ぎず、反之臺灣炭は數年には一千噸なりしが、最近六、七千噸に增加し、開平炭は一九一五年には十萬五千餘噸に達し、其後七萬噸臺に在りしが、最近は四萬餘噸に下り、鴻基炭は一九一五年には四萬八千噸に上りたりしが、漸次減退し只一九二〇年には增加して、二萬五餘噸を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

占め海防炭は最近數年間增減ありしが、一九二〇年には二萬一千噸餘を越へ撫巡炭は數年前には四萬噸以上に達したりしが、一九一八年には僅か五百噸臺に下り翌一九一九年以降輸入を杜絶せり。而して一九一九年には前年と異り、濠洲炭一千百三十噸南京炭三千七百九十噸歐洲炭一千五十噸及西表炭其の他六千六百餘噸を占めたり。

今一九一五年以降一九二〇年迄六箇年間の各種石炭の輸入數量を示さば左の如し。

| | 日本炭 | 臺灣炭 | 撫順炭 | 開平炭 | 鴻基炭 | 海防炭 | 土炭 | 西表炭其他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一九一五年 | 噸 一四四、六二六 | 一、四九一 | 四四、〇七一 | 一〇五、二三〇 | 四八、三〇〇 | 二四、二六〇 | — | 七、三七〇 | 三七五、三四一 |
| 一九一六年 | 八八、六九八 | 一、二〇〇 | 四九、〇七〇 | 一七〇、三八五 | 一六、六七〇 | 九、六五五 | — | 二、九九五 | 二三三、四五三 |
| 一九一七年 | 六一、〇六一 | 四七、六七〇 | 一五、五五三 | 七〇、六一三 | 一七、六〇〇 | 六、三三〇 | 二、七一五 | 一三、六三一 | 二四四、二〇一 |
| 一九一八年 | 二三、一三七 | 四〇、四〇六 | 五五五 | 二六、八九一 | 五、〇九〇 | 六、〇六〇 | 六、〇五〇 | 七、六〇〇 | 一一四、九一〇 |
| 一九一九年 | 一五、六七〇 | 七〇、八五五 | — | 四二、四九三 | 八、七四〇 | 一一、六三〇 | 二三、一〇〇 | 八、七九四 | 一八六、八六一 |
| 一九二〇年 | 一九〇九八 | 六二、八六三 | — | 四三、九九五 | 二五、九四〇 | 二一、二〇五 | 三一、八〇六 | 一六、六二二 | 二三七、一九七 |

廣東輸入外國炭は香港經由の分約十五萬噸內外として、其他外國炭內國炭等として戎克船等に依り、入りたるもの普通統計に依つて之を知ることを得ず。海關統計に揭くるものは相違あり支那產炭は多きも外國炭は一部に過ぎざるが如く例へは一九二〇年に於て前者は五萬四千餘噸なれど後者は五萬一千餘噸に過ぎず。

當地石炭の用途は小蒸汽船・支那軍艦等十萬噸見當とし其の他一般航洋船の「バンカー」用としては炭價高きが爲に、皆香港に於て積込むものとす。其の他鐵道及諸工場に使用するには日本炭を第一とし、鴻基土炭は下位に在り。殊に土炭は他の石炭と混入せずんば用をなさず。鴻基炭は紛炭故に專ら石灰燒に使しつゝあり。

●●●●

第四電氣機械　本品は輸入價額に於ては他の重要貿易品と比肩することを得ずと雖とも、最近諸工業發達の結果新に輸入を頓に增加したるは注目すべきもの丶一に屬す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

電燈會社は廣東及附近に在り。殊に廣東を第一とし、其の他佛山・江川・梧州を始めとして數箇處に在り。而して地方に於ける電燈會社は何れも小規模なるが、廣東電燈會社は省城を中心として其の周圍四百三十支里內を獨占營業區域とし電力の供給をなし來り、電力の設ある地方は兩三箇年前には廣東省內に六七箇處なりしが、最近には例へば廣東市を始め從來の江川・仙山・西南・東莞・石龍・肇慶・陳村等の外に新寧・新會・新昌北海・公益・沙溪・羅定・惠州・容奇・公益・小欖其の他あり。又廣西省にては從前の梧州の外に龍州・桂林・平樂・北統・百色其他あり。

廣東に於ては米國會社が當地の電力公司の爲に、約百三十萬弗の費用を以つて、最新式の電力裝置を供給し、二千五百「キロワット」の「ダービンユニット」二基よりなり、一五千「キロワット」及一萬「キロワット」の「ユニット」各自二臺を包む計畫とす。新裝置は從前の米・英・獨の機械と轉換したるものとす。現在の裝置は十二臺の「ヂーセル、エンヂン」十二臺にして、全動力は二千五百五十八馬力あり。一九二〇年一月中廣東及其の附近の消費者八千に電力を供給せり。擴張計畫に依れば動力を三千馬力とし、約二十萬「キロワット」の豐富なる供給をなすべきも計畫遲延の爲に其後電力の供給不足に苦みつゝあり。廣東には瓦斯燈の供給なく石油「ランプ」の外は皆電燈を使用するが故に、其の需要は甚だ多かるべし。

斯くの如き情態故に近年電燈其の他電氣機械の輸入益々增加し、左に海關統計に依り一九一九年の電燈用電氣材料品の輸入價額を示す。

| | |
|---|---|
| 電扇及附屬品 | 三七、六三九 |
| 燈球及附屬品 | 六三、六六八 |
| 電線 | 二八、九八五 |
| 其他電氣材料品 | 一五六、七〇一 |
| 合計 | 二八六、九八六 |

外國領事の報告に依れば一九一八年に五萬一千八百六十三弗に達したりしが、戰前一九一三年には海關統計に獨立項目として計上せられざりしなり。而して一九一九年の電扇及動力機械を除きたる電氣材料品の輸入額は一九一八年の二十萬五千餘弗に對して三十三萬五千餘弗に增加し、動力機械は一九一八年には全然輸

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

入を見ざりしに一九一九年には、其の額四十三萬三千餘弗に達せり。

**第五砂糖**　廣東市場に輸入取引せらるゝ砂糖は大別すれば輸入糖と地製糖とあり。廣東「デルタ」一帶に通じて最近輸入せらるゝ各種砂糖は總額約六十八萬餘擔四百九十二萬兩ありしが、近年廣東に輸入する外國糖は年額二十萬乃至四十萬擔弱あり。地製糖の移入量は正確の統計なきが、當地糖商の言に依れば約十萬擔内外とす。

輸入糖の大部は白糖とし精製糖之に亞ぎ、赤糖は第三位に在り。其の數量殊に少し白糖及赤糖は全部爪哇產とし、精製糖は香港製とし、臺灣產品の輸入は殆んど皆無と稱すべき狀況なり。而して各種共に一九一九年に好況なりしが一九二〇年には約半減せり左に各種を分說す。

(一)輸入赤糖　地製糖の出廻りあるが爲に輸入の餘地極めて少く、將來と雖も土產品か稀有の不作に際會せずば、其の輸入を增加せざるべし。

(二)輸入精製糖　現今輸入せらるゝものは主として、香港大古製糖會社の製品に係り怡利洋行の支那製糖會社の製品は甚だ不振にして、前者の八割に對し二割を占むるに過ぎずと云ふ。又品質も後者は前者に比し色合黑く劣等なり。

(三)輸入白糖　地製糖の豐凶に依り輸入數量に差違を生ずることあるは免れざるが、實際最近に於て其の輸入約三十五萬擔以上に達し土產品を壓倒しつゝあり。主として果物の砂糖漬菓子又は氷糖の原料に使用せられ、殊に色相白を貴ぶが故に、爪哇白糖にても上物の賣行最も多く現今二十四號の取引全白糖の約半を占む。之に亞ぎ賣買の行はるゝものは二十三號より十八號迄のものに屬し、其の以下のものは需要少し。(由來統計上白糖及精製糖の輸入比較的少量なるは之に類似したる爪哇白糖の二十四號品の如きが其の代用として販路を浸蝕しつゝある爲めならむか、實際後者は大古の一號品に比して常に一弗以上割安にして、今や相當の地盤を作りつゝあれば今後と雖も精製糖の增加は比較的至難の業なりと云ふ)。取引干係を見るに爪哇糖は全部香港砂糖商の勢力範圍にあり、產地より直接買付をなさず。總て香港倉渡の條件なり。引取は普通は切

約後一箇月なるが代金は現金拂又は一週月拂最も多く延取引は極めて少し。香港・廣東間の運賃・諸掛は元より買主の目辨なり。

次に地製糖の現狀を見るに爪哇糖に對抗して、其の輸入を防止しつゝある。砂糖は東莞及惠州府等東江筋の生產に係り、其の總產額は四十萬餘擔と稱す。種類には赤・白・板糖を主とし烏糖及糖水少量あり。地製糖は爪哇の十八號品に匹敵し、上物は極めて好評を博し、白糖中双古・項古・克白及二白等に分つ。

由來廣東省は氣候溫熱にして、臺灣に類似し省內到る處に甘蔗の栽培あり。殊に潮州府一帶及惠州・東莞縣・海南島は砂糖の主產地たり從て從前例へば一九一二、三年頃は汕頭より約百萬擔、廣東より約十萬擔瓊州より約十二萬擔合計百二、三十萬擔の輸出を見たりしが、其の後爪哇糖の侵入其の他の爲に漸減の傾向あり。收穫は舊歷の十一月より翌年一、二月頃迄に全部を終了し、甘蔗は七八月頃の生育期に人糞及は豆粕等を施肥するのみとす。

製糖法は全然舊式にして所謂絞蔗器(石臼)を牛車にて引き搾糖する。臺灣在來糖廍の舊式のものに同じ步留の如きも普通五步乃至六步見當とす。又製糖には一般に一箇村甲乙等の組合を作り。各場處に依り一圖又は一組となり寄合に依り絞蔗器を設け、製糖期中各自順番を以つて、各自所有の砂糖を搾るものとす。製品の荷造は產地に依り多少異なれば、惠州の如きは五十五斤の籠入とし廣東市場に搬出す。取引は廣東糖商と產地に依り又一定せず。見本に依り先物賣買あり。又廣東に於て現物賣買に附するものとあり。又或は產地より委託渡として積出すものあり。曾て東莞及惠州產ありたれど最近數年間爪哇糖の輸入熾となるに及び該方法は漸次減退したりと云ふ。

要するに土產糖は今後支那人の甘蔗栽培法併に製糖法に積極的改良を加へざるに於ては、漸次外國糖に壓迫せられ年々其の產額の減退を見るべし。最近五箇年間に於ける外國糖の輸入額は左の如し。

| | 一九一五年 | 一九一六年 | 一九一七年 | 一九一八年 | 一九一九年 | 一九二〇年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 赤糖 | 六、一八五 | 八、九七九 | 二、五八三 | 七、四二 | 一五、二三四 | 五、八四六 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 白糖 | 一九六、五一六 | 一八、一二四 | 二三五、〇八三 | 三六七、八二〇 | 三〇六、九一〇 | 一七八、二二一 |
| 精糖 | 一六六、八四五 | 二一、三四六 | 一二、四二九 | 一三、三七六 | 五五、四九五 | 二六、九四五 |
| 合計 | 三一九、三四〇 | 二〇〇四九 | 二六九、八九四 | 三八八、六〇七 | 三九五、六五七 | 二二一〇一〇 |

第六其の他輸入品　（一）輸入外國品として重要なるものは例へば手織物は最近漸次増加し、一九一八年二十九萬三千餘兩が一九一九年には四十二萬二千餘兩となり、一九二〇年には八百三十九萬九千餘兩に激増し、石油は一九一四年には二百二十二萬餘兩が一九一九年には三百四十二萬四千餘兩に増加し、一九二〇年には減じて二百五十八萬四千餘兩となり、小麥粉は一九一四年には百七十萬五千餘兩に達したりしが、其後減退し一九一八には七萬三千兩に下り、一九一九年には三十三萬兩餘に上り更に一九二〇年には七十二萬八千餘兩に増加せり。米は一九一九年には需要多かりしが、船腹不足の外に前年の五萬二千三百餘擔に對して、四千八百擔減退し染料は近年益々増加し、一九一八年の十五萬二千餘兩が、一九一九年には二十八萬八千餘兩となり、一九二〇年には「アニリン」染料のみにて八十四萬餘兩に逹せり。金物類も漸次増進の傾向あり。一九一九年は前年の百八十九萬四千餘兩に對して、二百八萬八千餘兩を占めたりしが如く、例へば日本型銅は歐米品の船腹不足の爲に輸入梗塞の結果、廣東造幣局納入品として前年の千八百九十擔より七千二百三十六擔に増進し、鐵條及柔銅條も前年の一萬二千八百餘擔が三萬六千二百餘擔に増加し、其他各種金屬類は皆同樣に輸入好況に在り。建築材料は廣東近來の市區改正及家屋の新築及改築に依り、益々其の需要を喚起し、一九一九年には二十五萬弗餘に達し數年後に數倍せり。「セメント」も同上理由の外「セメント」廠閉鎖の爲に同年に十三萬七千餘擔に達し一九二〇年には二十四萬餘擔に増加せり。煙草は一九一九年には前年の紙卷百五十萬九千餘兩が四十一萬七千餘兩に下り、本數に於て四億二千二百六十七萬餘本より三億三千六百餘本に減じたるが如く、一部廣東土製煙草公司及南方愛國煙草公司等の新會社の設立あり。又南洋兄弟煙草會社が活動し來り、勁敵・英・米・「トラスト」に占領せられたる販路を奪回したるものとす。從つて一九二〇年には紙卷を合して其の輸入九十九萬餘兩に激減せり。殊に注意すべきは日本品を含む各種輸入は不況に在り。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

例へば海產物中乾鰑は一九一九年には前年の一萬一千二百餘擔より六千百餘擔に、鹹魚は十六萬九千餘擔より十五萬九千餘擔に、日本製化粧石鹼は五萬二千餘打より四萬二千餘打に主として日本製の掛時計は二萬四千餘個より一萬六千六百餘筒に減退し、籐は近年益々好況に在り。一九一八年の二十二萬三千餘兩が一九一九年には三十六萬六千餘兩に上り、一九二〇年には五十二萬五千餘兩に增加したり。

(二)移入內國品として重要なるものは例へば米及籾にして、一九一九年には前年の一萬一千七百餘擔が六百三十六萬七千餘擔に激增し、內國の出入に一大變化を來せり。是れ蓋し前年米値の凶歉にして貯藏米の少かりしこと、及安南及暹羅より外米の輸入杜絕したることに依るものとす。從つて一九二〇年には半減して三百餘萬擔となれり。其の他大豆は一九一八年には五十七萬八千餘擔一九一九年には八十六萬三千餘擔一九二〇年には八十七萬擔豆粕は一九一八年には三萬八千九百餘擔一九一九年には十一萬五千八百餘擔一九二〇年には十七萬八千擔に生綿は蒲團綿衣等の需要盛なると莫大小靴下製造用の原料とし需要大なるとに依り、一九一九年は前年の四十萬餘擔に對して五十二萬四千餘擔に增加し、其の他生金巾及土布又綿絲等の減少したるは、當地綿織業及紡織業の盛に勃興したる爲めなること前に述べたるが如し。(了)

# 獨逸の將來は東方に在り

後藤改平 譯

本編はフチン、ダスターフ、ヘルト氏が近刊の獨逸雜誌デル、ノイエ、オリーント紙上に揭載せる一大論文であるが、或は獨逸人の意見を代表せるものとも見るべく、且つ大戰後獨逸人が、如何に東方に注意するに至つたかを窺ふに足るべく、邦人の參考としても一顧の價値あるを思ひ並に其の全編を譯出することとした(譯者識)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 一　戰時に於ける國家經濟の獨立

世界戰爭中獨逸國は、總ての方面から封鎖されて、全然自國の經濟にのみ依賴せねばならぬこと、爲つたので、他の國家から離れて、經濟上の獨立をせねばならぬと云ふ考へが非常に擴がつたのである、而して此は獨り獨逸國計りでなく、經濟的聯合の決裂に依りて、大なる苦楚を嘗めた各國は、孰れも此の考を起したのである、乃ち優越なる工業を有する英國にては、大いに農業を奬勵し、反之農業を有する國家は孰れも工業を奬勵したのである、殊に獨逸國が此の見地の下で戰爭中大いに努力したことは、今更喋々するまでもない。

## 二　平時に於ける世界經濟聯絡の必要

然るに平和恢復以來、各國家の經濟的結合は、戰時中信じ居たるよりは、一層密接な關係を有することが明白に爲つた、卽ち世界經濟と云ふことが、愈々現實化せられて、各關係國家の一も、其の仲間から脫却することが、出來ないと云ふ事實が明かに爲つた、換言すれは世界各國は其の各自の關節が交互に關係を有して離る可らざる一個の機關である、之れに對する最良の證據は卽ち現在に於ける世界經濟の危機である、而して其の主たる原因は獨逸、墺斯利、土耳其、露西亞等の經濟か萎靡したからである、惟ふに此等の國家は今や全く購買力を持たぬ、斯くて西部の諸工業國では、其の貨物は殆んと休止の姿で、且つ無職業者は益々增加の形勢を示すに至つた。

聯合國は獨逸國に對して、實に困難なる負擔を課したのであるが、現時の場合に於ても聯合國は戰時中に考へ居たるが如く、獨逸國をして他の列國と全然經濟的沒交涉たらしむることは出來ぬ、何となれば獨逸の復興は其の生產品の輸出を爲すと共に、又粗成品の輸入に竢たねばならぬからである、之れにも拘はらず聯合國は獨逸に對して、今猶ほ經濟的沒交涉の要求が排棄せられない、而かも實狀は世界經濟に適合する樣に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せねばならぬのである、惟ふに獨逸の國民經濟は、貨物の需用に就いて、獨り獨逸自國の貨物のみにては之れを充たすことが出來ぬ、却つて必要なる諸物品は外國から其の輸入を仰がねばならぬ計りでなく、又獨逸の生產品の販路は、戰爭の爲めに外國から閉塞さるゝことは出來ぬのである、而して此の目的は唯た東方に對する獨逸の外交政策の樹立に依りてのみ達せらるゝのである、殊に東方との貨物交換の上に向けられた獨逸の國民經濟は、世界戰爭に依りて、妨止さるゝことは出來ないと云ふ證據を示して居るのである。

## 三　外國と經濟的沒交涉の國家

凡そ經濟的に他國と沒交涉たることの出來得るのは、獨り廣大なる土地を有する大國家のみである、唯た罕れには小國と雖も其の經濟上に使用し得る自然力や、資料を有することのないではないが、彼の瑞西、和蘭、拔幹諸國の如き比較的優良なる小國でも、決して經濟的に他國と沒交涉たることは出來ぬのである、瑞西は勉强な國民を有して農業には熱心であり、且つ各種の工業は盛大であり、又其の風光の美麗なるため、每年幾萬の觀光客を吸引する國柄であれど、戰時中には自から戰亂の巷とこそ爲らなかつたが、其の國民は全く無援の狀態に陷り、眞に悲慘を極めたのである。

小さい國家が經濟的に獨立し得るのは、唯た大國との聯絡ある場合であるか、又は戰時中にスカンヂナビヤ三國が爲したように、小國相互に結合を爲した場合に限る、蓋し獨逸國は自己固有の力及固有の物資のみで、經濟的に獨立を爲し得るほどの充分なる大國家でない、故に他から經濟的支持を受けるか、又は自國內に生產せぬ貨物を何時にても輸入し得らるゝ國家との聯絡か極めて必要である、併しながら此の如き經濟的營養の目的は唯だ左の場合にのみ達せらるゝのである、卽ち政治上の原因から戰爭の可能が全く排除せられてある場合である、要するに戰爭は外國貿易の仲絶に依りて、何時も國民經濟を危機に陷らしむるものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 四　獨逸と他國との經濟的關係

獨逸國及其の他の國でも、隣接の小國瑞西、和蘭、瑞典等と聯絡を求むることが出來る、而して獨逸國は常に此等の諸國と共に戰亂の渦中に投ずる云ふこともないであらうが、併し此等の小國は、今次の戰爭が證明した如く、餘まりに西部諸强國の威壓の前に暴露されてある、左るがゆへに獨逸國と此等諸强國との間に新戰爭の開かるゝ場合には、右諸小國は實際交付し得る物資をも供給することは出來ぬ、卽ち牛乳、乾酪、バタ、卵、牛肉、豚肉、魚類等をも供給することは出來ないのである、而して今や瑞西國は戰爭に依りて、佛蘭西との關係が、戰爭前よりも一層密接と爲り、スカンヂナビヤ諸國は、英國との關係が、戰爭前より一層密接と爲つたのである。

舊墺匈帝國內に新設された諸國は、獨逸國に對して最近多くの物資を齎らすことは出來ぬ、又此國は自國に必要なる食料をも滿足に生產することが出來ない而已ならず、工業上の組成品は殆んとない、唯た一時的にメーレンから小麥、匈牙利から卵、牛肉其の他ガリシヤからの輸入が多少注目さるゝのである。

拔幹諸國は肉を供給することが出來る、卽ち塞耳比亞は豚肉、勃牙利は羊肉(羊毛、羊皮)である、而して拔幹諸國の家畜は大なる發展力を持つて居り、平和が維持さるゝ限り更らに隆盛に至るであらう、該國民は從來家畜に對しては、餘り重きを置かなかつたので、多くは之れを放養し、唯た冬時に於てのみ必要な食料を與ふる位で、其の種屬の改良にも殆んど注意せなんだ、然るに世界戰爭は東方諸國民を大いに覺醒せしめたので、彼等も將來は大なる注意を以て經濟的に爲り、從來の樣な方法は勿論執らぬことゝ爲るであらう。

拔幹諸邦の鑛山に付ては、吾々は未だ充分の信用を置くことは出來ぬ、塞耳比亞、勃牙利からは銅を出だすも、是れまでの總生產額は、一萬三千噸乃至一萬四千噸に過ぎないが、猶ほ增加はするであらう。

羅馬尼亞は穀物、石油を供給することが出來る、波蘭は木材の外何物をも持ち來たすことは出來ぬ、吾々は生活品及組成產物の供給國として土耳其に希望を繫いて居たが、之れは戰爭の爲めに破壞された、若しも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

土耳其の農業か進歩をしたならば、十數年後には、我獨逸國は小亞細亞から獸皮、穀物、獸毛、石油、煙草等を輸入し得たであらふ、殊に棉花、石油には多大な望みを屬して居たが、此等は最早計算の中に入る丶ことは出來なく爲つた。

## 五　露國の復興と獨逸の工業

獨逸の國民經濟及其れの獨立に對しては、以上述べた諸國よりは露西亞が一層重要な關係を持つて居る、惟ふに露西亞は現今全く混沌たる狀態である、併しながら一度は露國民の理性が支配すること丶爲りて、其の安寧と秩序が恢復さる丶であらう、吾々は實に其が實現を渴望するものである、斯くて獨逸の將來は水上に存せず、却つて東方の陸上にあるのである。

ワイクゼルから全露西亞及西比利亞を通して、所謂「世界の屋根」(Dach der welt)まで擴かる所の彼の廣漠たる平地には、獨逸の國民經濟上の生活品と工業上の原料品（一二熱帶地の生產物を除ける）を無限に保藏するのである、ウクライナを含める歐州露西亞は、豐饒なる穀物の收穫に必要な有名の黑土を具有する上に猶穀物の發生に功能あるチスカウカシーを含有する、又西比利亞も穀物の生產地として、將來を持つて居るのである。

廣大なる舊露國（波蘭を除く）は砂糖、菓實、魚、肉類及石油を供給する、殊に獨逸の爲めに一層重要なのは西比利亞に於けるバタの生產である、而して一九一二年にはバタの生產額は四百三十萬ブウドで（一ブウドは我四貫三百八十二匁餘）一九一三年には露國のバタの輸出は殆んど四百七十一萬七千ブウドに達したが其の內一百六十五萬四千ブウドは獨逸への輸入で、二百十二萬六千ブウドは、英國への輸入である、西比利亞に於けるバタ生產地の本場は、亞爾泰山で、其の外バルナール、ビスク、クツネスク、セミバラチンスタ等である。

西比利亞の家畜は其の飼養法が甚た不完全で、殆んと放養されてあるので、冬期に至れは全く敗滅の姿で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ある、故に此を小屋餌養と爲し、且つ其の餌養法を改良したならは、一層多くのバタを生出することが出來る、併しなから小屋餌養法は、大いに土地整理を要するのであるが、之は現時の西比利亞には、未だ缺乏して居る、獨逸は又工業上の原料を露西亞から輸入することが出來る、乃ち材木、石油、獸毛、亞麻、大麻、銅マンガン、鐵、鹽等である、就中獨逸國の最重要なのは、織物用の纖糸である。

露國は戰爭前まで墺斯太利に向けて、大いに羊毛及亞麻、大麻を供給した、猶ほ露國に於ける家畜（羊）及亞麻の耕作は大いに擴大する餘地がある、之れを要するに獨逸國は自國の缺乏をば、露國に依りて充たすことが出來るので、最早航海國との關係を必要とせぬのである。

## 六　獨逸と土耳其斯丹との經濟關係

獨逸は土耳其斯丹から棉花を輸入することが出來る、同地の棉花耕作は甚た有望である、一九一六年の棉花は六六九、〇〇〇デスエチンの土地から、殆んと二千萬プウドの收獲を得たのである、若し灌漑面積が擴張さるゝなくは、其の收獲は益々增加するであらうが、之は一に繋りて金の問題に在るのである、蓋し土耳其斯丹の耕作面積の擴張は水量の如何に關係し、又其の住民が幾何の棉花を供給し得るかは、一に其の生活品の用意如何に在るのでなる、戰爭前までは土耳其斯丹の住民は、露國政府の壓制の下で、多く棉花を耕作し、而して穀物の耕作は比較的僅少であつた、之れに對し西部露西亞から穀物を送つたのである、然るに革命の勃發と共に穀物の輸送が止んだので、土耳其斯丹の住民は實に非常な困難に陷つた、猶ほ土耳其斯丹の穀物問題は隣國西比利亞からの影響をも受けたのであるが、此は西部露西亞より西比利亞への通路が閉塞されたからである。

土耳其斯丹に於ける棉花栽培の擴張可能に就いては、既に水利及棉花栽培の專門家から精密なる研究が遂けられて、明確な決定さへ與へられたのである、水利關係に付ては夙に多くの研究が公表されてある、元來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

土耳其斯丹では土耳其に於けるが如く、印度種の棉花が栽培さるゝのであるが、此の棉花は短き支柱を持つて、其の房の成熟するまで開披せぬので、彼の亞米利加種の如く摘取が甚だ面倒である、併し印度種の此の特性は一方に於て、其の摘取が長い空隙で出來る利益がある、其の他印度種の棉花は、其の花絲が、露や雨の爲めに容易に損傷されない特長があるのである、一二年以來土耳其斯丹では、亦ウプランド棉花が能く栽培さるゝように爲つたが、此の棉花は其の手入れが一層必要である。

## 七　獨逸と露西亞との不可離の關係

獨逸と露西亞との關係が如何に構成されてあるかは、現時全く不明であるが、而かも多くの事實は此の二國間の政治的並經濟の關係が、交互に離る可らざることを語つて居る、蓋し獨逸に取りては露國は生活品及原料品の供給國として、將た又獨逸生產品の市場として、甚た必要である、之れに對して露國は其の國民經濟の復活を謀るには、獨逸の生產品、資本、並獨逸人の智識を甚だ必要とするのである、惟ふに獨逸と露西亞とは元來固有の一經濟區域を形成して居る、萊因からレナに至るまでの廣大なる平地の經濟區は卽ち其れである、此を「歐羅巴亞細亞」と稱することが出來る、而して此は世界戰爭の結果形成された英、米、日、支經濟區の均衡ともなるのであるが彼の一九一八年に計畫された獨、墺、勃牙利及土耳其を總括せる中央歐羅巴の經濟區は、今は一場の夢と消えて終つた。

歐羅巴の經濟區域は、獨逸をばアングロザクソンの經濟から離れて、獨立せしめるのに充分である、獨逸への輸入國として、將た又獨逸生產品の市場としての露國は西部强國から容易に攻擊さるゝものでない、吾人は露國との古るき貿易關係を有する、故に露の需用に對しては、他の工業國よりは一層精密なる知識を持つのである、農業上の機械及道具に對して、露國の需用は實に無限である、既にウクライナとの平和締結以來農業上の機械、大鎌、鎌等を露國に供給したが、亞米利加は既に戰前より多數の農業機械を供給した、而

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して草刈機は西比利亞に在るナチオナル・ハルフエスター、コンパニーが、殆んど一手販賣である、猶は西部西比利亞には將來乾酪製造用の器械の需用が益々隆盛と爲るであらふ。

西比利亞に於ては其の外鑛山業、紡績業、製糖業、酒精業、水事業等に要する器械の需用が、増加する見込がある、又西比利亞に於ける多數の客車、汽罐車は損傷されてあるので、此等のものも、改良され或は新たに補充されねばならぬ、又西比利亞に於ては紙、新聞、レツテル其の他印刷業に關する大問題が殘つて居るのである。

## 八　獨逸の將來は東方に在り

獨逸は又露西亞及西比利亞を通して、支那から必要なる工業上の原料品たる棉花、生繭及養料品、大豆等を取らねばならぬ、而して此の輸入に就いては西部の諸强國も之れを阻止することが出來ぬ、惟ふに支那は政治にも、又經濟上に獨逸國に取りては、甚た重要なる關係を持つて居るのである、吾々は中華民國と善良なる關係を維持することに就いては、決して之れを等閑に附することは出來ぬ、英國は海上から支那を支配するものであるが、獨逸は露國と聯合して、陸上から支那を支配することが出來る、又印度に對しては獨、露若くは兩國が一致して、英國の何ふすることも出來ない陸上から到達し得ると云ふ危險が非常に存在して居る、今夫れ亞細亞に於ける獨露の協力は英領亞細亞に對しては、不斷の脅威と爲るのである、苟も獨逸國が再び世界的覇業を遂けんと欲するならは、露國及他の東方國民との密接なる聯絡を維持すべきことを忘れてはならぬ、猶は一度獨逸が復興せんことを見るならは、獨逸の將來が東方に在ることを牢記せねばならぬのである。（終）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 思ひしのばるゝ二つの史料

蕉鹿夢

「千軍萬馬の間に馳聘し、硝煙彈雨の衝に斃る人生の快、焉より大なるは無し、苦楚經營、功業未だ成らず、爲すあるの材を抱て、空く天南蠻荒の境に死す、人生の悲、焉より大なるは無し、曩に深堀大尉の一行は、臺灣横貫鐵道線路探檢の命を受け、埔里社より蕃界に入り、分水嶺を超えて、花蓮港へ横斷すべき目的を以て、本年一月十一日臺北を發し、同月十八日埔里社より蕃界を跋渉し、爾來好機ある毎に、埔里社守備隊長を經て、屢々音信を通ぜしに、其最後の報告は、大尉が哆囉咯蕃より發せしものにして、實に一月二十八日に係れり、其要に曰く萬難を排し、方法を盡し、漸く木瓜蕃地に入るの約を了せり、明二十九日は分水嶺を踰えんとす、一行健全と、噫此簡明にして氣魄ある報告は、實に大尉が永訣の言辭たらんとは、今にして當時を追懐せば、轉た暗涙に堪へざるものあり、是より先き、臺灣東海岸花蓮港附近、大嵙崁蕃社の狀況不穩の聞へあるを以て、總督府は、特に其危險を避け、深く愼重を加ふべきの注意を與へ、更に飛電以て、大嵙崁蕃討伐の著手を告げしめらる、當時此飛電は、埔里社守備隊長の手を經て、大尉を縱境に追蹤せしも、遂に達するを得ざりしと、嗚呼交通の途なき、又如何ともする能はざりしなり、然るに大尉が剛毅にして、任務を果すに熱心なる、大塚川見の兩軍曹湯端二等卒の勇敢なる、原技師が快活にして調査に熱心なる、高野通譯板倉屬森雇員が豪膽にして勤勉なる、傭人等の堅忍にして素樸なる、上下擧て眼中危險を視ず、胸中恐怖の念なく、一意專心其成效に急にして禍の其身に及ぶを顧みるに暇あらざりしもの、蓋し勢の然らしめし所ならん、一行の音信久しく聞くなきを以て、總督府は大に之を慮り、先には埔里社撫墾署員の探訪となり、後には秋元柿内兩少尉の探檢となれり、殊に此後者の探檢は、具さに辛酸を嘗め、萬艱を冒したる結果、不幸にも、終に今日に至り、殆ど明確に大尉の一行十四名を擧て、埔里社の東、合歡山の西、ミナツケン溪の涯に於て、蕃人の掩撃を受け、非命に斃れし悽絶慘絶なる證跡を發見するを得るに至れり、嗚呼痛い哉、其收拾せる遺棄物を檢するに、斑々たる血痕と數多の彈痕とは、脚袢外套の斷片に印し、蕃槍無數の穿孔は、傭人單衣の全幅に留り、覩る者をして切齒扼腕憤慨に堪へざらしめ、而して當時如何に大尉一行は、苦戰奮闘せしやを想像するに餘あらしむ、夫れ此一行が、萬斛の怨みを含みて、合歡山下一塊の土と化し、月寒く風冷かなるの夜、幽魂溪水の限に吟ずと雖も、其功績遺烈は決して湮沒を許さゞるものあり、若し夫れ蕃人膺懲の方法に至りては、前後緩急、當路自ら成算ありて、將に以て大に諸靈を慰むるの日あるべきを信ず、蓋

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り哀む、千里遺孤の遺族、此變を聞き、其哭慈悔の情、眞に想ひ見るべきなり、抑も大尉一行の遺績は、其芳名と共に永く臺灣の歴史に灼燿たるに足る、而して其事の太だ悲むべきに至りては、吾人同胞として、聞くもの豈一掬の熱涙を灑がざるを得んや、茲に檄を發して大方の義捐を請ひ、以て其遺孤をして父兄の遺志を繼ぐに容易ならしめ、且其遺族を賑恤せんとす、啻に大尉以下一行の爲めのみならず、亦以て後進有爲の士を激勵せんとするの微意に外ならず、請ふ冀くは同感の諸君、此意を諒し、倶に此事を贊助せらるゝを得ば、豈單に幽魂を泉下に慰するのみに止まらんや」此沈痛なる飛檄は、人も知る、明治三十年に起れる、深堀陸軍大尉一行全員十四人の蕃界遭難に際し、臺灣總督府軍務局長たりし立見尙文氏を初め、官民三十名の發起を以て、義捐金を募りし主意書の要領であるが、さて之に因みてユクリナクも思ひしのばるゝ二つの史料を得た、其一は、深堀大尉が長崎縣肥前國西彼杵郡深堀村の人なので、墳墓を其原籍地に修築せられ、嘗て明治三十五年、更に當時の臺灣總督たる關係ありし乃木將軍に選文を請ひ、碑を建てゝ功績を不朽に傳ふることゝなせしもの是れで、其文は左の如くである。

陸軍步兵大尉深堀君之碑

人誰無死、唯得死處爲難耳、如大尉死、雖非無憾、亦可謂得其處者歟、明治二十九年、予爲臺灣總督、大尉在予部下、總督府將新敷鐵路、命大尉踏査、時臺灣始定、蕃情不安、人或難之、大尉慨然期必成、乃與一行十三人、以三十年一月十一日發臺北、自埔里社入蕃地、到處具狀以報、其自哆囉啝蕃者爲終報、曰排萬難至此、明日將踰分水嶺入木瓜蕃、實一月二十八日也、會有太魯閣蕃不穩之報、總督府乃命埔里社守備隊、追止大尉不得、百方蹤跡、得一行遺物于合歡山下西溪蕃家、嗚呼大尉死矣、特旨追陞正六位、以戰死例賜金于遺族、大尉姓深堀、名安一郞、肥前西彼杵之人、爲人剛直、奉公無私、死年三十有四、考諱弼之、大尉死後六年、其叔父陸軍步兵少佐深堀順壽、請予曰、得將軍之文、以慰死者、予哀大尉之齎志而死亡也、乃不辭而諾之。

明治三十五年六月一日

余は前年乃木將軍の遺物のくさぐさを展觀するの機會を得た時、偶然之を將軍自筆の詩歌文稿の中に認め、乃ち手帖に寫したのが本文で、夫れは全く初稿と覺しく、特色ある將軍一流の雄渾なる筆勢もて、半切紙に書き下され、そして處々に訂補塗抹を加へし迹が見え、其推敲に苦心を費されたといふことも、明らさまに證據立てらるゝのであつた、凡そ名流大家別けて高官の選文といへば、概して部下の代作が多く、甚だしきは其揮毫すらも代筆があるといふ、欺世盜名の惡傾向、滔々世を擧げて然るの今日、件の手稿の一稿文。敢へなく乃木將軍の面目を躍如せしめて、他の虛構的なる長篇大作に優ること萬々なるを感ずる心地がする、其二は、軍部以外の文官を以て、一行に參加し、同じく名譽の犠牲となりし、民政局技師林學士原音吉氏のために、同學に

して同僚たるの縁故ありし八戸道雄氏が、滿腔の誠意を凝めて作成せし追悼文で、一たび讀んで泣かざる者は、其人必ず溫情漢に非ざる底の趣がある曰く。

　爲すあるの學識を蓄へ、爲すあるの資才を具へ、爲すあるの時世に生れ、滿腔の經綸、伸ぶるに由なく、空しく壯志を齎らして早世するものあれば、天下誰か之れ悲まざらんや、況や天南荒陬の域に殘殺せらるゝものに於てをや、其悼更に一層を加ふるものあり、吾友民政局技師林學士原音吉君の如き、實に此大不幸に遭遇せし人なり、君は文久二年四月を以て、信州上伊那郡南向村葛島に生れ、明治十八年九月、東京山林學校に入り、二十五年七月、帝國大學農科大學林學科を卒業し、同月林務官補に任じ、職を石川大林區署に奉じ、一方面の林務を監督指導す、二十六年十月、同大林區の署廢せらるゝるや、君御料局靜岡支廳に轉じ、帝室林經營の任に當る、二十八年臺灣の我版圖に入るや、君大に感ずる所あり、二十九年十二月、終に官を拋ちて渡臺し、民政局に奉仕し、殖產部林務課勤務を命ぜらる、時恰も軍務局に於て、臺灣横貫鐵道線路探檢の企圖あり、君踴躍奮て深堀大尉の一行に加はり、蕃地森林の狀態を調査し、兼て沿道殖產の狀況を視察するの命を帶び、一行と共に埔里社より眉溪を溯り、中央山脈を横過し、直に東海岸に出でんとし、途にして兇蕃の爲めに襲はれ、一行十三名と同じく奮鬪して國に殉す、年三十有六、嗚呼悲い哉、君資性樸實、率直にして飾らず、其校に在るや、前後七年、拮据黽勉、始終一貫、敢て拘ることなく、詳に學說の異同を分ち、深く學理の淵源を討ねずんば止まず、同學中勉强家を數ふるもの、必ず指を君に屈す、其官に在るや、愼重以て林政を處理し、緻密以て技術に從事し、細事と雖も苟もせず、常に毫末の誤だも、且之れなからんことを期す、而して已を持する純潔正直、人に接する丁寧懇切、一生の肝膽を擧げて、學と職とに致すものゝ如し、賊に得易からざる人物なり、其將に埔里社に入らんとし、踏入鞍峠を過ぐるとき、深樹鬱蒼、頁林四林に滿ち、喬幹天空に朝するを見、愉快自ら禁へず、筆を寄せて曰く、我れ生れて業を此森林に執るを得、死すとも憾なし矣と、何ぞ其れ學に篤ふして、職に忠なるや、而して此一片誠實の語は、端なく終天の懸讖となり、未だ業を此森林に執るに及ばずして、身旣に死せり、死して豈其れ憾なからん乎哉、嗚呼悼い夫、今や新土經營、蕃地拓殖の事、急なるに當り、此有爲の人才を喪ふ、惜惋何ぞ堪へん、遺憾何ぞ極らん、嗚呼トロツクの山高く聳へ、ミナツケンの水長へに流る、健骨蕃域に橫はりて、英魂天に彷徨たり、嗚呼誰か君の芳志を繼ぎ、誰か君の英靈を慰むる者ぞ。

其原文は、嗚呼原林學士と題し、八戸氏の手稿のまゝ故林學士小西政章氏が保存しありしを、嘗て余に轉贈せられたるもの卽ち是れである、今や臺灣史料編纂の開始せらるゝ盛事に際會し、偶ま以上史料の二つが目に觸れたので、敢て本報を通じ主修委員としての天南白水二兄の硏北に捧ぐることゝする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

統計

# 臺灣人口統計論（四）

臺灣總督府統計官　堤　一　馬

## 第二章　人口靜態統計（續）

### 第九節　土語を解する內地人

#### 第一款　全　島

（一）言語調査の範圍　明治三十八年及大正九年の臨時臺灣戶口調査にては全人口に對して其の語り得る常用語及副用語の全部を調査したり、に內地人の土語及本島人の國語は其の用語中の一種として調査せられたるに過ぎず、然るに各人の常用語の種類は其の種族に追隨するを原則とするが故に大正九年の國勢調査にては一般用語の調査を廢し、特に本島に於て必要なりと認むる內地人の土語及本島人の國語のみに調査の範圍を局限し、之に依りて內地人と本島人との間に於ける言語共通延て思想同化の一端を卜知せんとす、而して其の土語又は國語は內地人又は本島人の副用語として用ゐらるゝもの其の大部分を占むべきは勿論なるも又常用語たるものも絕無には非ざるべし。

（二）內地人の土語　大正九年十月一日現在の內地人總數十六萬四千二百六十六人中、土語を解する者は一

萬七千二百七十三人即ち一割五厘なり、而して之を男女に分てば男は一萬四千九百六十六人即ち一割六分二厘に上るに、女は僅に二千三百七人即ち三分二厘に過ぎず。

「土語を解する者」とは日常普通の土語を聽き且語り得る者、換言すれば土語を以て日常普通の用務を辨じ得る者の謂なり而して土語は左の四種にして、其の一種のみを解する者も將二種以上を解する者も等しく右の數に含まる。

(イ)福建語 泉州語、漳州語、廈門語等にして福州語、潮州語、興化語等を含ます　(ロ)廣東語 所謂客人(ケーラン)語にして廣州語を含ます　(ハ)福建廣東以外の漢語　(ニ)蕃語

(三)土語通減少の傾向　土語を解する内地人は明治三十八年は人口總數の一割一分九厘大正四年は同一割二分三厘を算したり、然るに大正九年の調査にては實數一萬七千餘人にして前二回よりも多數なれども人口總數中の割合は一割五厘にして明治三十八年に比して一分四厘大正四年に比して一分八厘を減じたり。蓋し内地人本島人間に於ける言語の共通は本島人に於て特に其の必要を感ずるが爲國語を解する本島人の數は前二回の調査に比して著しく增加せること次節に述ぶべきが如し、然るに内地人の土語は之に反比例して漸次必要の程度を減ずるは疑なき事實なり、而も土語を解する内地人の實數は增加を告ぐるも其の增加は人口の增加に伴はざるのみ。

更に男女を分ちて前調査との比較を爲せば對人口率は男女共に減少を告げ、殊に女は大正四年に比して實數をも減じ三千百八十八人より二千三百七人と爲れるが爲人口總數中の減少は二分一厘に及べり、左表に就て之を知るべし。

口土語を解する内地人比較　(△は減)

| 體 性 | 明治三十八年十月一日 | 大正四年十月一日 | 大正九年十月一日 | 大正九年を明治三十八年に比し增 | 大正九年を大正四年に比し增 | 人口千中 明治三十八年十月一日 | 人口千中 大正四年十月一日 | 人口千中 大正九年十月一日 | 人口千中 大正九年を明治三十八年に比し增 | 人口千中 大正九年を大正四年に比し增 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 六、八二九 | 一六、九九一 | 一七、二七四 | 一〇、四四四 | | 六八二 | 一一九・一 | 一二二・九 | 一〇五・二 | (1) | 一三・九 | (0) | 一七・四 |
| 男 | 六、〇二〇 | 一三、四〇三 | 一四、九六六 | 八、九四六 | | 一、五六四 | 一七三・九 | 一七七・〇 | 一六一・七 | (1) | 一三・二 | (1) | 一五・五 |
| 女 | 八〇九 | 三、一八八 | 二、三〇七 | 一、四九八 | (1) | 八八一 | 三九・六 | 五五・四 | 三二・二 | (1) | 三・四 | (1) | 二・二 |

大正九年を明治三十八年に比較したる人口千中の割合に於て男女平均數が男よりも女よりも共に多數なるは一見平均數の性質に反するが如きも、是れ時を異にする兩調査の數の關係より生ずる稀有の現象にして已を得ざる所なり。

第二款　州廳別

(一)男女總數　土語を解する內地人の州廳別は五州にては最多臺南州の四千四百八人より臺中、臺北及高雄の三州を經て新竹州の千八百七十八人に至る間にして、又花蓮港廳は六百餘人、臺東廳は三百餘人なりしが然るに人口總數中の割合は臺中州の二割七厘を最高とし新竹、臺南、臺東及高雄の各州廳亦全島平均なる一割五厘以上なるに、花蓮港廳及臺北州は其の以下にして臺北州の四分九厘を最低とす、卽ち臺北州の內地人を以て土語を必要とする程度の最輕きものとす。

(二)男女別　更に各州廳の內地人を男女に分てば人口總數中土語を解する者の割合は、男に在りては臺中州、新竹州、臺南州、臺東廳、高雄州、花蓮港廳及臺北州の順位を以て三割一分二厘乃至八分を示すこと右男女總數に於けると同一なるに、女に在りては新竹州の七分一厘を最多とし臺中州は六分九厘を以て第二位に在るを差異とす。

州廳別土語を解する內地人の表示は次節國語を解する本島人と共に其の部に揭げんとす。

第十節　國語を解する本島人

第一款　全　島

(一)本島人の國語　本島人の國語は明治三十八年及大正四年の臨時戶口調查にては副用語中の一種に常用語として調查せられたるも、大正九年の國勢調查にては本島人の言語として單に國語の能否のみを調查し而して其の國語は常用語として用ゐると副用語として用ゐるとを區別せざりしこと前にも述べたるが如し。尙國語は支那人に付ても調查しあるも「要覽表」には之が表章を闕ぐ。

大正九年十月一日に於ける國語を解する本島人は九萬九千六十五人にして本島人總數の二分九厘に當る。而して之を男女に分てば男は八萬七千八百九十七人にして男總數の四分九厘なるに、女は一萬千六十八人にして女總數の七厘に過ぎず。

「國語を解する」程度は內地人の土語に於けると同一にして、卽ち日常普通の用務を辨ずるに足るべき內地語を聽き且語り得るや否やに在り。

國語を解する者と假名文字を知る者との關係は次節に述ぶる所あるべし。

(二)國語通の遞增　國語を解する本島人は明治三十八年の第一次臨時戶口調查以來、實數及對人口率共に遞增を告ぐ、卽ち實數は一萬千二百七十人より九萬九千六十五人と爲り、人口總數中の割合は四厘より二分九厘と爲れり、而して其の增加は男女を分てば男を著しとす、左表の如し。

口國語を解する本島人の遞增

| 性 | 明治三十八年十月一日 | 大正四年十月一日 | 大正九年十月一日 | 大正九年を明治三十八年に比し增 | 大正九年を大正四年に比し增 | 人口千中 明治三十八年十月一日 | 人口千中 大正四年十月一日 | 人口千中 大正九年十月一日 | 人口千中 大正九年を明治三十八年に比し增 | 人口千中 大正九年を大正四年に比し增 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 一一、二七〇 | 五四、三三七 | 九九、〇六五 | 八七、七九五 | 四四、七二八 | 三・八 | 一六・三 | 二八・六 | 二四・八 | 一二・三 |
| 男 | 一〇、八〇一 | 五〇、一四三 | 八七、八九七 | 七七、〇九六 | 三七、七五四 | 六・九 | 二九・一 | 四九・三 | 四二・四 | 二〇・二 |
| 女 | 四六七 | 四、一九四 | 一一、一六八 | 一〇、六九九 | 六、九七四 | 〇・三 | 二・六 | 六・六 | 六・三 | 四・〇 |

## 第二款　州廳別

(一)男女總數　國語を解する本島人の全島總數は九萬九千六十五人にして、其の州廳別は五州に在りては臺北、臺中、臺南、新竹及高雄の順位を以て二萬三千六百七十三人と一萬二千二百九人との間を示し、又二廳に在りては花蓮港廳二千五十八人、臺東廳千二百六十六人なり。然るに人口總數中の割合は花蓮港廳の六分四厘を以て著しく高率とし他州廳との間に大差を存せり。同廳の外全島平均なる二分九厘を超過せるは臺東廳、臺北州及新竹州にして、臺中州、高雄州及臺南州は順次に平均以下に位し臺南州の二分二厘を最低とす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(二)男女別　男女孰れか多く國語を解するやと問はば勿論男多數にして州廳別に於ても一として然らざるはなし。而して男の州廳別は花蓮港、臺東、新竹、臺北、臺中、高雄及臺南各州廳の順位を以て人口總數中の一割二厘乃至三分七厘の間を上下し、女の州廳別は花蓮港、臺北、臺東、新竹、臺中、臺南及高雄各州廳の順位を以て同二分一厘乃至四厘の間に散在す。

國語を解する本島人の實數及割合を市街庄區毎に表章し大正十年十月號の本誌に登載しあり參看を請ふ。

(三)土語を解する内地人との關係　國語を解する本島人の州廳別を以て土語を解する内地人の州廳別に對照すれば、其の多寡相反するが如き傾向あるは蓋し自然の勢なるべし、今之が説明を略し左に之を對照表示すべし。

□各州廳の土語を解する内地人及國語を解する本島人（大正九年十月一日）

| 種別 | | | 全島 | 臺北州 | 新竹州 | 臺中州 | 臺南州 | 高雄州 | 臺東廳 | 花蓮港廳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土語を解する内地人 | 總數 | | 一七、二七五 | 三、四五一 | 一、八七六 | 四、二二五 | 四、四〇八 | 二、二四四 | 三八〇 | 六八七 |
| | 男 | | 一四、九六六 | 三、一〇八 | 一、五八〇 | 三、六二一 | 三、七五四 | 一、九四四 | 三三二 | 六二七 |
| | 女 | | 二、三〇七 | 三四三 | 二九六 | 六〇四 | 六五四 | 三〇〇 | 四八 | 六〇 |
| 國語を解する本島人 | 總數 | | 九九〇、〇六五 | 二三、六七三 | 一八、七三四 | 二〇、八二三 | 一九、八一二 | 一二、二〇九 | 一、四〇三 | 二、四一二 |
| | 男 | | 八七八、八九七 | 二〇、二七〇 | 一六、九二九 | 一八、七三九 | 一七、三一九 | 一一、三二四 | 一、二六六 | 二、〇五〇 |
| | 女 | | 一一一、一六八 | 三、四〇三 | 一、八〇五 | 二、〇八四 | 二、四九二 | 八八五 | 一三七 | 三六二 |
| 人口千中 | 土語を解する内地人 | 總數 | 一〇五・二 | 四八・九 | 一九六・〇 | 二〇六・九 | 一五六・八 | 一〇九・六 | 一一六・五 | 六二・〇 |
| | | 男 | 一六一・七 | 七九・五 | 二九四・六 | 三一一・七 | 二三六・〇 | 一五八・三 | 一七四・〇 | 九七・九 |
| | | 女 | 三二・二 | 一〇・九 | 七〇・六 | 六八・六 | 五三・六 | 三三・五 | 三五・四 | 二三・九 |
| | 國語を解する本島人 | 總數 | 二八・六 | 三六・〇 | 三四・一 | 二七・六 | 二一・五 | 二四・〇 | 三九・八 | 六四・二 |
| | | 男 | 四九・五 | 五九・一 | 六一・〇 | 四八・一 | 三六・五 | 四三・八 | 七〇・七 | 一〇一・九 |
| | | 女 | 六・六 | 一〇・八 | 六・六 | 五・七 | 五・六 | 三・五 | 七・九 | 二〇・七 |

## 第十一節　本島人敎育の程度

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 第一款　全島

(一)調査の標準　臨時臺灣戸口調査に於ける敎育の調査は最普遍的にして、且我新敎育普及の一端を卜知する方法として、程度の標準を、假名を知るや否やに置けり。卽ち片假名及平假名を(イ)讀み且書き得る者(ロ)單に讀み得る者(ハ)讀み且書き得ざる者の三種に區別調査せり。(ニ)前二回の臨時戸口調査に於ては單に書き得るのみの者を認めたるも、今回の國勢調査は此の種の者を認めず、又(ホ)漢字の智識は如何に豐富なるも片假名及平假名を知らざる者は敎育なき者として處理せらるゝこと前後同一なり。

前二回の臨時戸口調査にては敎育程度の調査を全人口に對して施行したるも今回の國勢調査にては之を本島人及支那人のみに止め、且「要覽表」には本島人のみを表示しあり、支那人に付ては「集計原表」の編成了るを俟たざるべからず。

(二)假名を知る本島人　大正九年十月一日現在の本島人にして假名を知る者は十三萬四千九百五十六人にして人口總數の三分九厘に當り、之を男女に分てば男は十一萬八千六百六十六人卽ち男總數の六分七厘、女は一萬六千二百九十人にして女總數の一分に當る。而して右は假名を讀み且書き得る者と單に讀み得る者とを包含す。

(三)國語を解する本島人との關係　假名を知る本島人は男十一萬八千餘人、女一萬六千餘人なるを以て之を國語を解する本島人の數に對比すれば男三萬餘人、女五千餘人多數なり。蓋し假名の知否と國語の解否との間には關係なきを以て假名を知らざる者と雖國語を解する者あるべく、又國語を解せざる者と雖假名を知る者あるべきは勿論なり。然れども調査上の一般方針としては例へば公學校一、二年生の如きは多くは假名を知るべきも國語の方面は未だ以て日常普通の用務を辨じ得る程度に至れりと爲すべからざる者多かるべしと認めたるが爲國語を解する者に少數を示すものとす。

(四)假名を知る者の遞增　本島人にして假名を知る者は明治三十八年以來漸次に增加せること固より當然なり。故に其の說明を略し左に各調査の事實を比較表示す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

口假名を知る本島人の遞增

| 體性 | 明治三十八年十月一日 | 大正四年十月一日 | 大正九年十月一日 | 大正九年を明治三十八年に比し增 | 大正九年を大正四年に比し增 | 人口千中 明治三十八年十月一日 | 人口千中 大正四年十月一日 | 人口千中 大正九年十月一日 | 人口千中 大正九年を明治三十八年に比し增 | 人口千中 大正九年を大正四年に比し增 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 三〇、六五五 | 七六、八五一 | 一三四、九五六 | 一〇四、三〇一 | 五八、一〇五 | 一〇・三 | 二三・一 | 三八・九 | 二八・六 | 一五・八 |
| 男 | 二八、四〇三 | 七〇、六〇三 | 一一八、六六六 | 九〇、二六三 | 四八、〇六三 | 一八・一 | 四一・〇 | 六六・六 | 四八・五 | 二五・六 |
| 女 | 二、二五二 | 六、二四八 | 一六、二九〇 | 一四、〇三八 | 一〇、〇四二 | 一・六 | 三・九 | 九・七 | 八・一 | 五・八 |

## 第二款 州廳別

（一）男女總數　本島人にして假名を知る者の州廳別は州にては臺北、臺南、臺中、新竹及高雄の順位を以て三萬千餘人と一萬六千餘人との間を示し、花蓮港廳の二千九百餘人と臺東廳の千九百餘人とは五州に比して著しく少數なり。然るに人口總數中に於ける其の割合は反て花蓮港廳の七分八厘及臺東廳の五分七厘を以て五州よりも著しく高率とするは、一は實數の甚僅少なるが爲に比例數の昇騰を來せるものとす。而して五州に於ける割合は臺北州の四分八厘を最高とすること實數に於けると一致せるも之に次ぐは新竹州の四分四厘なること、高雄州の三分三厘は臺南州よりも高率なること及最低は臺南州の三分二厘なること等は實數の傾向と異なる所なり。

（二）男女別　各州廳の假名を知る本島人を男女に分てば其の異同の大要下の如し、（イ）男女共に花蓮港廳を最高とし男は一割一分八厘、女は三分二厘なり、（ロ）男女共に臺東廳を第二位とし男九分四厘、女一分八厘なり（ハ）第三位は男は新竹州の七分七厘なるも女は臺北州の一分六厘なり（ニ）最低は男は臺南州の五分四厘なるも女は高雄州の五厘なり之を表示すること左の如し。

口各州廳の假名を知る本島人（大正九年十月一日）

| 體性 | 全島 | 臺北州 | 新竹州 | 臺中州 | 臺南州 | 高雄州 | 臺東廳 | 花蓮港廳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 一三四、九五六 | 三一、二八〇 | 二三、八八四 | 二八、六九八 | 二九、二五六 | 一六、九〇七 | 一、九九四 | 二、九三七 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 二一八、六六六 | 二六、五九四 | 二二、四九二 | 二六、六二四 | 二五、四八八 | 一九、六〇五 | 一、六八五 | 二、一八〇 |
| 女 | 一六二、二九〇 | 四、八八六 | 一七、五九二 | 三〇、七〇四 | 二〇、七六八 | 一、五〇四 | 三〇九 | 九五七 |
| 人口千中 總數 | 三八・九 | 四七・五 | 四五・五 | 三八・〇 | 三一・七 | 三三・二 | 五六・六 | 七七・一 |
| 人口千中 男 | 六六・六 | 七七・〇 | 七一・四 | 六五・七 | 五三・七 | 六〇・三 | 九四・二 | 一一八・四 |
| 人口千中 女 | 九・七 | 一九・五 | 八・八 | 八・四 | 八・四 | 五・二 | 一七・八 | 三一・九 |

尚假名を知る本島人の實數及割合を市街庄區別に表章して大正十年十月號の本誌に登載しあり參看を請ふ

## 第十二節　本島人たる阿片烟膏吸食特許者

### 第一款　全島

**(一)特許者數**　大正九年十月一日現在の阿片烟膏吸食特許者は四萬四千百二人にして人口總數の一分三厘なり。而して之を男女に分てば男は三萬七千九百五十人即ち同二分一厘、女は六千百五十二人即ち同四厘なり但し此の數は特許者に限れるが故に實際上の吸食者と雖特許者に非ざれば此の中に計上せられず。尚右は本島人の數にして特許者たる支那人は右の外男九百二十五人、女百三人、計千二十八人あり。

**(二)特許者の漸減**　本島人たる阿片烟膏吸食特許者の漸減は當然の事實なりと雖其の漸減の形跡は直に顯著なるものあり、即ち明治三十八年の第一次戸口調査にては十一萬五千餘人を算したるに、十年後の大正四年には六萬九千餘人と爲り、更に五年後の大正九年には四萬四千餘人と爲れり。加之人口總數中の割合は三十八年の三分九厘より九年の一分三厘と爲りて三分の二を減し、之を男女別に算出するも男は六分五厘より三分の二以上を減じて二分一厘と爲れり。故に此の趨勢より推すときは阿片吸食者絶滅の期も遠きに非ざるべし。各調査の比較左表の如し。

口本島人たる阿片烟膏吸食特許者の漸減

| 體性 | 明治三十八年十月一日 | 大正四年十月一日 | 大正九年十月一日 | 大正九年を明治三十八年に比し減 | 大正九年を大正四年に比し減 | 人口千中 明治三十八年十月一日 | 人口千中 大正四年十月一日 | 人口千中 大正九年十月一日 | 人口千中 大正九年を明治三十八年に比し減 | 人口千中 大正九年を大正四年に比し減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 一一五、六七二 | 六九、五七八 | 四四、一〇二 | 七一、五七〇 | 二五、四七六 | 三八・九 | 二〇・九 | 一二・七 | 二六・二 | 八・二 |
| 男 | 一〇一、九二〇 | 六〇、一八六 | 三七、九五〇 | 六三、九七〇 | 二二、二三六 | 六五・〇 | 三五・〇 | 二一・三 | 四三・七 | 一五・七 |
| 女 | 一三、七五二 | 九、三九二 | 六、一五二 | 七、六〇〇 | 三、二四〇 | 九・八 | 五・九 | 三・七 | 六・一 | 一・二 |

## 第二款　州廳別

(一)男女總數　本島人たる阿片烟膏吸食特許者の州廳別は實數に於ても割合數に於ても臺北州を第一位、臺中州を第二位とし、又花蓮港廳及臺東廳を順次に最少とす。實數に於けると割合數に於けるとの一致せざるは臺南州と新竹及高雄二州との順位にして實數にては臺南州を第三位とするも、人口總數中の割合は新竹州を第三位、高雄州を第四位とし臺南州其の次に在り。而して實數は臺北州の一萬三千餘人及臺中州の一萬餘人より花蓮港廳の二百八十三人及臺東廳の百七十九人に至る間を示し、又人口總數中の割合は臺北州の二分及臺中州の一分四厘より花蓮港廳の八厘及臺東廳の五厘に至る間に在り。

(二)男女別　各州廳の阿片吸食者を男女に分てば孰も男を以て甚多數とし就中新竹州の男は女の十倍を超ゆ。而して人口總數中の割合を以て各州廳を比較すれば、臺北州の男は三分三厘、女は六厘にして男女共に他州廳に冠絶せり。臺北州に次ぐは男は新竹州、臺中州、高雄州、臺南州、花蓮港廳及臺東廳の順位にして二分三厘乃至八厘を示すに、女は臺中州、高雄州、臺南州、新竹州、臺東廳及花蓮港廳の順位にして四厘乃至二厘なり。卽ち左表の如し。

口各州廳の阿片烟膏吸食特許者（本島人）（大正九年十月一日）

| 體性 | 全島 | 臺北州 | 新竹州 | 臺中州 | 臺南州 | 高雄州 | 臺東廳 | 花蓮港廳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 四四、一〇二 | 一三、二五〇 | 六、八九四 | 一〇、三一九 | 七、九二九 | 五、三四八 | 一七九 | 二八四 |
| 男數 | 三七、九五〇 | 一一、四〇二 | 六、二九五 | 八、七八五 | 六、六七一 | 四、四九九 | 一四三 | 二五六 |
| 女數 | 六、一五二 | 一、八四八 | 五九九 | 一、五三四 | 一、二五八 | 八四九 | 三六 | 二八 |
| 人口千（總數） | 一三・七 | 二〇・一 | 一二・五 | 一三・七 | 八・六 | 一〇・五 | 五・一 | 七・五 |
| （男數） | 二一・三 | 三三・五 | 二三・七 | 二三・五 | 一四・一 | 一七・〇 | 八・〇 | 一二・七 |

中ノ女　三・七　五・九　二・三　四・二　二・八　三・四　二・一　一・六

## 第十三節　本島人たる纏足者及解纏足者

### 第一款　全　島

（一）纏足者及解纏足者　大正九年十月一日現在の本島人女にして現に纏足を爲せる者は十九萬九千百六十五人を算し本島人女總數の一割一分八厘なり。而して嘗て纏足を爲したるも後之を解きたる者は右の數の外に四十一萬八千四百五十三人即ち二割四分八厘を算するが故に、生來の儘の天然足なるは右二者を除きたる百六萬七千餘人即ち六割三分四厘なり。

（二）第一次調査後の移動　本島人女の纏足者は明治三十八年の第一次戸口調査に女總數の五割六分九厘を算し即ち女の過半數は纏足者なりしに、大正四年には一割七分四厘に減し更に大正九年には一割一分八厘と爲れり。蓋し新に纏足を爲す者は極めて少かるべきも從來の纏足者にして解纏を爲すこと能はざる者あるが爲右の數を殘存するものにして漸次絶滅に歸すべきは勿論なり。次に解纏足者は明治三十八年に比して多大の增加を認むるも、而も大正四年に比すれば反て四分九厘を減少し、一見奇異の感あるも是れ新に解纏を爲す者の增加せざるに拘らず一面解纏足者の死亡する結果に外ならず。各調査の比較左表の如し。

口纏足者及解纏足者の增減（本島人）（(1)は增）

| 種別 | 明治三十八年十月一日 | 大正四年十月一日 | 大正九年十月一日 | 大正九年を明治三十八年に比し減 | 大正九年を大正四年に比し減 | 女百中 明治三十八年十月一日 | 女百中 大正四年十月一日 | 女百中 大正九年十月一日 | 女百中 大正九年を明治三十八年に比し減 | 女百中 大正九年を大正四年に比し減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 纏足者 | 八〇〇、三九二 | 二七八、三三五 | 一九九、一六五 | 六〇一、二二七 | 七九、一七〇 | 五六・九 | 一七・四 | 一一・八 | 四五・一 | 五・六 |
| 解纏足者 | 八、六七〇 | 四七五、六四八 | 四一八、四五三 | (1)四〇九、七八三 | 五七、一九五 | 〇・六 | 二九・七 | 二四・八 | (1)二四・二 | 四・九 |

### 第二款　州廳別

州廳別纏足者は臺北州の七萬九千五百九十一人と臺東廳の百十八人との間、州廳別解纏足者は臺南州の十

五萬九千二百二十六人と臺東廳の百五十人との間に在り。而して其の割合數を比較すれば、(イ)女總數中の纏足者は臺北州の二割五分二厘を著しく高率とし、第二位なる臺南州の一割二分七厘に對して約倍數を示す、而して高雄州の一割一分八厘は正に全島平均と同率にして他の二州二廳を平均以下とす。(ロ)女總數中の解纏足者は臺南州の三割五分六厘を著しく高率とし臺北州及臺中州亦全島平均以上に居り、他の二州二廳を平均以下とす。(ハ)纏足者及解纏足者共に臺東廳を最少とし共に一分に達せず、然るに同廳を除くときは纏足者は花蓮港廳の二分一厘を最少とするも、解纏足者は新竹州の三分六厘を最少とす。(ニ)纏足者に對する解纏足者の割合を求むれば其の最高は臺中州にして百に對する四二六・九人に達し、臺南州の二八〇・七人亦全島平均以上なるに、他の三州二廳は皆平均以下にして新竹州の一一一・一人を最低とす。尚其の詳細を左に表示す。

□各州廳の纏足者及解纏足者（大正九年十月一日）

| 種別 | 全島 | 臺北州 | 新竹州 | 臺中州 | 臺南州 | 高雄州 | 臺東廳 | 花蓮港廳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 纏足者 | 一九九、一六五 | 七九、五九一 | 八、七四二 | 二四、一六五 | 五六、七二八 | 二九、四六五 | 一一八 | 三五八 |
| 解纏足者 | 四一八、四五三 | 九八、九九一 | 九、七〇八 | 一〇三、一九六 | 一五九、二二六 | 四六、五一六 | 一五〇 | 七〇九 |
| 女百中 纏足者 | 一一・八 | 二五・二 | 三・二 | 六・六 | 一二・七 | 一一・八 | 〇・七 | 二・一 |
| 女百中 解纏足者 | 二四・八 | 三一・四 | 三・六 | 二八・六 | 三五・六 | 一八・六 | 〇・九 | 四・一 |
| 纏足者百に付 解纏足者 | 二一〇・一 | 一二四・四 | 一一一・一 | 四二六・九 | 二八〇・七 | 一五七・九 | 一二七・一 | 一九八・〇 |

## 第十四節　世帶及住居

### 第一款　全島

(一)調査の趣旨。人口調査の調査事項としての世帶及住居は寧ろ従たる性質を有し附隨的事項たるに過ぎずと雖元來調査を受くべき個人は或世帶内に現在したる者に限られ、午前零時なる調査時に偶々行路中又は汽車旅行中なりし者等の如きは之を或特定の世帶に現在したる者と看做して調査する制度なるが故に、此の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

點より見るときは世帶及住居も亦個人と同じく人口調査の直接の目的物なりと謂ふを得べし。世帶は衣食住を共にする個人の聚團にして無形上の觀念に屬し、住居は世帶を包容する建造物にして固より有形的物體なり。臺灣國勢調査に於ける世帶の意義及種類は大正九年五月訓令第六十五號臺灣國勢調査世帶調査書記入心得第一の五に依れば左の如し。

本調査に於ける世帶とは左に掲ぐるものを謂ふ

（甲）普通世帶　（イ）本來世帶　本來世帶とは住居及家計を共にする者を謂ふ　（ロ）一人世帶　一人世帶とは單獨に住居を有し家計を立つる者を謂ふ

住居を共にするも家計を異にする者及家計を共にするも住居を異にする者は各一の本來世帶又は一人世帶とす（例示　略）

（乙）準世帶　家計を共にせざる者の集合する箇所に在る者は一箇所毎に一世帶に準ず但し同一の箇所に在るも別に家計を立つる者は準世帶に屬せず各之を普通世帶（本來世帶又は一人世帶）とす（例示　略）

（二）世帶數及住居數　大正九年十月一日現在の世帶は六十八萬五千二百二十五にして一世帶の平均人口は五・三人なり。而して世帶を普通世帶（本來世帶及一人世帶）と準世帶とに區分すれば前者其の大部分を占め後者は僅に千五百二即ち總數の二厘に過ぎず。

同日現在の住居は五十九萬六千二百八にして世帶に比し八萬餘少し、是れ一住居に二以上の世帶あるが爲にして即ち一住居平均世帶は一・二なり。而して住居の種類としては住家其の大部分を占め舟筏其他は二千八百九十三即ち總數の五厘に過ぎず。

（三）世帶及住居の增減　明治三十八年の第一次臨時戸口調査以後世帶十萬餘、住居十萬千餘を增加せるが故に一年平均の增加は世帶六千六百餘、住居七千二百餘なり。

尚一住居平均世帶は前二回の臨時戸口調査にては一・二なりしを以て今回の調査は〇・一を減し。又一世帶平均人口は明治三十八年は五・二八人、大正四年は五・三人なりしを以て今回の調査は大正四年と同數にして明治三十八年よりも〇・一人を增加せり。

各調査の世帶及住居竝其の增減を左に表示す。

口世帯及住居の比較（(1)は減）

| 種別 | | 明治三十八年十月一日 | 大正四年十月一日 | 大正九年十月一日 | 大正九年を明治三十八年に比し増 | 大正九年を大正四年に比し増 | 百分比例 明治三十八年十月一日 | 百分比例 大正四年十月一日 | 百分比例 大正九年十月一日 | 百分比例 大正九年を明治三十八年に比し増 | 百分比例 大正九年を大正四年に比し増 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 世帯 | 總數 | 五八五、一九五 | 六五三、四八九 | 六八五、二二五 | 一〇〇、〇三〇 | 三一、七三六 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 〇・〇 | 〇・〇 |
| | 普通世帯 | 五八二、二二一 | 六五一、九八八 | 六八三、七二三 | 一〇一、五〇二 | 三一、七三五 | 九九・五 | 九九・八 | 九九・八 | 〇・三 | 〇・〇 |
| | 準世帯 | 二、九八四 | 一、五〇一 | 一、五〇二 | 一、四八二 | 一 | 〇・五 | 〇・二 | 〇・二 | (1)〇・三 | 〇・〇 |
| 住居 | 總數 | 四八七、三五三 | 五五五、三六六 | 五九六、二〇八 | 一〇八、八五五 | 四〇、八四二 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 〇・〇 | 〇・〇 |
| | 住家 | 四八六、四八九 | 五五三、八五九 | 五九三、三一五 | 一〇六、八二六 | 三九、四五六 | 九九・八 | 九九・七 | 九九・五 | (1)〇・三 | (1)〇・二 |
| | 舟筏 | 七七七 | 四七一 | 四二九 | 三四八 | 四二 | 〇・二 | 〇・一 | 〇・一 | (1)〇・一 | 〇・〇 |
| | 其他 | 八七 | 一、〇三六 | 二、四六四 | 二、三七七 | 一、四二八 | 〇・〇 | 〇・二 | 〇・四 | 〇・四 | 〇・二 |

## 第二款　州廳別

（一）**世帯**　州の世帯數は臺南州、臺北州、臺中州、高雄州及新竹州の順位を以て十八萬七千二百九十と九萬二千八百十五との間を示し又花蓮港廳は一萬二百七十四臺東廳は六千三百五十四なり。然るに人口の州別は臺南州、臺中州、臺北州、新竹州及高雄州の順位なるが故に臺北州と臺中州、高雄州と新竹州とは世帯と人口とに於て其の位置相轉倒せり。而して世帯を普通世帯と準世帯とに分てば普通世帯は右總數に於けると同一順位を示すも、準世帯は臺北州、臺中州、高雄州、臺南州、新竹州、花蓮港廳及臺東廳の順位を以て五百二十二と二十五との間に在り。而して花蓮港廳の準世帯は百十五に過ぎざるも世帯總數の一分一厘を示せるは他に見るべからざる高率なり。

一世帯平均人口は各州廳甚區々にして最多臺東廳は六・一人に及べるに最少花蓮港廳は四・八人に過ぎず。臺東廳に次ぐは新竹州の六・〇人及臺中州の五・五人にして此等を全島平均五・三人以上とし、又花蓮港廳の外臺北州の五・二人並臺南及高雄二州の各五・一人を其の以下とす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(二)住居● 州廳別住居數は大體に於て世帶數の多寡に順應せるも、臺中州の十七萬千餘に次げる第二位にして臺北州の十萬七千餘よりも多數なるを差異とす。而して住居の種類中舟筏は臺北州の二百五及高雄州の百六十二を多數とし、又「其他」(假小屋を主なるものとす)は臺中州の八百八十四を最多とす。但し花蓮港廳の「其他」は五百四十五にして臺中州に次で第二位に在るも、住居總數の五分六厘に當り其割合著しく他州廳に冠絶せり。

一住居平均世帶數は臺北州に限りて一・三を示すも爾他の各州廳は孰も一・一にして全島平均亦一・一なり、卽ち臺北には世帶數比較的に多く住居數比較的に少し。

州廳別世帶及住居左表の如し。

ロ各州廳の世帶及住居(大正九年十月一日)

| 種別 | | | 全島 | 臺北州 | 新竹州 | 臺中州 | 臺南州 | 高雄州 | 臺東廳 | 花蓮港廳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 世帶 | | 總數 | 六八五、二二五 | 一四三、〇六八 | 九二、八一五 | 一四〇、二六二 | 一八七、二九〇 | 一〇五、一九二 | 六、三五四 | 一〇、二七四 |
| | | 普通世帶 | 六八三、七二三 | 一四二、五一六 | 九二、六八五 | 一三九、九八七 | 一八七、〇九四 | 一〇四、九五三 | 六、三二九 | 一〇、一五九 |
| | | 準世帶 | 一、五〇二 | 五五二 | 一三〇 | 二七五 | 一九六 | 二三九 | 二五 | 一一五 |
| 住居 | | 總數 | 九九六、二〇八 | 一〇七、五一〇 | 八一、八四四 | 一三三、一九三 | 一七一、六六九 | 九六、二七二 | 五、九四五 | 九、七七五 |
| | | 住家 | 九九三、七一五 | 一〇七、二三八 | 八一、三三〇 | 一三二、二九六 | 一七一、二九四 | 九六、〇〇五 | 五、九三四 | 九、二二八 |
| | | 舟筏 | 四二九 | 二〇五 | 一七 | 一三 | 三〇 | 一六二 | — | 二 |
| | | 其他 | 二、四六四 | 七七 | 四九七 | 八八四 | 三四五 | 一〇五 | 一一 | 五四五 |
| 百分比例 | 世帶 | 總數 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 |
| | | 普通世帶 | 九九・八 | 九九・六 | 九九・九 | 九九・八 | 九九・九 | 九九・八 | 九九・六 | 九八・九 |
| | | 準世帶 | 〇・二 | 〇・四 | 〇・一 | 〇・二 | 〇・一 | 〇・二 | 〇・四 | 一・一 |
| | 住居 | 總數 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 |
| | | 住家 | 九九・五 | 九九・七 | 九九・四 | 九九・三 | 九九・八 | 九九・七 | 九九・八 | 九四・四 |
| | | 舟筏 | 〇・一 | 〇・二 | 〇・〇 | 〇・〇 | 〇・〇 | 〇・二 | — | 〇・〇 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一其他 | 〇・四 | 〇・一 | 〇・六 | 〇・七 | 〇・二 | 〇・一 | 〇・二 | 五・六 |
| 一世帶平均人口 | 五・四 | 五・二 | 六・〇 | 五・五 | 五・一 | 五・一 | 六・一 | 四八 |
| 一住居平均世帶 | 一・二 | 一・四 | 一・二 | 一・二 | 一・二 | 一・二 | 一・二 | 一・二 |

（第二章完）

## 第二章の追記――大正十年末人口に就て

以上人口靜態統計は大正九年十月一日に於ける國勢調査の事實又は大正九年十二月末の事實を說述したるが、最近調査課に於て同十年十二月末現住人口の算定を了したるを以て左に少しく之を紹介すべし、若夫其の詳細に至りては近く刊行せらるべき現住人口統計書に就て知るべし。

（一）總數　大正十年末現住人口總數は三百七十五萬千二百十七人にして九年末に比し七萬七千九百二十七人即ち人口千に對する二一・二人を增加せり。此の增加は既往に比して大增加の部に屬す、即ち明治三十八年以降に於ける各年の增加は明治四十四年に於て同四十三年より六萬九千七百六十八人即ち人口千に對する二一・七人を增加せるを增加の最たるものとするが故に、右大正十年の增加は實數にては各年中の第一位に居り又對人口率は四十四年に次で第二位に在り。累年の增加に付ては第二章第一節（八月號所載）に詳述したり。

增加の原因は死亡に對する出生の超過及轉出に對する轉入の超過なるも主因は出生超過なり。而して大正十年の出生は十六萬千九百八十七人即ち人口千に付四三・二人、死亡は九萬千五百十三人即ち人口千に付二四・四人なるを以て出生超過は七萬四百七十四人即ち千に對する一八・八人に及び未曾有の超過率なりとす。

（二）各種族の人口　大正十年末人口を內地人、本島人及外國人に分てば、內地人は十七萬四千六百八十二人（六十人內外の朝鮮人を含む）にして總數の四分七厘に當り又外國人（主として支那人）は二萬八千四百八十二人即ち八厘に過ぎざるが故に本島人は殘餘の三百五十四萬八千五十三人即ち九割四分五厘を占む。而して九年末に對する各種族の增加數は內地人八千餘人、本島人六萬六千餘人、外國人三千餘人なるが、人口各千に對する增加率は外國人に於て一五〇・七人なる變例的高率を示し、內地人亦四八・四人の高率にして本島人獨り一九・〇人の低率なり。

（三）體性別　十年末人口總數を男女に分てば、男百九十四萬千五百八十二人、女百八十萬九千六百三十五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人にして女百に付男一〇七・三人に當る。之を九年末に比較すれば男の增加は三萬八千餘人卽ち千に對する二〇・四人なるに、女の增加は三萬九千餘人卽ち千に對する二二・〇人に上り、女の增加大なるが爲、女百に對する男の割合は九年末の一〇七・五人より〇・二人を減ずるに至れり。

更に各種族每に女百に對する男の割合を算出すれば、男最多きは外國人にして三六九・五人を示し、內地人は之と多大の懸隔を存するも尙一二七・八人を示すに、本島人は僅に一〇五・五人に過ぎず。蓋し內地人及外國人は母國を離れて異域に在住する者の常態として男著しく多きは當然なり。卽ち左表の如し。

□各種族の男と女（大正十年末）（一は減）

| 種族 | 總數 | 男 | 女 | 女百に付男 | 大正九年末に比し增 實數 總數 | 實數 男 | 實數 女 | 人口千に付 總數 | 人口千に付 男 | 人口千に付 女 | 女百に付男 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 三、七五一、二二七 | 一、九四一、五八二 | 一、八〇九、六四五 | 一〇七・三 | 七七、九二七 | 三八、七九二 | 三九、一三五 | 二一・二 | 二〇・四 | 二二・〇 | (一)〇・二 |
| 內地人 | 一七四、六八二 | 九八、〇〇七 | 七六、六七五 | 一二七・八 | 八、〇六一 | 四、二〇五 | 三、八五六 | 四八・四 | 四四・八 | 五三・〇 | (一)一・〇 |
| 本島人 | 三、五四八、〇五三 | 一、八二二、一五九 | 一、七二六、八九四 | 一〇五・五 | 六六、二二〇 | 三一、六五一 | 三四、五六九 | 一九・〇 | 一七・七 | 二〇・四 | (一)〇・二 |
| 外國人 | 二八、四八二 | 二二、四一六 | 六、〇六六 | 三六九・五 | 三、六四六 | 二、九二六 | 七二〇 | 一四六・八 | 一三〇・七 | 一三二・六 | 五八 |

（四）州廳別　大正十年末五州の人口は臺南、臺中、臺北、新竹及高雄の順位を以て九十七萬八千餘人と五十四萬九千餘人との間を示し、又臺東廳は三萬九千餘人、花蓮港廳は五萬八百餘人なり。而して之を九年末に比較すれば各州廳孰も增加を告ぐと雖、增加の最大なるは高雄州にして一萬三千餘人卽ち人口千に對する二四・八人の增加なり。高雄州に次ぐは臺中州の二三・四人、花蓮港廳の二二・三人、及臺南州の二一・七人にして此等は全島平均の增加率なる二一・二人を超過せるものなり。隨て臺北州、新竹州及臺東廳の增加は全島平均以下にして、就中臺東廳の增加率は僅に五・二人に過ぎず。其の他詳細は之を左表に示す。

□各州廳に於ける各種族の男女（大正十年末）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| 種族及性別 | | 全島 | 臺北州 | 新竹州 | 臺中州 | 臺南州 | 高雄州 | 臺東廳 | 花蓮港廳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總數 | 總數 | 三、七五一、二一七 | 七六一、一八一 | 五七二、九二一 | 七九九、四〇三 | 九七八、七四一 | 五四九、〇〇九 | 三九、〇八七 | 五〇、八七五 |
| | 男 | 一、九四一、五八二 | 四〇二、七三六 | 二九〇、七三五 | 四一三、七六一 | 五〇五、〇九六 | 二八〇、九九六 | 二〇、一七九 | 二八、〇七九 |
| | 女 | 一、八〇九、六三五 | 三五八、四四五 | 二八二、一八六 | 三八五、六四二 | 四七三、六四五 | 二六八、〇一三 | 一八、九〇八 | 二二、七九六 |
| 內地人 | 總數 | 一七四、六八二 | 七四、四七八 | 九、八二一 | 二二、三二五 | 三〇、一四八 | 二二、九三四 | 三、二三一 | 一一、七四五 |
| | 男 | 九八、〇〇七 | 四一、一一六 | 五、五〇九 | 一二、五九五 | 一六、八四九 | 一三、二二六 | 一、八七七 | 六、八三五 |
| | 女 | 七六、六七五 | 三三、三六二 | 四、三一二 | 九、七三〇 | 一三、二九九 | 九、七〇八 | 一、三五四 | 四、九一〇 |
| 本島人 | 總數 | 三、五四八、〇五三 | 六七〇、四八六 | 五六一、七〇八 | 七七四、六八八 | 九四四、四五二 | 五二三、一一四 | 三五、四九二 | 三八、一一三 |
| | 男 | 一、八二一、一五九 | 三四八、五九三 | 二八四、一九六 | 三九九、二九三 | 四八五、二一〇 | 二六五、四八六 | 一八、〇〇三 | 二〇、三三八 |
| | 女 | 一、七二六、八九四 | 三二一、八九三 | 二七七、五一二 | 三七五、三九五 | 四五九、二四二 | 二五七、六二八 | 一七、四八九 | 一七、七七五 |
| 外國人 | 總數 | 二八、四八二 | 一六、二二七 | 一、三九二 | 二、三九〇 | 四、一四一 | 二、九六一 | 三六四 | 一、〇一七 |
| | 男 | 二二、四一六 | 一二、九八七 | 一、〇三〇 | 一、八七三 | 三、〇三七 | 二、二八四 | 二九九 | 九〇六 |
| | 女 | 六、〇六六 | 三、二四〇 | 三六二 | 五一七 | 一、一〇四 | 六七七 | 六五 | 一一一 |
| 大正九年末に比し増 實數 | 總數 | 七七、九二七 | 一四、五四四 | 九、六五四 | 一八、二九三 | 二〇、八一七 | 一三、五〇五 | 二〇三 | 一、一一一 |
| | 男 | 三八、七九二 | 七、五四三 | 五、〇八〇 | 八、六〇四 | 一〇、〇九一 | 六、六四三 | 九五 | 七三六 |
| | 女 | 三九、一三五 | 七、〇〇一 | 四、五七四 | 九、六八九 | 一〇、七二六 | 六、八六二 | 一〇八 | 三七五 |
| 大正九年末に比し増 人口千に付 | 總數 | 二一・二 | 一九・九 | 一七・一 | 二三・四 | 二一・七 | 二四・八 | 五・二 | 二三・三 |
| | 男 | 二〇・四 | 一九・一 | 一七・八 | 二一・二 | 二〇・四 | 二四・二 | 四・七 | 二六・九 |
| | 女 | 二二・〇 | 一九・九 | 一六・五 | 二五・八 | 二三・二 | 二九・五 | 五・七 | 一六・七 |

（以下第三章）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 北ボルネオの首狩

越村生譯

先般英國皇儲が日本御訪問の歸途北ボルネオに御立寄の際同地蕃人の吹矢競技を御覽になつたが、今より四十三年前一隊の英國の冒險家が初めて同地に渡航し、二人の土候より土地の借受をなした當時は國内到る所首狩が流行し兎ても奥地深く入ることが出來なかつた。然し英領となつて政府當局が最善の努力を致して、斯る弊習の廢止を說くに至り漸次此惡習も低地に於ては減少し始めたが然し未だ内地深くの蕃人の間には時に間歇的に依然首狩が盛んだつた。

元來北ボルネオの蕃人の首狩は小學生が鳥の卵を集める樣な單純な娛樂でなくつて、一つの習慣否な娛樂以上に種々の意味のある行爲で、大抵先づ部落の異なる蕃人相互の喧嘩が初まり、次いで兩蕃社間の爭鬪と成つて遂には敵蕃の首級を擧げて、勝利を謳歌する樣になるので斯ふなると兩蕃社共に團隊で出掛ける外殆んど安心して外出出來ぬやうになる。此理由で各蕃社は概して急峻なる小山の頂に住居を定むるので一蕃社は長屋式の、時には二百呎の長さの家一二軒より成つて居る。家は大抵アタップ又は割竹で作り床を地上から數尺の高さとし梯子で出入する。長屋の兩端に入口があつて夜間は戸を閉づるが、戸には小さな穴がある、蕃社の犬の出入する所だ。家の内部の兩側は小室に仕切り一室に一家族の割で住み、長屋の中央部には蕃社に缺くべからさる舞踏室があつて此室のみは彈力のある木材で床を拵へてある。其室の一方は所謂集會所で獨身者が會合し又蕃社の男達が喫煙し會談する所で、他方の空地は旅行者の宿泊したり又附近の地方官などがキャムプベッドを置き宿泊、衣食する所としてある。

昔は斯る嚴重なる家屋の中より絶えず外部を監視し敵蕃の襲來に備へたるもので鷄の鳴きさへも結び著けて蕃社の位置を示さゞる樣にし絶えず苦惱を生ずる汚き皮膚病たる田蟲を有するものも生命財產の安全を計らんとする場合、徵睬の必要ありと認むる他人に賣りて好い利益を得るを常とした。ボルネオ中部地方に住する蕃人の爭鬪を始むるに多くの方法がありて、首級を擧げれば青年は婚をする事が出來ない從つて村の娘は自分の戀人が凄い獲物を持ち歸るに依りて歡喜する事は言はずもがなだ。同時に首狩は普通矢鱈にやるものでなくく數社間に葛藤がなければ首狩もない譯だが、然し此葛藤も頻發するものでないので、一度起れば、仲々中止が難かしい擧り合ひの蕃社の蕃夫ブランとムガッが或日出會して、何かの意見を鬪はして其處に意見の相違があつて。喧嘩が起つたとするムガッは貢ければ叢林中に其死體は放棄せられるか又は例へばムガッがブランが妻の美貌の犧牲となつて女を眩かし自分と駈落する、すると夫ブランは激昂して其路を追ひ遂に二人を殺したとする、何れにしもムガッの親戚は激怒して武器を手にしてブランが蕃社を襲擊せんとする。若しブランが自身の首が得られないときは誰彼の容赦なく馘首して自社の恨を晴さうとする勢ひ水汲に出掛けた老いた二婦人に遭ふとすれば之を馘首し、凱歌を奏して歸社し、祝賀祭を催す。所がブランが及び其友達は之に對して復讐せんとして、途中待受けムンガッ社の小人數の人々が野生護謨を蒐め支那人に賣りに行たる歸りを覗つて馘首したとするとと兩社の鬪爭は益々火の手を擧げて仲々止み相にも見えぬ樣になる。是に於て兩社の頭目が此鬪爭を中止せしめんてとして代償を勝利者側に支拂ふ事になる。之れが仲裁は仲々容易の仕事でない。一方二箇の首級を馘されたる蕃社に對し勝利者たる蕃社は代償として良き鑓及び水牛等を提供し、調停なりたる際水牛を屠りて其血をば當事者が浴びるに依りて平和の契のなりたるもので之れが證據として、石を置き夫れに水牛の血を灑くのである。斯くして永々纏れたる葛藤も漸く終局を告ぐるのである。然し最近北ボルネオ政府官吏の努力に依りて此種の爭鬪も漸次跡を絶つに至りて當國も今日平和なる狀態にある。

（新嘉坡フリープレッス八月十七日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島情

# 海岸線鐵道開通式の景況

總督府鐵道部

海岸線開通式は大正十一年十月十日通霄に於て擧行せられたり、來賓は北部よりするものは午前八時八分臺北發臨時列車にて、中南部よりするものは午前十時八分臺中發の臨時列車に搭乘し何れも式場なる通霄に向へり、此日朝來曇天にて稍々氣遣はれしか午前十時頃より晴天となり獨り鐵道側のみならず來賓一同も大いに滿悅の態なり、斯くて正午近く北部よりの臨時列車は國旗を交叉したる機關車に牽引せられて先づ到着し間もなく南部臨時列車も到着せり、此間祝賀の煙火冲天に轟き一層の景氣を添へたり、來賓は沿道兩側に整列せる各種團體歡迎の中を通り相次て虎頭山の中腹に設けられたる式場に集合せり、午後一時一同著席するや鐵道部事務官橫光庶務課長開會を宣し新元鐵道部長の式辭、渡部工務課長の工事報告あり、田總督の祝演に次て和田軍司令官（代讀佐藤參謀長）臺中新竹兩州知事其他代表者數氏の祝辭朗讀あり左の如し

## □式辭

海岸線の工事成り本日開通式を擧ぐるに方り總督閣下を始來賓各位の賁臨を辱ふしたるは本官の光榮とする所なり

顧ふに海岸線建設の目的は本島交通動脈の擴張に在り而して其動機は實に歐洲戰亂に發す蓋し山線の急勾配は鐵道經營上の難關として常に當局の心頭に懸る所、而して時局の影響は突發的に客貨の激增を來たし之か爲に輸送能力は山線に依りて其の制限を受け終に滯貨を現出せり是れ非常時變の齎らしたる一時的の現象なりと雖も此の實驗を基調として審査したる結果に依れば假令如何なる方法を以てするも大正十三年には平時に於て尙且つ此の窮境に陷ゐるの狀勢なり之を以て先つ苗栗臺中間の複線計畫を樹て次て比較線の調査を行ひ且つ後の縱貫全線の改良計畫に鑑み終に海岸線を選定して議會の協贊を經たるものなり線路の選定に就ては深く地方の狀況をも考慮する所ありしか素より其の眼目は大局の打算に出つ乃ち本線の全通と同時に之を縱貫線に編入したる所以に見るも其意明かなり建設の工程に就ては別に報告せしむるも起工以來拮据經營豫定の成果を收めて本日の開通を見るに至りしは上に總督閣下の周匝なる監督指導あり下に部下職員の熱烈なる奮勵努力あり外に地方官民諸士の眞摯なる後援ありしに因るものにして深く感謝に堪へさる所なり旣に本線の開通に依りて縱貫鐵道輸送能力增大せり願くは地方官民諸氏益々之を有效に利用し將に來らんとする縱貫複線の機運を促進せしめられんことを一言以て式辭となす

大正十一年十月十日

臺灣總督府鐵道部長

正四位勳二等　新元鹿之助

## □工事報告

玆に海岸線竹南王田間鐵道開通の式を擧行するに方り其梗概を報告するは小官の最も光榮とする所なり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

海岸線は縦貫線竹南驛より分岐し後龍、通霄、大甲等を經て王田驛に至り縦貫線に連絡するものにして線路の延長は五十三哩四分、最急勾配百分の一、曲線の最小半徑は十五鎖なり而して停車場を設置すること十六箇所、工事の主なるものは延長百呎以上の橋梁十一箇所隧道四箇所等なり、豫算は當初一千五十五萬二千六百圓を以て大正八年度より四箇年の繼續事業として同年八月一日王田及竹南の兩端より工事に着手したるものにして大正九年十二月二十五日始めて王田清水間十二哩三分の營業を開始し爾來既定年割額により工事を施行せしか地質其他の關係上工事實施に當り設計の變更を要したると歐洲戰亂の影響を蒙り物價並に勞銀の昂騰に基因する經費の膨脹は既定豫算の範圍内に於て實施不可能の狀態となりたるを以て大正十年度に至り增額七十六萬壹千九百九十一圓の追加豫算を仰き之に縦貫道路の一部となるべき大安溪、大甲溪、後龍溪の道路橋基礎工事費七十六萬六千圓を合し總額を一千二百八萬五百九十一圓とし年割額を改定の上鋭意豫定の工事を遂行し以て本日の開通を見るに至れり

本線路は概して平易なりと雖も難工事としては汎濫區域の擴大なる大安溪、大甲溪の兩橋梁あり土木局の河川整理と相俟つて橋梁延長を短縮することを得たるも尚ほ大甲溪四千呎大安溪三千呎の長さに達し其他三叉河溪、後龍溪、頭份溪等の大河あり此外新竹州下特有の强烈なる季節風に因る砂丘異動の對策として砂防裝置を施したるか如き、工事施行上砂からさる困難を感したり然と雖も着手以來幸に甚しき蹉跌を見すして本日此盛典を擧ぐる事を得たるは一に上司の指導と地方官民諸士の多大なる援助の賜にして小官の大に欣幸とする所なり今後は益々奮勵して鐵道の設備を完成し以て一般の利用に便せんことを期す

大正十一年十月十日

臺灣總督府鐵道部工務課長技師
正四位勳三等　波部英太郎

## □田總督の祝辭演説

茲に臺灣縦貫鐵道の中樞である海岸線の工事完成しましたのに當つて朝野多數の人士と共に開通の盛式を擧げますことは深く欣快とする處であります鐵道が文化を振興し産業を發展するの最も重要の機關たることはもとより言を俟たないことであります今や本線の完通に依りまして本島南北交通の便大に備はり依つて以て國利民福を增進するの道を開きたることは慶賀措く能はざる所であります

茲に本鐵道の開通を祝するの機會におきまして官民一般に對して協心戮力その利用を完ふされんことを冀ひ併せて從事職員多年の勤勞に對しまして深く感謝の意を表する次第であります

## □祝　辭

海岸線鐵道敷設の工成り茲に佳辰をトして開通の式典を擧行せらる

惟ふに人文の開發産業の振興、敏活なる軍事の行動は鐵道に須つ所のもの極めて大なりとす領臺以來之か施設は着々進捗し夙に縦貫鐵道全通の大業を完了し今や其線路中山谿交錯勾配最急なる部分に更に海岸線を敷設して本線とし以て輸送能力の增大を企畫せられ茲に竣工を見るに至れり之れ本島の開拓上竝軍事上偉大なる貢獻にして國家の爲洵に慶賀に堪へす聊か蕪辭を述へて祝辭となす

大正十一年十月十日

臺灣軍司令官陸軍大將
從三位勳一等功三級　福田雅太郎

（以下祝辭省略）

右終て横光庶務課長は賀來總務長官其他よりの祝電を朗讀したる後閉會を宣し午後一時四十分式終る來賓の主なるものは總督田男爵を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

始め池田專賣局長、吉田遞信局長、佐藤參謀長、常吉臺中州知事、藤谷新竹州知事、高木電力會社長、枝嘉南大圳組合長、江崎臺灣銀行理事等其他實に五百有餘人に及べり

式後直に式場を繞りて各種の模擬店は開かれ多數の紅裙其の間を斡旋し、餘興としては藝妓の手踊數番ありて祝賀の氣分は場内に横溢し主客歡を盡して和氣藹々たり、當日は季節風稍々强烈にして時に沙塵を捲き起せしも式場は克く之を避くへき設備なりしを以て何等の障碍をも受けさりき、通霄驛より式場に至る沿道各種の裝飾は勿論種々なる催しもの其の數を知らす近郷より集り來れる群衆全會を埋めて黒山をなし無慮數萬と註せらる洵に此の日の賑は通霄未曾有の盛大を極めたり、斯くて午後三時萬歳聲裡に散會を告げ來賓は南北兩臨時列車に分乘し北部は午後三時二十分、南部は同三時三十分共に相前後して通霄驛を發車せり通霄を出てたる兩列車にては尙ほ酒ウヰスキー、ビール等の饗應盛にして數十の阿媽酒間を斡旋し恰も祝賀會延長の觀を呈し極歡の狀にて各々所定の驛に下車し歸途に就きたり。

# 總督府の物價調節施設十三箇條

十月六日總督府會議室に於て官民參會の席上賀來總務長官から總督府の物價調節施設十三箇條を發表し之を說明されて之が實行に關し官民の協力を求められた事は別項時報欄掲載の通りであるが該物價調節施設に關する十三箇條は左記の通りで尙ほ之に關する細則的のものに發表次第次號以下に掲げる積りである

## 物價調節施設に關する
## 十三箇條

(一)官廳の支拂方法を改善すること

本島に於ける最大の消費者たる全島官廳に於て其支拂方法に改善を加へ極力敏速に其支拂を爲すは延て物價に影響し來り其效果鮮少ならざるべし

(二)日用必需品に付船運賃低減に關し交渉を試みること

內地より移入せらるゝ日用必需品の價格の低落を計るには船運賃の低減を必要と認むるに付目下海運會社と交涉中なり

(三)日用必需品に付汽車運賃の引下を行ふ事

從來米鹽薪炭に對は一割乃至一割五分の低減を行ひ來りたるも尙其品種を擴張し更に低減率の相當增加を計らんとす

(四)主要都市小運搬賃の低下を交涉すること

主要都市に於ける運搬賃を低減するの必要ありと認むるに付差當り鐵道部公認運送業者に對し能ふ限り小運搬賃其他の附帶の諸料金の低減を勸誘すること

(五)暴利低減の爲め必要に應じ標準價格の公示其他適當なる手段を講すること

日用必需品の騰貴は內地も本島も共に苦しむ處にして之が正當なる價格の決定は最も必要とする處なり卸賣たりと小賣たるとを問はす荷も暴利と認めらるゝ物品に付ては之が抑制をなす爲め標準となる可き價格を公示する等適當の手段を講すること

(六)公設市場をして特定商品に限り原產地より直接委託販賣を行はしむること

本島に於ける日用必需品中內地より移入せらるゝもの尠からす然るに原產地遠隔なるを以て一般消費者は不知の間に不當の價格を强ひらるゝ傾向あり之が匡正の爲め特に其必要あるを認む

(七)市場の增設及其機能の發揮を計ること

本島に於ける市場制度は古くより發達し居るものあるも未だ物資配給及物價調節の機關と

しての作用に至りては缺くる處尠からず故に此際各種市場に付其內容の充實を計り適當なる市場管理人巡視員を選擇して物品の品質價格及其取引方法等に付監視せしめ且努めて正確なる卸相場小賣直段を公示せしめんこと
豚及蔬菜等に付ては今日尙卸市場の開設を見ざるは頗る遺憾とする處なるを以て主要都市に於ては之が開設を計るべし

（八）購買組合の奬勵及機能の發揮を促すこと
本島に於ける此種組合の發達は頗る遲々たるものなりとす蓋し其原因は消費者の自覺未だ至らざるものあるに存す故に之が普及宣傳は最も必要とする處なり單に新設組合の奬勵のみならず既設組合に於ては努めて組合の增加を計り更に取扱物品の購入等に就ても各組合をして聯合仕入の方法を取らしむる等可及的經費の節約を計り組合の健全なる發達を企圖すべし

（九）現金取引の習慣を奬勵すること
掛賣に於ては信用及金利の關係より物價の引上げらるゝは免れざる處にして其掛倒れに依る損害は正當支拂者に轉嫁せらるゝ狀況なりとす且又一面消費者側に於ては不知の間冗費に陷るの弊あり故に此際現金取引の習慣を奬勵し以て叙上の弊害を除去するは最も必要とする處なり

（一〇）勤儉貯蓄の奬勵を爲すこと
勤儉貯蓄の必要は玆に喋々を要せざるも之が實行を徹底する爲め講演其他の方法により此際普く宣傳を爲さんとす

（一一）投機資金融通の抑制を計ること
金融業者が投機的行爲に對し放資する如きことなきは從來常に注意を與へ來れりと雖も尙ほ遺憾の點少からざるを認むるを以て今後は益々取締監督を嚴重にし之が抑制を計らんとす

（一二）計量器及其使用並に商品量目の取締を嚴重にすること
不正の計量器を用ひ或は計量器を用ひずして物品の量目を僞罔する者尠からず此際之が取締を嚴重にすること

（一三）正當なる物品の價格及量目等に關し消費者の自覺を促すこと
家庭に於ける消費者は物品の價格及び量目に對し動もすれば之を輕視するの傾あり其の結果不正商人の乘ずる處となるを遺憾とす因て此際右に關し消費者特に主婦の自覺を促すの要あり

# 協議會員の改選

## 內務局州廳課

別項記載の如く本島に於ける各州、市、街庄の協議會員は本年九月三十日を以て二箇年の任期滿了せる爲め改選の結果十月一日を以て左記の如く夫々任命を見たり

（州事務官、市理事官、街庄助役ハ別ニ辭令ヲ發セズ州制施行令第七條、市制施行令第八條、街庄制施行令第七條ニ依リ當然各其ノ州、市、街庄協議會員タルヲ以テ本表ニ省略ス）

### ■州協會議員■

▲臺北州

| | | |
|---|---|---|
| 角 源泉 | 三村 三平 | 小松 吉久 |
| 川崎 軍治 | 吉田 坦藏 | 木村 匡 |
| 陳 朝駿 | 王 慶忠 | 高須時太郎 |
| 田中 正夫 | 矢野猪之八 | 小宮元之助 |
| 吳 昌才 | 後宮信太郎 | 北村吉之助 |
| 木村 泰治 | 三好德三郎 | 賀和藤治郎 |
| 何 慶熙 | 洪 以南 | 石坂 莊作 |
| 近江時五郎 | 大竹醇一郎 | 許 梓桑 |

諏訪禮次郎　林奐庚　佐藤德治
陳純精　張德明　林熏壽
林清山　黃純青　林明德

▲新竹州

織田壽吉　松本徒爾　新原龍太郎
小畑勇吉　鄭拱辰　鄭神寶
川田武彥　篠原太一　簡朗山
翁瑞春　奈須義質　吉鹿德次郎
宋蘂賠　黃維生　清水喜七
矢任信夫　邱雲興　謝長清

▲臺中州

二瓶源五　森部顯　榊原繁
林烈堂　葉清耀　小西卓爾
安土直次郎　宮島眞之　賴克贊
廖西東　小河愛吉　張德榮
蔡蓮舫　田中佐右衛門　岩本多助
楊吉臣　陳允恭　李崇禮
溝口義夫　下山豐平　佐々木定證
蕭敦仁　櫛部信一　金子恒彌
李春盛　川畑芳太郎　林其祥
林月汀

▲臺南州

島田宗謙　大西道生　西崎順太郎
土居政次　陳鴻鳴　陳冠英
越智寅一　脇山逸眞　中山秀之

小寺新一　佐々木紀綱　謝群我
楊慶　梁道　藤野幹
郭書　吳乃占　劉明哲
畠谷廣次　河東田義一郎　伊藤義路
帖佐顯　西川利藤太　大賀基作
山口清　稲地載五郎　江文蔚
徐杰夫　鄭沙棠　林振聲
鈴木重臣　曾席珍　黃嫣典

▲高雄州

今井周三郎　藤林賢治　陳啓貞
陳光燦　坂本信道　鐸木直之助
林清泉　林靜觀　勝又奬
白石喜代治　永田綱明　今村伊那吉
濱田政壯　蘇雲英　草鹿砥祐吉
饒晋郎二　李讃法　上瀧宇太郎

## ■市協議會員■

▲臺北市

安田勝次郎　河村徹　永田隼之輔
谷口嚴　土屋理喜治　瀧田傳吉
三卷俊夫　谷河梅人　大川清一
中辻喜次郎　德丸貞二　宮田榮太郎
吉鹿善次郎　陳天來　歐陽光輝
陳智貴　郭廷俊　楊潤波
林清月　許丙　辜皆的
張清港　津久井誠一郎　杉坂六三郎

有泉朝次郎　生野數馬　葉彬准
魏清德　張絹老

▲臺中市

土屋達太郎　野津三次郎　山口義章
小室興　安田稻實　松本安藏
林原彌太郎　前田八十松　藤井一康
林耀亭　張濬生　林澄波
吳子瑜　賴墩

▲臺南市

片山昂　里見四郎　澤田皎澄
小林清藏　西原松平　磯谷恒三郎
黑田泰輔　阿部彌兵衛　橋本源太郎
宇都宮無垢介　園田太郎　上前辰之助
佐藤三之助　高橋卯一郎　馬場德次郎
小原富太郎　川上八百藏　張作人
辛西淮　吳徵　余君屏
陳瑞山　石秀芳　王受祿

## ■街庄協議會員■

▼臺北州▲

▲七星郡汐止街

樋藤鶴次　周清泉　李昭三
周再思　廖新田　島中乘吉
魏天浩　宮崎民次郎　須田久雄
李炎海　陳彬琳　唐逵彩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陳文慶 蔡清漢
▲同郡士林庄
石原靜三 郭坤木 郭邦光
林振聲 何炳奎 吳德英
吳文明 筑紫爲治 陳爾
陳梏頭 李金進 劉天賜
簡春塘 橫田友親 林從龍
鄭士印
▲同郡北投庄
原平次郎 足立義比古 鳥居嘉蔵
鈴木倉吉 平田剛太郎 王名純
許紹勳 吳簫祿 林定塗
陳振榮 余金印
▲同郡松山庄
飯田康平 三屋大壽 飯塚彌吉
佐藤福太郎 陳復禮 周萬胡
王永全 蔡九母 林阿讓
張喜 蔡石頭 温先進
黃金寬 翁丁
▲同郡內湖庄
賴添 小石光彥 劉隆修
唐禮 岡城萬三郎 林紅英
曾森 林文章 林春風

古家政義 郭準溪 謝水火
郭準添 王朝宗
▲同郡平溪庄
小畑吉平 蔡炳灯 詹振
時津米七 楊倚喜 鳥井戸勇一
吳石龍 胡萬合 胡榮樟
▲淡水郡淡水街
吳輔鄉 多田榮吉 中野金太郎
赤木榮太郎 中村幸吉 齋藤利司
伊原末吉 施坤山 谷五一郎
笹尾峻介 林金鐘 曾四安
邱木 田中勝三郎 鄭奎璧
李鑑塘
▲同郡三芝庄
曾石岳 赤瀨川渠 江阿逢
張廼爵 謝有田 楊峻德
盧樤 陳崑山 陳水源
▲同郡石門庄
潘光賛 福山龍之助 林光勳
潘光南 許里 徐永資
江文通 曾峰餞 鄭溪源
▲同郡八里庄
千葉丈夫 汪式金 佐藤文次郎

洪水柳 林發裕 張有記
林開碧 連猛 張烏車
▲基隆郡基隆街
佐藤一獻 久恒忠治 明比實平
辰己宗太郎 小川直馬 野口有國
水野新十郎 柏原米太郎 古田稱太郎
山田信太郎 小松利三郎 古山昌雄
顏國年 周碧 潘榮春
汪福隆 王塗盛 田中庄吉
▲同郡萬里庄
中村保三 尾辻岩雄 李蒼苔
簡鳳儀 蔡南懷 林石枝
郭扁 黃振興 蕭新波
▲同郡金山庄
藤澤新平 小林寅松 許海亮
高正治 黃棟鄉 許友彩
黃阿錦 賴阿木 李新在
▲同郡七堵庄
加藤德孝 鄭爲貴 蔡雨順
柯文理 周鐘聲 李水生
辜火 黃聰 周永琳
李龍 蔡金聲
▲同郡瑞芳庄

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

石神琢一郎　王振東　蘇賢仔
翁山英　黄仁祥　高文秀
徐紅香　有吉佐平　岩倉計彦
鄭慧継　劉倘　黄則武
廖日清　余金信　郭査某
山田吉次郎
▲基隆郡貢寮庄
林蘭香　陳銓　呉江水
魏阿連　林阿北　呉石仲
中内武夫　簡其壽　陳玉傳
林石枝　呉柏
▲同　郡雙溪庄
武田鶴八　長信振　許柱珠
周歩蟾　游梓在　何政
曹添財　莊得利　賴春波
連紅白　魏清
▲宜蘭郡宜蘭街
二宮卯一　佐藤直二郎　片岡義雄
本三右衛門　砂田勝太郎　行木由太郎
中山文男　田中一雄　陳阿呆
張振茂　陳金波　林扶辰
林青雲　陳老香　連碧榕
▲同　郡礁溪庄
林龍陳　羽室長亭　古川勉

廖淵濱　周錫鈞　李正鄉
林金海　呉添土　游阿茂
康俊坤　張阿盛　林讃標
黄長生　莊麗
▲同　郡頭圍庄
蕭維翰　林振立　魚返文修
羅福元　林吉安　瀧口健一
林亦長　林新枝　濱田辰熊
楊旺樹　林和　呉金全
呉金枝　林養
▲同　郡壯圍庄
東原兼市　淺野鐵腸　黄長庚
林允助　游江　詹阿藤
林本　陳海　藍王祥
林火春　呉嚴壽　郭英盼
陳連才　李壬癸
▲同　郡員山庄
陳朝西　陳贊琮　小森秉雄
陳岸杭　李珪璋　呂振昌
游仕鄉　游朝陽　朱朝昌
游文傑　呉合正
▲羅東郡羅東街
波江野吉太郎　本多剛　筧忠吉
安藤純　岡本近藏　藍新
胡慶森　林纘龍　王長春

郭箕邦　陳在濱
▲同　郡五結庄
高島虎雄　伊藤俊逸　林振昌
陳阿某　張叙南　林維
簡阿聰　陳清旺　林木溪
陳永在　頼啓生　林樹木
林振隆　林枝　游叭連
簡靜淵
▲同　郡三星庄
平野智惠穂　楊廷璧　張慶飛
坂崎作太郎　林阿明　陳草
陳清漢　川越彦麿　陳等
▲同　郡冬山庄
陳振光　簡石生　陳招松
林清池　江光麟　弘世梅次
徐阿歪　陳和清　中野鐵吾
黄石虎　練秀青　陳振茂
陳登亮　游安達
▲蘇澳郡蘇澳庄
村上次一郎　竹中信景　寺田早苗
後藤勝哉　小辻宇吉　雷萬福
林三環　劉阿呆
▲文山郡新店庄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤尾三郎　篠原輝太郎　篠崎長太郎
許清揚　村田重德　劉永溪
王清江　高萬典　蔡玉麟
高潤清　潘朝順　許烏嘴
林金生　劉永清

▲同　郡深坑庄

細谷松吉　河野猛　陳讚煌
林佛國　劉神庇　黃奕成
張建生　高鄭泉　高坤石
黃則水　林黃鐘　黃則聚
許友貫　許梓棲

▲同　郡石碇庄

細井銀作　黃德隆　蕭麟
鍾文科　高扇生　王鳳川
高昆寶　黃清榮　黃神通

▲同　郡坪林庄

高橋房太　齋藤座　王火土
楊綿乾　鄭蟬　王宗廟
呂九英　潘紅棕　林福順

▲海山郡板橋庄

山本義信　高橋喜能　皆吉與吉
呂章富　朱四海　林清富
徐朝鳳　郭太平　黃理通
林玉波　林長存　黃人澤
濱田七五三太郎　井上菅根

▲同　郡中和庄

遠山嚴　陳清輝　黃文慶
呂福安　江讚慶　林梅清
林阿食　蔡要　何清風
呂瑞廷　兪石獅

▲同　郡鶯歌庄

岡準市郎　沼市郎彥　黃煙春
林登貴　小松大四郎　益田萬太郎
陳斐然　陳阿玉　佐藤喜吉
游成金　林田安　陳寬流
林此　陳綿春

▲同　郡三峽庄

陳嘉猷　陳稱玉　陳國治
野間新郎　岩本重美　柿原宗寬
劉清港　黃資勸　劉奎修
井上敏雄　黃淵

▲同　郡土城庄

三木茂　張從鎮　江大嵬
黃政木　何長盛　林積祥
陳安徽　何圖頁　林阿來
朱吉祥　何龍

▲新莊郡新莊街

波部莊二郎　山川二郎助　李國祥
佐分利山三　曾天溪　林添發
陳託　李添讓　游上
林清火　王金生　李景喜
王乾生　陳火盛

▲同　郡鷺洲庄

長坂善作　林清敦　宮内八郎
蔡學銘　陳上九　陳廷藩
黃金印　李水陀　李擎元
蔡煙　李鴻甲　李維計
柯甘　楊慶華　李火
李顏成

▲同　郡五股庄

林知義　吳培銓　余逢時
陳石溪　陳裕源　陳溪木
王朝枝　井ノ口靜夫　李紅

▲同　郡林口庄

岩本賢一　岩尾重正　陳銀河
陳標　王廷福　陳水源
林木春　蔡清彩　高金定

## ▼新竹州▲

▲新竹郡新竹街

馬渡義夫　松岡忠毅　鈴木壽作
橫熊三郎　佐々木覺綱　坂東政次頁

櫻村龜作 永石安三郎 寺本啓太郎
小出傳次郎 李濟臣 鄭雅詩
陳信齊 黃戒三 許留灶
林榮初 韋錫樹 鄭邦泗
許延壽

### ▲新竹郡舊港庄

寺師直熊 彭進春 曾銀錢
郭金來 戴弼臣 曾廉
魏江中 王乾勝 曾水源
彭香 謝火

### ▲新竹郡紅毛庄

徐榮鑑 徐慶火 陳双祿
鄭富文 溫阿隆 鍾立寶
傅萬山 張錦章 徐双萬

### ▲新竹郡湖口庄

羅娘安 張鴻 傅滄浪
黃文波 羅仁法 黃上九
黃錦耀 張登 何國珂
傅堂 羅志涵

### ▲新竹郡新埔庄

蔡金球 詹文光 藍掌峯
張鏡清 林孔昭 范坤堯
楊成水 范永福 蔡鏡濤
詹並茂 吳明相 陳淮
蔡英傑 劉世旺 潘成鑑
蔡德樞

### ▲新竹郡關西庄

周源寶 徐開隆 陳闌清
黃阿生 黃南琛 郭澄海
陳旺同 范洪灶 羅亨錦
劉玉樹 徐阿爐 余錫瓊
徐燇龍 吳錦坤

### ▲新竹郡六家庄

蘇維南 林石乾 林勳極
林阿標 黃靈 陳宗來
方萬 黃火土 陳祖榮

### ▲新竹郡香山庄

陳雲如 蔡傳 劉富
林吉 楊景福 陳堯安
楊金城 吳瑋 蔡恒良
朱滄海 楊進來

### ▲中壢郡中壢庄

奧村靜 佐藤正二 林添貴
劉金鐘 陳貴邦 楊碧權
許阿斗 劉恩忠 鄭富章
陳阿列 李嫣進 梁有朝
邱石養 方仰成

### ▲中壢郡平鎭庄

劉雲華 宋維基 黃阿宗
葉茂南 梁盛文 曾炳臻
謝乾俊 梁盛岳 劉家綸
王萬億 鍾文通

### ▲中壢郡楊梅庄

關浪辰之助 竹內龜七 尹榮才
范秀川 張雲華 鄭步青
梁租盛 鄭玉滿 詹阿昂
林淡居 王華挺 張福醮
謝石蓮 林維鋼 鄭石淡
葉步珍

### ▲中壢郡新屋庄

許靈乾 何連木 葉玉村
徐明裕 姜榮通 姜呂
張福貞 彭成金 余阿盛
許國良 葉坡 曾鴻禎
黃元厚 歐清溪

### ▲中壢郡觀音庄

梁居食 馮增興 周仁山
廖逢波 黃國清 卓修廉
李國順 范姜開午 陳富壽
謝等 李文讚

### ▲桃園郡桃園街

若松專衛 川村直吉 國吉正俊
奧川達太郎 古山常雄 坂口忠太郎
陳傳旺 劉清奇 黃全發
楊慶隆 陳文科 陳慶同

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

簡江 周貴卯

▲桃園郡蘆竹庄

吳逢春 蔡佰棕 王國治
楊阿波 王傳房 徐藍●吉
曾景煌 游金玉 陳光昌
康金鳳 張雲漢

▲桃園郡大園庄

林呈祿、 林鴻英 張英科
林陽 徐阿東 林水流
吳寬銳 黃德 黃聖宗
李阿塗 陳合賜

▲桃園郡龜山庄

呂新進 謝阿九 林步青
徐進琪 李春團 黃其祥
鄭孔 永媽隆 黃能
陳有定 蔡運 賴石坡
陳石送 翁天木

▲桃園郡八塊庄

呂傳居 謝炳乾 邱連興
袁稻 邱長庚 王熾昌
邱創盛 邱有中 呂登

▲大溪郡大溪街

都築元馬 桑原太四郎 清水巖
加藤仁作 永田勇助 黑木伸治
藍玉縣 張石養 林源松

吳煥文 林傳民 王式璋
林源通 江智英 蔡昂瑩
呂建邦 黃進發 傅德令
顏致雨

▲大溪郡龍潭庄

李養 陸昌義 陳耀樞
謝金日 陳展勳 陳龍祥
李益發 蕭慶壽 翁新順
翁瑞慶 葉傳柳 黃清源
魏維水 邱世濬

▲竹東郡竹東庄

市塚五郎九 片野清 林春秀
彭錦濤 蘇石水 吳錦堂
彭清政 林阿名 何義相
劉仁湘 李根盛

▲竹東郡芎林庄

鍾鐵山 陳貴進 何讚彬
鄭鳴琴 劉朝品 張臺蘭
姜紹消 葉阿進 范阿巖

▲竹東郡橫山庄

草野綾 曾文喜 曾文龍
溫安榮 張信進 廖阿祿
蔡奕 詹煌興 鍾土房
劉家駿 陳鴻猷

▲竹東郡北埔庄

姜振騰 姜振義 彭蘭鳳
邱芝汀 賴阿日 莊德灶
羅享標 郭泉興 徐國禎

▲竹東郡峨眉庄

黃錦海 曾春秀 林廷參
李琢亮 范阿石 楊盛坤
溫阿北 彭振送 曾阿山

▲竹東郡寶山庄

彭南生 李火生 田興火
古稽堯 詹永興 古承賢
余阿土 蔡金亮 劉建勳

▲竹東郡竹南庄

芥川善治 甚野猪吉 許萬得
方清源 陳調元 林鐵貢
陳里松 許生 方錦祥
郭金水 方學京

▲竹南郡頭分庄

林玉輝 邱順三 張順興
鄧阿秀 黃海生 林連逵
陳維藻 張鼎華 王雲榮
陳金洪 劉倫 蔡碧郁
曾金穎 饒昌麟

▲竹南郡三灣庄

鄧火興 邱盛明 黃南光
曾達海 盧鼎房 陳松學

廖俊心　溫阿算　王普鳳

▲竹南郡南庄

森友太郎　顏木興　陳傳華
孫廷雪　黃謙石　黃開郎
黃新維　張阿傳　鍾維富

▲竹南郡造橋庄

平山堯康　謝冉義　劉秀琳
張阿華　蔡木勝　陳阿九

▲竹南郡後龍庄

秋場治郎　蔡雨換　劉承恩
鄭進添　彭鼎盛　黃英
戴旺　杜老德　呂坪
陳金順　呂海山　許清溪
吳水勇　許添丁

▲苗栗郡苗栗庄

川瀨信平　萩原宗熊　山地尖
氏家匡介　水田熊治　郭來秀
彭昶興　劉德欽　謝慶芳
劉慶榮　李金盛　劉立德
江劉水　黃乙榮

▲苗栗郡頭屋庄

范炳垣　徐仙階　張振楊
徐玉山　陳阿盛　彭阿結
徐德安　劉傳興　徐德生

▲苗栗郡公館庄

杉澤利行　劉普元　謝于元
陳添順　陳德智　江嵩全
鍾富生　周朝棟　邱煥朗
劉運紛　徐啓賢　黃阿昌
湯苑春　彭昌志

▲苗栗郡銅鑼庄

橋本益喜　徐阿煌　羅吉正
邱海華　賴玉溪　李聯壁
陳阿文　吳阿禮　劉俊松
陳財興　吳乘哲

▲苗栗郡三叉庄

三戸圓太郎　國友清治　王金智
湯金鼎　邱國瑞　劉大田
徐金水　詹益榮　吳其木

▲苗栗郡苑裡庄

清水知磨男　老山寬　林敦
蔡秋德　郭南枝　蔡江芳
鄭太鼓　何臨進　陳貴鳳
陳啓心　林清溪　郭于燕
陳徵　阮阿安

▲苗栗郡通霄庄

宮洋太郎　今惠三郎　湯錄
林水福　馬香　陳居才
黃阿雲　邱國禎　駱英生
林阿成　邱水秀　張木

何王　李連發

▲苗栗郡四湖庄

江慶連　彭秋水　劉阿勳
古阿隆　郭阿明　張阿榮
邱梅朗　古阿立　劉阿麟

▲大湖郡大湖庄

橋本圭造　田原千彥　吳楊麟
周朝可　吳阿水　張炳財
陳永龍　賴石養　陳富蘭

▲大湖郡獅潭庄

立石賢治　劉阿平　黃阿養
劉傳村　蔡榮華　黃阿荷
林德坤　黃達來　王芳清

▲大湖郡卓蘭庄

小野喜三郎　詹霖成　詹春福
徐阿昂　劉阿能　賴添福
詹傳福　江立德　劉福興

## ▼臺中州▲

▲大屯郡大里庄

小森田賴誠　林秋金　林朝松
林乔　林祥山　林阿乘
林仲衡　林伸池　林德修

▲同郡霧峯庄

川島一二　丸山琅　林文烈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陳文慶　蘇清淇
▲同　郡士林庄
石原靜三　郭坤木　郭邦光
林振聲　何炳奎　吳德英
吳文明　筑紫篤治　陳瀛
陳梧頭　李金進　劉天賜
簡春塘　橫田友親　林從龍
鄭士印
▲同　郡北投庄
原平次郎　足立義比古　鳥居嘉藏
鈴木倉吉　平田剛太郎　王名純
許紹勳　吳濟臻　林定塗
陳振榮　余金印
▲同　郡松山庄
飯田廉平　三屋大壽　飯塚彌吉
佐藤福太郎　陳復禮　周萬胡
王永全　蔡九母　林阿讓
張喜　蔡石頭　溫先進
黃金寬　翁丁
▲同　郡內湖庄
賴添　小石光彥　劉隆修
唐讚　岡城萬三郎　林紅英
曾箴　林文章　林春風

古家政義　郭華溪　謝水火
郭華添　王朝宗
▲同　郡平溪庄
小畑吉平　蔡炳灯　詹振
時津米七　楊倚喜　鳥井戸勇一
吳石龍　胡萬合　胡榮樟
▲淡水郡淡水街
吳輔鄉　多田榮吉　中野金太郎
赤木榮太郎　中村幸吉　齋藤利司
伊原末吉　施坤山　谷五一郎
笹尾岐介　林金鐘　曾四安
邱木　田中勝三郎　鄭丕璧
李鑑塘
▲同　郡三芝庄
曾石岳　赤瀬川渠　江阿進
張迺爵　謝有田　楊岐德
盧樹　陳崑山　陳水源
▲同　郡石門庄
潘光貴　福山龍之助　林光勳
潘光南　許里　徐永賢
江文通　曾峰鋭　鄭溪源
▲同　郡八里庄
千葉丈夫　汪式金　佐藤文次郎

洪水柳　林發裕　張有記
林開碧　連猛　張烏車
▲基隆郡基隆街
佐藤一猷　久恒忠治　明比實平
辰己宗太郎　小川直馬　野口有圖
水野新十郎　柏原米太郎　古田稱太郎
山田信太郎　小松利三郎　古山昌雄
顏國年　周碧　潘榮春
汪福隆　王塗盛　田中庄吉
▲同　郡萬里庄
中村保三　尾辻岩雄　李蒼苔
簡鳳儀　蔡南懷　林石枝
郭扁　黃振興　蕭新波
▲同　郡金山庄
藤澤新平　小林寅松　許海亮
高正治　黃棟鄉　許友彩
黃阿錦　賴阿木　李新在
▲同　郡七堵庄
加藤德寧　鄭爲貴　蔡雨順
柯文理　周鐘聲　李水生
章火　黃戆　周永琳
李龍　蔡金聲
▲同　郡瑞芳庄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

石[illegible][illegible]一郎　王振東　蘇賢仔
蕭山英　黄仁祥　高文秀
徐紅番　有吉佐平　岩倉計彦
鄭[illegible][illegible]　劉倚　黄則武
廖日清　余金信　郭查某
山田吉次郎

▲基隆郡貢寮庄
林蘭香　陳錢　呉江水
魏阿連　林阿北　呉石仲
中内武夫　簡其壽　陳玉傳
林石枝　呉柏

▲同　郡雙溪庄
武田鶴八　長信振　許柱珠
周步蟾　游梓在　何政
曹添財　莊得利　賴春波
連紅白　魏清

▲宜蘭郡宜蘭街
二宮卯一　佐藤直二郎　片岡義雄
木三右衛門　砂田隣太郎　行木由太郎
中山文男　田中一雄　陳阿呆
張振茂　陳金波　林拱辰
林青雲　陳老番　連碧榕

▲同　郡礁溪庄
林瓊陳　羽室長亭　古川勉
廖[illegible][illegible]　周錫[illegible]　李正[illegible]
林金海　呉添土　游阿茂
康俊坤　張阿盛　林讃標
黄長生　莊震

▲同　郡頭圍庄
蕭維輪　林振立　魚返文修
羅福元　林吉安　瀧口健一
林亦長　林新枝　濱田辰熊
楊旺樹　林和　呉金全
呉金枝　林養

▲同　郡壯圍庄
東原兼市　淺野鐵腸　黄長庚
林尤助　游江　詹阿藤
林本　陳海　藍王祥
林火春　呉嚴壽　郭英盼
陳連才　李壬癸

▲同　郡員山庄
陳朝西　陳賛琮　小森重雄
陳岸杭　李瑋璋　呂振昌
游仕爆　游朝陽　朱朝昌
游文傑　呉合正

▲羅東郡羅東街
波江野吉太郎　本多剛　筧忠吉
安藤純　關本近藏　董新
胡慶森　林達德　王長春
郭[illegible]邦　陳在[illegible]

▲同　郡五結庄
高島虎雄　伊藤俊遠　林振昌
陳阿某　張徵南　林維
簡阿聰　陳清旺　林木溪
陳永在　賴啓生　林樹木
林振隆　林枝　游叭連
簡靜淵

▲同　郡三星庄
平野智惠穗　楊廷璧　張慶飛
坂崎作太郎　林阿明　陳草
陳清渓　川越彥磨　陳等

▲同　郡冬山庄
陳振光　簡石生　陳招松
林清泓　江光麟　弘世椿次
徐阿歪　陳和清　中野鐵吾
黄石虎　練秀青　陳振茂
陳登亮　游安達

▲蘇澳郡蘇澳庄
村上次一郎　竹中信景　寺田早苗
後藤勝哉　小辻宇吉　雷萬福
林三讓　劉阿呆

▲文山郡新店庄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

簡　江　周貴卯
▲桃園郡蘆竹庄
吳逢春　蔡佰棕　王國治
楊阿波　王傳房　徐萱吉
曾景煌　游金玉　陳光昌
廖金鳳　張雲漢
▲桃園郡大園庄
林呈禎　林鴻英　張英科
林　陽　徐阿東　林水流
吳寬鋭　黃　德　黃聖宗
李阿塗　陳合陽
▲桃園郡龜山庄
呂新進　謝阿九　林步青
徐進琪　李春圖　黃其祥
鄭　孔　永嬌隆　黃　能
陳有定　蔡　運　賴石坡
陳石送　翁天木
▲桃園郡八塊庄
呂傳居　謝炳乾　邱連興
袁　稲　邱長庚　王熾昌
邱創盛　邱有中　呂　登
▲大溪郡大溪街
都築元馬　桑原太四郎　清水曦
加藤仁作　永田勇助　黑木伸治
趙玉縣　張石養　林源松

吳煥文　林傳民　王式璋
林源通　江智英　蔡昂堅
呂建邦　黃進發　傅德令
顏致雨
▲大溪郡龍潭庄
李　養　陸昌義　陳耀福
謝金日　陳展勳　陳龍祥
李盖發　蕭慶壽　翁新順
翁瑞慶　葉傳柳　黃清源
魏維水　邱世溶
▲竹東郡竹東庄
市塚五郎九　片野清　林春秀
彭錦濤　蘇石水　吳錦堂
彭清致　林阿名　何義相
劉仁湘　李根盛
▲竹東郡芎林庄
鍾鐵山　陳貴進　何禮彬
鄭鳴琴　劉朝品　張臺蘭
姜紹湞　葉阿進　范阿歲
▲竹東郡橫山庄
草野綾　曾文喜　曾文龍
溫安榮　張信達　廖阿麟
蔡　奕　詹煌興　鍾土房
劉家韻　陳鴻猷
▲竹東郡北埔庄

姜振驥　姜振義　彭閣康
邱芝汀　賴阿日　莊德灶
羅享標　郭泉興　徐國禎
▲竹東郡峨眉庄
黃錦海　曾春秀　林廷參
李琛亮　范阿石　楊盛坤
溫阿北　彭振送　曾阿山
▲竹東郡寶山庄
彭南生　李火生　田興火
古稽堯　詹永興　古承賢
余阿土　蔡金亮　劉建勳
▲竹東郡竹南庄
芥川善治　甚野猪吉　許萬得
方清源　陳調元　林鐵貫
陳里松　許　生　方錦祥
郭金水　方學京
▲竹南郡頭分庄
林玉輝　邱順三　張順興
鄧阿秀　黃海生　林連達
陳維藻　張鼎準　王雲榮
陳金洪　劉　倫　蔡碧郁
曾金類　饒昌麟
▲竹南郡三灣庄
郭火興　邱盛明　黃南光
曾逢海　盧鼎房　陳松學

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廖俊心　溫阿算　王普鳳
▲竹南郡南庄
森友太郎　顏木興　陳傳華
孫廷雪　黃練石　黃開郎
黃新維　張阿傳　鍾維富
▲竹南郡造橋庄
平山堯康　謝冉義　劉秀琳
張阿華　蔡木勝　陳阿九
▲竹南郡後龍庄
秋場治郎　蔡兩換　劉承恩
鄭進添　彭鼎盛　黃英
戴旺　杜老德　呂坪
陳金順　呂海山　許清溪
吳水勇　許添丁
▲苗栗郡苗栗庄
川瀨信平　萩原宗熊　山地尖
氏家匡介　水田熊治　郭來秀
彭昶興　劉德欽　謝慶芳
劉慶榮　李金盛　劉立德
江劉水　黃乙榮
▲苗栗郡頭屋庄
范炳垣　徐仙階　張振楊
徐玉山　陳阿盛　彭阿結
徐德安　劉傳興　徐德生
▲苗栗郡公館庄

杉澤利行　劉春元　謝于元
陳猛順　陳德智　江崑全
鍾富生　周朝棟　邱煥朗
劉運紛　徐啓賢　黃阿昌
湯苑春　彭昌志
▲苗栗郡銅鑼庄
橋本益喜　徐阿煌　羅吉正
邱海華　賴玉溪　李聯璧
陳阿文　吳阿禮　劉俊松
陳財興　吳秉哲
▲苗栗郡三叉庄
三月國太郎　國友清治　王金智
湯金鼎　邱國瑞　劉大田
徐金水　詹益榮　吳其木
▲苗栗郡苑裡庄
清水知磨男　老山寬　林敦
蔡秋德　郭南枝　蔡江芳
鄭太鼓　何臨進　陳貴風
陳啓心　林清溪　郭子燕
陳徵　阮阿安
▲苗栗郡通霄庄
宮洋太郎　今惠三郎　湯祿
林水福　馬香　陳居才
黃阿雲　邱國禎　駱英生
林阿成　邱水秀　張本

何王　李連發
▲苗栗郡四湖庄
江慶連　彭秋水　劉阿勳
古阿隆　郭阿明　張阿榮
邱梅朗　古阿立　劉阿爵
▲大湖郡大湖庄
橋本圭造　田原千彥　吳楊麟
周朝可　吳阿水　張炳財
陳永龍　賴石養　陳富蘭
▲大湖郡獅潭庄
立石賢治　劉阿平　黃阿養
劉傳村　蔡榮華　黃阿荷
林德坤　黃逢來　王芳清
▲大湖郡卓蘭庄
小野喜三郎　詹霖成　詹春福
徐阿昂　劉阿能　賴添福
詹傳福　江立德　劉福興

▼臺中州▲

▲大屯郡大里庄
小森田賴誠　林秋金　林朝松
林番　林祥山　林阿秉
林仲衡　林仲池　林德修
▲同郡霧峯庄
川島一二　丸山環　林文烈

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

曾天成　黄林漢　林春山
林登魁　簡炳耀　張玉川
林志淸　林幼春
▲同　郡大平庄
田口茂雄　林瑞騰　王再生
廖神助　林根　謝進福
蔡蓮池　林烏毛　楊川流
▼同　郡北屯庄
宮島虎雄　西慶二　賴應華
林拔新　賴世榮　賴宗水
賴宗棠　陳牛　賴振寬
謝春源　廖烈
▲同　郡西屯庄
吉森喜三郎　廖春洋　何振德
張光月　張謙　廖來福
廖大妹　張阿枝　何順傳
廖阿淸　張阿高　廖德聰
▲同　郡南屯庄
岩下袈裟次郎　簡楊華　林淸雲
賴秀　賴盛　陳汴池
廖順享　賴幼忠　林炳
▲同　郡烏日庄
椎田留大　山之城寛平　林東

林番升　林海力　楊淸和
陳若時　高發　楊烏毛
▲豐原郡豐原街
名川匡甫　坂上椿藏　西尾百松
菅野三之助　平田市藏　山下金二
方玉榮　張邱玉章　張德富
廖鏡堂　張文淩　羅安
林慶連　林祚海　廖番
陳振通
▲同　郡內埔庄
速水敬忠　高瀨谷嘉二郎　梅村旦郎
張欣　張派　張天機
陳李丁才　張福昌　周呂水勝
陳春生　王月
▲同　郡神岡庄
新原重志　前田妙馬　林萬選
林世昌　林汝壽　林少超
呂池濟　陳金城　王宋
游鴻波　王福炮
▼同　郡大雅庄
本莊讓　張江中　張玉昭
張春亭　張顏辨　張炳餘
張炳紹　張文聘　張寶賢

▲同　郡潭子庄
深堀小平　林奇輝　林瓊彰
林春木　郭添然　林慶章
賴秋桂　呂永泉　林錦
▲東勢郡新社庄
竹島彰夫　詹祥　何林連
劉永茂　陳維岩　石秋水
陳河　黄大昂　劉日廷
▲同　郡石岡庄
高木嘉幸　劉慶雲　張德寮
黄春光　劉曉郁　管文才
黄纘水　黄纘養　劉初
▲同　郡東勢庄
眞子勝次　本多季三郎　八幡久吉
西村勝隆　加田仙太　諏訪朝彥
淸原勘三郎　廖阿霖　劉阿金
黄元興　朱錦章　羅慶祥
劉阿迸　張阿振
▲大甲郡梧棲街
久留景之助　酒匂七之助　田中三之助
陳明貴　陳錦上　楊心緬
李協　紀淸輝　楊庭輝
蔡淸俊　紀桂心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲大甲郡清水街
杉本圭二　松浦仙松　中村直
北原守一　蔡栢初　楊瑞洲
蔡蓮麓　蔡謀源　蔡詒祥
李老仕　梁　業　王奇謀
黃茂林　趙金火　黃有財
李　美
▲同　郡龍井庄
加藤虎太郎　陳讚緒　陳春開
陳武西　陳錦上　陳昆炳
陳　祥　紀木岐　林超然
陳　涼　陳啓明
▲同　郡大肚庄
林開藏　李田巨　陳瑞南
趙朝發　林世寶　蔡春海
陳進富　陳保全　曾紅牛
▲同　郡沙鹿庄
村尾重昂　片山藏　新井末吉
王成春　童　山　吳萬居
陳　賀　陳　楓　蔡　讚
蔡萬登　陳有明
▲同　郡大安庄
平田虎男　陳　知　黃　純

莊　屋　黃書緯　黃　殿
吳三天　黃漢清　張文龍
▲大甲郡大甲街
岡村正己　井坂虎松　上野實
岩元義盛　黃清波　王燕翼
彭清彝　陳　煌　柯清標
陳　煌　林麒麟　陳漢芬
郭木榮　鄭火刀
▲同　郡外埔庄
澁谷春太郎　李　海　張審謇
蘇　樹　黃成業　賴水旺
陳　番　蘇振接　劉阿生
▲彰化郡彰化街
野口牛之助　大津宗太郎　塚本初治郎
首藤勳雄　赤塚音次郎　顏源發
吳士禎　吳廣樹　吳起材
王關柏　林庚子　楊炳煌
楊偉修　楊以專
▲同　郡南郭庄
黃有禮　王　池　張烏皮
林　九　呂錦清　王再興
吳　河　林有才　張汝澤
▲同　郡鹿港街

平田丹藏　作山己巳夫　吉村小太郎
片岡精官　大瀬宗壽　藤城九重
陳賀芬　施受業　王君年
蔡敦波　施仁義　郭振英
施鑑田　謝　智　黃毓玉
黃　瓜　李孝德　施瑞呈
陳　泗
▲同　郡大竹庄
小久保業治　伊志嶺朝堅　張日昌
蔡隆欽　楊　龍　林通流
粘卷世　林阿江　張秋交
▲同　郡線西庄
平松毅雄　江南孫一　陳献棠
柯萬玉　曾　恭　柯　祥
黃　和　李　沙　周　寬
林　儒　許小猪
▲同　郡福興庄
待木富德　陳火爐　施瑞庚
楊　返　謝　岳　林　周
黃　昆　黃光連　許廷川
許　姜　洪媽傳
▲同　郡秀水庄
手塚廣重　林　獻　吳秋蘭
林　森　陳添沛　吳溪柳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

梁炎山　蘇清派　林　榮
▲彰化郡和美庄
松元勇助　楠瀨一貫　陳錫奎
阮建業　許在汴　吳文基
許仰峯　謝茂臣　蔡　枸
謝以貞　謝金敦　林海萍
林　贊　葉　秋
▲同郡花壇庄
永峯親夫　畑島[illegible]義夫　唐焜煌
李振鵬　李篤堯　黃　旭
施　全　黃如洋　李鐵奇
李仁和　陳　政
▲同郡芬園庄
田中武雄　山内彥一　張　胚
黃大墩　吳鼎秋　張火成
黃燦林　簡西周　褚讚登
黃萬達　莊萬添
▲員林郡員林街
奧井魁太郎　櫻井芳太郎　牛山龜吉
吉田修一　木部藤太郎　田口直正
盧禹來　江・秋陽　李道生
張海霖　曾　芋　黃文耀
江俊傑　曾清權　張紹榕
張芳印
▼員林郡埔鹽庄

東久保市次郎　陳　炎　施　印
陳奇灶　陳銅運　陳吉興
顏水掌　陳　下　陳　活
康　貫　童義卿
▼同郡大村庄
大河内仙平　楊火枝　吳　明
賴澤川　游塗井　賴　騫
游水盛　賴春水　賴　前
劉再立　賴紹義
▼同郡溪湖庄
永田水哉　水野恭平　山ノ内直熊
楊　鮑　楊世寬　陳熾昌
陳　旺　王　戶　黃啓書
陳添福　楊　木
▼同郡永靖庄
內村英識　張有火　陳水元
邱魏朝興　陳慶雲　江　存
王茂寅　邱禮蓮　陳慶根
詹　富　陳　成　江振聲
劉　謙　胡萬一
▼同郡坡心庄
井上軍二　黃耀南　黃　約
黃家守　張　平　邱興才
黃耀坤　涂　通　蔡　博
黃任從　黃席參

▼同郡社頭庄
兼坂修　蕭清通　蕭汝謙
劉　木　潘　主　康三江
蕭　益　蕭昌垣　劉甲壹
劉同興　陳　重
▼同郡田中庄
村田新平　内田勒三　陳芳輝
陳鴻苗　蕭興祥　陳　喜
陳恒仁　許　屋　陳火明
陳坤儀　陳文理
▼同郡二水庄
增澤深治　高木三子　小野守舜平
陳　如　鄭傳準　謝進贊
陳進益　謝在祺　蔡聯登
▼北斗郡北斗街
伊藤鐘　寺田清三郎　堤熊太郎
平井幸三郎　黃伯勳　林伯康
許丁錦　陳子授　楊天賚
▼同郡田尾庄
茂木浩　邱溪水　蕭　羊
吳天求　彭天恩　呂振芳
林恩賚　陳羅溪　薛　達
陳慶火　林　我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼同郡埤頭庄
高橋森一郎　鄭　萁　黃招賢
陳炎星　傅仲周　林　復
吳金鐘　蔡有財　黃感養
謝　土　許東岳

▼同郡竹塘庄
金城盛保　藤本儀七郎　邱菊花
莊　日　楊九頁　詹昌寶
曾　涼　詹仁華　詹　忠

▼同郡二林庄
島山隆助　太田清一　島村德太郎
許　秦　許　學　陳梓成
李木生　張　出　洪和尙
謝　彪　打方新治

▼同郡溪州庄
渡邊國介　關谷猶吉　川上要
西川健治　楊清風　廖樹生
廖　惪　劉宗安　鄭四蚶
傅大穆　鄭水傳

▼同郡大城庄
馬屋原宗吾　吳輝龍　許　業
吳　鍊　許水柳　許　飛
許澄貨　劉蓮亭　陳全晃

▼同郡沙山庄
牧九六　謝日新　葉清河
洪　江　楊深源　洪　烈
陳建上　林成枝　林　側
謝文心　洪　賀

▲南投郡南投街
木村正夫　山田權三郎　金子繁三郎
牧田彥次郎　柳谷三省　秋元德太郎
永野稱伊　沼澤伊藏　山本竹太郎
廖心高　陳煥光　林崧雨
王金杆　葉在淵　曾國樑
吳宗敬

▼同郡草屯庄
常田袈裟吉　李昌期　李金浮
洪得中　洪守炳　林紹鵬
林輝坤　林倚利　洪　強
黃春帆　洪汝祥　洪元煌
簡　獅　陳一以

▼同郡名間庄
和田恒太郎　陳作西　謝清泉
陳深江　吳岳林　吳清在
陳廷輝　黃　乾　陳　頭
陳耀儀　李有義　陳　瑞
劉阿羅　陳　逸

▼同郡中寮庄
蕭頼連　吳　炎　廖正權
劉如玉　張水木　田　琛
廖　扁　廖　金　鄭　炎

▼新高郡集々庄
奥岡德一　岡野幸次郎　眞崎儀八
黃大修　陳世錦　陳金虎
沈　屋　蕭新喜　中村直忠

▼同郡魚池庄
小林貫次　野中德市　王　榜
黃　成　巫石鍊　蔡丁賀
陳　水　黃　管　石　林

▼能高郡埔里街
森田博文　坂本軍二　山下藤太郎
瀨　軍一　瀨戶崎市之丞　谷口清之助
原田源吉　潘玉山　張祖隆
蘇遂時　王峻桃　鄭阿金
張春振　黃敦仁

▼同郡國姓庄
有川彥次　李聯薰　張中參
潘志良　劉玉富　林　蚶

▼竹山郡竹山庄
野副茂人　國司道輔　沼田大學
鶴田直次郎　平間秀顯　森野明茂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陳彩龍　黃啓奕　林如璋
林長金　劉煥章　陳紹禎
陳献瑞　陳鳳飛　劉瑞西
廖南豐

▼同郡鹿谷庄
照屋久八　郭東周　林宗慶
林天德　林逢時　張方
張錫璋　李陽　陳文楠
顏風盛　黃錫三

## ▼臺南州▲

▼新豐郡永寧庄
糸井益雄　馬大權　莫樹
杜允定　張孝　陳水灶
李順成　宋添岸　蔡胡
蔡南　徐守益

▼同郡仁德庄
栗原琢磨　盧銀樹　張蘆顯
鄭若　陳水　張齊
蔡讓　莊德意　童九

▼同郡歸仁庄
野口彦次郎　蔡耀　蔡得一
李老吉　楊致志　王在壽
鄭火　劉清源　陳朝元
楊丁旺　林登讚

▼同郡關廟庄
川崎俊雄　楊面　李春玉
莊拔英　黃大水　郭岸
林臺　張老徒　藍石

▼同郡龍崎庄
三木正夫　楊菴　蔡朝成
林石頭　黃文生　林篤

▼同郡永康庄
佐藤覺一　謝源　林米
陳雙　謝芋　曾森退
陳子南　蕭大朝　王法
陳井　戴管

▼同郡安順庄
橋本新三　楊眞　蔡源隆
黃日　林順和　黃靈續、
蔡文彬　林清甫　顏丁萬
郭文福　黃永亮　許丙
林清盤　楊全

▼同郡南化庄
鈴木徹　王啓順　李蔗
黃圭　廖掌　盧清龍

▼新化郡新化街
下村八五郎　池田倉吾　池上與三松
並木平吉　鐘天德　蘇江燈
林允　黃祥　黃心關
蔡淳　楊凱風

▼同郡新市庄
石黑龜太郎　曾福興　楊猶挽
鄭井　王勇　柯却
李津　黃琴　林慶隆

▼同郡安定庄
田之頭清　王齊田　王寶珠
王春拂　蔡榮彬　王枝瓦
林茂藏　王啓明　胡水盛
蕭神助　莊金能　林瓦炳
方路　戴鶯

▼同郡善化庄
中島與市　大石敬一　蘇師陀
陳土城　林土割　楊水松
林連順　曾丁順　毛考添
蘇孝子　王條水

▼同郡山上庄
上野秀輔　張耆耀　陳永
傅孟冬　張嫁　戴項成
林有裕　楊老火　田此

▼同郡玉井庄
名倉森藏　篠田馬太郎　樋口定藏
江調　江寬　楊木
黃賢　王萬金　王追

▼同郡楠西庄
太田貝一　石川友市　江財旺

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

張　乘　江萬全　陳　送
▼同郡左鎮庄
齋谷新太郎　蔡龍通　羅文生
羅來受　徐四海　穆春財
李崑峰　黃文全　鄧碧簡
▼曾文郡麻豆街
宮川富士松　津田尙正　中川審
佐伯留雄　香曾我部吉治　笠岡博章
黃信國　黃文楷　林　拔
鄭　港　郭　海　蔡　筠
李欉楚　林　甲　陳國基
張　料
▼同郡下營庄
長尾茂　曾春風　曾文貴
楊　化　蔡　亭　馮　爽
蘇暉榮　林金水　黃淸瀾
顏九能　郭　崎
▼同郡六甲庄
堀本作市　張漏才　黃　同
黃條興　施子格　陳　攝
柯丁泉　黃　等　康　振
▼同郡官田庄
檜山衛　澤田武雄　李知高
陳正鄕　陳戊己　胡執禮
胡春木　黃德法　許金鳳

▼同郡大內庄
本田四郎　楊子鶴　許　審
楊石吉　楊老尾　楊大吒
鄭萬斷　連添丁　葉　海
▼北門郡佳里庄
大日方金太郎　松崎茂七　甲本粂治郎
高添旺　鄭國禎　陳　潛
黃深淵　劉淸火　楊影汶
林某囊　郭　朝　莊天化
黃彩堂　林　潭
▼同郡西港庄
渡邊義三　方　沁　劉玉輝
王李慶　陳來成　王連水
李其才　王　棕　郭　鏗
郭允章　蔡大墾　謝天化
▼同郡七股庄
今給黎純行　陳　泉　林登祿
蘇金龜　黃玉振　陳　荐
邱　擇　黃　乾　王　裕
陳大經　陳　庠　郭　本
謝　旺　洪連生
▼北門郡將軍庄
中井悟　周作霖　吳萱草
黃　晴　陳大抱　吳　強
黃新章　黃　正　吳淸吉

黃水生　林　弁　陳　康
吳　信　吳齊敦
▼同郡學甲庄
古賀房次郎　謝春成　周　得
謝進來　楊倉庫　莊三連
莊　呈　賴　存　李　党
謝　慶　郭鍋五　郭子磬
陳東勝　陳順治　陳少卿
邱文后
▼同郡北門庄
由良義顯　郭山藹　王　懷
洪　富　王　頂　王　皂
黃同勝　吳庚壬　洪　石
王　恣　郭　包　侯大墾
凃合全　吳　寅
▼新營郡番社庄
橋本勝偉　邱秋貴　陳琇壁
陳淡江　陳廷煉　鄭等待
鄒　信　施淸月　李文欽
葉　沃　段　蒼
▼同郡後壁庄
賴澤蕂一　山下正太郎　陳　又
王燿明　葉　鍋　黃振隆
賴　拱　莊以蒞　張大存
黃登芳　林薑明

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼同郡白河庄
高木五男　押川貞藏　上原尚志
李永昌　張耳　陳其安
何繼序　蕭塙模　廖天進
魏有忌　蘇沄　施載輝
陳爾　賴貫
▼同郡柳營庄
常吉梧朗　林純如　王光亮
曾竹籌　連啓泓　張殿
周欽　張、璿傳　吳班
▼同郡鹽水街
松川清一　釜田義雄　乾林三
早田萬介　木村勝　山田實
黃英　翁相　黃石
陳宗能　陳賜　張遠
蔡灝嘯　魏輕
▼同郡新營庄
西岡廣　岩本正志　帖佐武次
安部貞次　沈德修　王甡太
楊允中　陳子對　沈森其
沈鳥棕　林水來
▼嘉義郡嘉義街
佐野旅藏　早川直義　小河内六一
河野綱吉　中島巳之助　有馬松太郎
宮崎重吉　白井一　森春吉

方展玉　陳際唐　林玉崑
郭丙　莊啓鏞　蘇育奇
賴雨若　羅峻明　鄭作型
▼同郡水上庄
山本福三郎　廣井群治　塩月九一
呂典　林貴　林馨
何聯哲　吳茂枝　黃靖鄉
黃萬璜　黃定
▼同郡民雄庄
勝木澤吉　中尾寬義　工藤豐
秋山員次郎　陳朝宗　陳金聲
陳聯彰　劉水雁　劉容如
簡貴　何士儀　郭深海
蔡鱗　許滄明
▼同郡新巷庄
細川捨次郎　横田國香　菅原吉次郎
陳朝　陳東曦　林茂源
林在　李土割　王頭
何肇　洪炳　郭寬容
黃心婦　周登
▼同郡溪口庄
荒木三郎　張象時　陳隆興
劉白　王七　郭榜
郭爐漢　莊圭慶　潘天
▼同郡大林庄

原田茂　津田定次郎　村上藤吉
藤本大藏　郭柱　簡清陣
簡意　簡清碧　郭萬安
許佳粟　江洽輝
▼同郡小梅庄
宇谷和一郎　陳爲姜　陳興
張合順　林鄭有文　賴文意
吳是委　江国國　吳春義
邱欽松　許文再
▼同郡竹崎庄
林勝次　大澤治一　渡邊久一
征矢野止雄　藤野鶴記　林牛
林傳進　林祥　劉逕碧
王榮　蘇靜修　蘇有廷
黃塗　鍾紹昌
▼同郡番路庄
谷口昇之進　張國　張通
池成　沈添增　林雲
林盛　劉瀾　蔡獻其
▼同郡中埔庄
松田鐵太郎　方姜　張茂林
張瓦　林宗煥　林乾
林玉峰　郭標　曾寄
羅義　周再
▼同郡大埔庄

齋藤圭治郎　陳新賢　李王清波
葉耳　賴炳坤　詹陽
▼斗六郡斗六街
飯田耕一　中川雅夫　安部岩次郎
前田榮吉　坂口福松　浦木小三郎
花新發篤德　三浦信明　葉清泉
林訓承　莊義　黃紹謨
林周　李實　張東
林庚　張忠　林民
張才
▼同郡古坑庄
漆島實義　陳清　陳六
林朝枝　陳登高　林英
劉耀宗　邱生旺　張科
賴全　李日郡
▼同郡斗南庄
村上兵之助　衣笠村太郎　陳俱修
徐龍　蕭登壽　黃聿修
洪允呈　陳順　陳榮
沈延傑　沈品三
▼同郡大埤庄
宮下良次　簡東　劉牛
蘇秀　劉頭　劉再生
劉清標　張禎祥　謝大目
簡清朝　張有用

▼同郡莿桐庄
小圷哲　林木　林草栖
王昌　林萬得　郭能傑
蕭深潭　張連興　林聰
▼虎尾郡西螺街
高橋哲夫　瀨上寅雄　青木尊
古川賀雄　廖承丕　李昭元
廖大錦　廖學昆　黃文滿
張崇岳　程金松　廖春
阿王乳　林婆母
▼同郡虎尾庄
高野正太郎　柳澤善次郎　金子一二
饒目滋平　謝龍　陳槐
王兜　周新來　周頂讓
王明　黃朝深
▼同郡二崙庄
松山貫　古賀正雄　廖富淵
李睬　廖能　李珠番
廖木和　何阿九　李欽
▼同郡崙背庄
池田恩無邪　林福謙　楊耀南
廖金晴　鍾居萬　李連曲
許番　許番婆　許胡
許海瑞　林得鳳
▼同郡海口庄

稻垣恒喜　高橋善七　饒平名昌眞
趙過房　林猪　林舟
吳强　蔡仁忠　莊兜
許坐　許金　陳達卿
李竹頭　陳樹
▼同郡土庫庄
木村秀祜　和才鐵作　相良義人
蕭萬得　林阿僅　林永振
林有福　林昭頂　王寬
張萬順　許江　蘇錦
柯謨　楊牛埠
▼北港郡北港街
竹内喜久馬　國弘晋　林庄一
島澤兼作　蔡然標　蔡四安
蔡培波　林興　黃白
蘇獅　蔡馬　王双
崔玉林　李双
▼同郡元長庄
中村正次　李龍　傅嚴
許水波　吳李丁　邱鳴
許情　李順　李居
陳塵　吳缺
▼同郡水林庄
中森榮吉　紀包　許助
蔡尿龜　陳三六　吳見

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蔡春香　余晉香　蔡明
黃存　蕭觀　鄭成
陳榕前　吳再成

▼同郡四湖庄
野田鼎輔　吳飽　吳容
吳浩　林訓　吳凍
吳天賜　吳碕龍　蔡猪
吳瑞　林穩

▼同郡口湖庄
大坪利一　曾淺　李壇
呂利　李蓬　洪壬辰
吳歪　李紅牛　陳文
王新　王却示

▼東石郡朴子街
川瀨吉藏　戸板守正　福島寬
瀨川一三　黃愼儀　陳添貴
鄭徭　蔡啓耀　黃榛侯
蔡芳春　鄭國樹　蔡枝生
沈觀標　侯學

▼同郡六脚庄
大澤治重　東園榮治　久保田富三
侯棟　吳炎　黃樺讓
陳港　蘇炎　吳士賢
黃為　陳乾　陳讚
呂昇平　陳地　黃玉葉
侯化

▼同郡東石庄
片山任　喜村俊武　西村初介
吳嚴　吳根　李寶
蔡俊　蔡順金　李木
洪讚　林純鼎　莊文呈
蔡致晴　吳愁

▼同郡布袋庄
熊谷雄治　石橋常次郎　川本德太郎
永越信治　蔡扶　蔡炮
蔡喃　黃喀　黃春太
邱建　洪丁貿　莊寬
郭侯　王義　李皮
邱萬枝

▼同郡鹿草庄
近藤賢司　松田直次郎　陳欣
龔丕　陳國華　黃濟酷
呂學龍　林蓬　吳德
林兜　陳梓材

▼同郡大保庄
康亮造　村上七郎　王國材
楊清溪　陳仁發　陳北
盧榮　徐阿地　莊惠

▼同郡義竹庄
兒島定吉　鈴木俊英　翁賞
翁登叢　顏連對　趙大松
莊添　陳登材　翁錦裕
黃路　黃助　黃護
翁松龍　陳老久

▼高雄州▲

▼高雄郡高雄街
龜井保太郎　葉宗麒　高橋傳吉
清水義治　中村一造　永田定一
櫛田金之丞　杉本音吉　川上太四郎
名川豐　大坪興一　荒木萬三郎
井上忠之助　五百木宗則　眞砂由次郎
白石富　潘致祥　陳晉臣
陳振發　陳冠雄

▼同郡仁武庄
孫龍水　中島重正　孫智晉
許武　孫福世　陳凉
鄭再添　莊炳　曾成
林牛

▼同郡燕巢庄
陳清華　水田實　程強
李明聰　陳駐　陳恒
吳能　李烏目　韓新長
顏福源

▼同郡楠梓庄
濱口飲藏　金木春三郎　屋嘉比朱清

林東來　洪瑞西　郭倫勛
陳　賢　高再福　黃朝欽
林耆壽　鄭　登　許耆壽

▼同郡左營庄

李新春　松尾兵佐　郭安邦
楊亦安　楊水連　陳祥如
黃　陸　楊水成　郭國淙
王寶藏　劉　泉　陳　祿

▼岡山郡岡山庄

吳瑞森　中里睿之助　楊　搏
王查某　黃　進　孫廷霖
王祥光　楊溫直　鍾乾巽
張　勇　黃旺先　王啓明

▼同郡阿蓮庄

時任富太郎　楊　邦　王春來
鄭　晚　鄭馬喜　吳　紅
鄭　延　吳　廉　吳　湖
葉重水

▼同郡路竹庄

洪宗沛　山城正鳴　蘇　潤
蔡和慶　蘇溪泉　林　松
蔡榮瑞　林　順　蘇文蘭
周　纂

▼同郡湖內庄

蘇明儀　野口佳生　季　掌
韓錦源　王水龍　黃振春
蘇永昌　許建章　史和尙
林德五　邱文略　蘇海永
吳　堂　薛　鵬　吳　報
林十三　黃再爲

▼同郡彌陀庄

高文眞　副島末太郎　石米田
李　直　王　降　劉　勇
洪朝宗　蔣連發　江朝勝
孫　敬　林　毅　黃　肇
許　傳　董麒麟　吳　保
曾慶芳　蘇三時

▼鳳山郡鳳山街

王超群　相澤晃　橋本安博
渡邊富藏　藤井正氣　鐘ヶ江善次
小松隆雄　李汝福　葉瑞琳
簡　傑　鄭　頭　王山東

▼同郡小港庄

簡先源　淸水政治　笠勝士
吳　汀　李淸結　蔡登讚
梁進同　傅　營　李爾祥
吳　敦　李　顯　張金梯

▼同郡林園庄

林傳統　丸山系　松本長藏
蔡朝淸　林文河　曾　煥
吳瑞學　劉見章　黃牛母
王眞生　黃　鍇　黃錫椿

▼同郡大寮庄

簡汝准　橋詰濱吉　阿久根彰
王　等　陳　晒　林寶塔
陳塗寶　張錦樑　張錦店
陳　進　洪萬吉　簡紅毛

▼同郡大樹庄

吳淸疊　三浦祐策　阿利顯太郎
門屋寬太　櫻井芳之助　吳烏健
黃　東　謝　猛　鍾　登
吳　機　吳　鄉　吳　淳

▼同郡鳥松庄

林　倚　藤井直記　何　海
何在首　黃文欽　邱　富
黃振文

▼旗山郡旗山街

木原澄明　今野義全　竹内藤一郎
野村鶴藏　廣瀨鉄郎　大成孝章
周純臣　李慶河　劉耀堂
林朝凱　莊開能　蔡黃文
許　裕　徐添丁　郭振勝

▼同郡美濃庄

黃添元　岡田安久次郎　林道昌
陳保貴　黃六妹　宋森淸

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

劉炳文 劉志傳 劉添傳
黃炳金 朱臨華 古丙興
傅光球 溫海玉 吳阿寶
▼同郡杉林庄
林仙 小宮山四十郎 許進生
朱郭生 陳桂枝 張文平
張發生 黃添福 黃福興
陳阿乾
▼同郡甲仙庄
黎五妹 井上延雄 松本龜吉
劉龍秋 潘清英 潘祺成
吳阿祥
▼同郡內門庄
陳芳壇 土肥淑人 陳明珠
胡榛章 陳皮 何汪景義
郭友 洪福春 游松
龔登
▼同郡田寮庄
李牛母 成田金之進 林惠
林治 李國廷 唐朝滿
鄭成財 洪明 王羚
陳得
▼屏東郡屏東街
土田雄太郎 郭泰淵 喜多島二虎
岡本福太郎 宮添壽 赤岩龜三郎

小野田達己 河田利之助 黑木彌之進
佐原信藏 佐野邦一 簡祖沛
劉榮顯 廖寬 蘇嘉邦
陳興雲 鄭清魁
▼同郡長興庄
邱增興 兼久重太郎 馮安德
徐隆棠 邱昌古 邱阿龍
邱求順 徐發祥 吳鵬條
邱阿華 邱開興 謝金發
▼同郡鹽埔庄
王傑 渡邊猛郎 葉英祥
陳春來 陳港 林東海
陳德 黃榮 鍾阿發
鍾阿屋
▼同郡高樹庄
楊永命 石川止戈 楊龍祥
施暐 潘俊傑 蔡進來
曾金連 余玉 陳天助
陳武達
▼同郡六龜庄
井島改平 今岡要次郎 潘德福
邱添麟 朱登山 江德明
邱天魁
▼同郡里港庄
韓哲卿 森田義則 椎名吉次郎

張得 陳寬木 陳太雲
陳天福 陳俞 陳滿雲
董高泉
▼同郡九塊庄
林大鼻 田中晋 張天篤
林聯標 盧滿鐵 陳全
楊香雄 楊來 謝大江
李金生
▼潮州郡潮州庄
陳耀恭 成澤幸作 加納和氣生
鹿島慶之助 劉廣 陳通
陳球 吳加禮 李炳榮
蔡順水
▼同郡萬巒庄
劉安紅 岡部克己 陳安候
林禎祥 鍾富梅 吳枝成
潘品 林杞祥 陳超
林修秀 林華祥 李景郎
▼同郡內埔庄
林保郎 加藤貞男 林朝宗
李達璋 李福謙 陳新鎮
林明經 郭加禮 鍾勤南
劉鉅孫 李耀春 鍾阿鴻
曾萬興 曾作霖 張庚祥
▼同郡竹田庄

許尾豐松　李才烈　陳集榮
張鳳興　李　補　陳經奎
邱寶郎　李遠聯　潘員時
曾德華

▼同郡新埤庄
小栗乙三郎　鍾慶德　黃垣桂
邱阿增　王　來　潘元順
張添偉　張連泉　葉庚古
林春蘭

▼同郡枋寮庄
曾大目　小山清五郎　陳吉六
黃　興　謝天從　林來生
楊元富　陳　富　江萬順
林山知

▼同郡枋山庄
黃九穗　吉川榮三　黃知高
黃文川　許慶祥　郭天送
張清吉

▼東港郡東港街
陳秋金　吉池　勇　志和仁太郎
藏渡　源藏　葉　義　石　水
黃江山　曾樹勳　許明和
蘇　角　李對時　林才保

▼同郡新園庄
羅　喜　外岡　政春　黃荃業
高淨清　許丙猪条　楊　貨
郭有與　陳　興　林清溪
陳才元　蘇　岩　胡寶泉
蔡滿大　陳烏定　許　智

▼同郡萬丹庄
李君重　六山定英　李仲義
李朝慶　王天球　李　岳
林　報　林　進　林大鼻
張山鐘　李士新　吳　仁

▼同郡林邊庄
阮朝塭　橋田　永誠　阮達天
周主經　曹　深　林　坤
蔡　得　林　溪　洪能通
黃震定

▼同郡佳冬庄
戴阿丙　鈴木傳之助　蕭信棟
林其芹　林其招　楊阿靈
陳寄生　楊金水　林　忠
戴阿冬

▼同郡琉球庄
李　响　宇田　薰　洪知高
陳　遜　陳　也　鄭　文
蔡　乎

▼恒春郡恒春庄
佐藤廣之進　菅生千代藏　江原　重利
楊庚生　林新教　黃明智
陳水生　劉阿二　陳金榮
張萬上　黃寶生　尤炳文

▼同郡車城庄
藍清吉　松崎仁三郎　張添丁
黃明春　藍欽湖　黃　本
藍　龍　莊先珍　鍾天生
張阿丙

▼同郡滿州庄
尤昆平　原　豐藏　鍾阿才
賴春郎　賴景春　洪阿全
潘阿力

▼澎湖郡馬公街
重田　乙彥　大久保壽三郎　上瀧　利雄
康　平雄　富士田富藏　種子田一二
山口増五郎　伊東　正成　佐々木新太郎
陳桂綿　陳　潤　郭　達
林秀全　林江財　高乃倉

▼同郡湖西庄
辛　徹　齊藤　齊　吳甯塊
莊秀徹　陳　透　陳　第
陳福琴　吳　義　王　吉
呂　樊　洪美興　高　軒

▼同郡白沙庄
張　讃　宮崎　常藏　林　葉
鄭員文　李子修　蕭　音

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

葉　標　　陳瀾堂　　陳　山
朱　春
▼同郡西螺庄
鍾　師　　森田又次　李　林
謝天隣　　顏添木　　劉遇雲
鍾　色　　陳　貫　　吳　力
陳　春
▼同郡蓋安庄
佐藤乾　　許英木　　蔡　追
陳曼山　　林金和　　鄭　環
林其群　　董　幾　　林　戸
呂　鄕

# 州税徵收の成績

内務局州廳課

大正十一年度前期分の各州々税調定濟額に對する收入濟額及び收入未濟額等、左揭成績表の通りである

## □ 大正十一年度前期分州税徵收成績（圓）

| 州名 | 税目 | 調定濟額 | 收入濟額 納期限迄 | 調定濟額ニ對スル歩合 | 前年度當期ニ於ケル歩合 | 歩合増△減 | 收入濟額 納期限後 | 收入未濟額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 臺北州 | 戸税 | 一〇八、七一七 | 七七、六三七 | 七一四 | 七八五 | △〇七一 | 四、六一三 | 二六、四六七 |
| | 營業税 | 六一六、六三四 | 三五七、〇三六 | 五七九 | 五五五 | 〇二四 | 六五、六〇〇 | 一九三、九九八 |
| | 雜種税 | 八六、〇五九 | 五〇、一七〇 | 五八三 | 五六二 | 〇二一 | 一〇、〇七二 | 二五、八一七 |
| | 計 | 八一一、四一〇 | 四八四、八四三 | 五九八 | 六一一 | △〇一三 | 八〇、二八五 | 二四六、二八二 |
| 新竹州 | 戸税 | 二二六、七九五 | 二一九、九六一 | 九七〇 | 九六七 | 〇〇三 | — | 六、八三四 |
| | 營業税 | 一二〇、二六九 | 一〇六、九六五 | 八八九 | 七六七 | 一二二 | — | 一三、三〇四 |
| | 雜種税 | 一四、九〇一 | 一三、七八一 | 九二五 | 八四九 | 〇七六 | — | 一、一二〇 |
| | 計 | 三六一、九六五 | 三四〇、七〇七 | 九四一 | 八八三 | 〇五八 | — | 二一、二五八 |
| 臺中州 | 戸税 | 一六四、七〇八 | 一三九、七二一 | 八四八 | 九五〇 | △一〇二 | 一五、五三四 | 九、四六三 |
| | 營業税 | 二六二、七九一 | 一九四、六二三 | 七四〇 | 八二〇 | 〇八〇 | 三四、〇四二 | 三四、一二七 |
| | 雜種税 | 八三、二五三 | 七〇、〇四〇 | 八四一 | 八三〇 | 〇一一 | 六、三二五 | 六、八八八 |
| | 計 | 五一〇、七五二 | 四〇四、三八四 | 七九一 | 八五〇 | △〇五九 | 五五、九〇一 | 五〇、四七八 |
| 臺南州 | 戸税 | 二二〇、〇七八 | 二一五、四八九 | 九七九 | 九七六 | 〇〇三 | 一、三〇五 | 三、二八四 |
| | 營業税 | 三三四、五七九 | 三一四、八六三 | 九四一 | 九七二 | △〇三一 | 六、八九七 | 一二、八九九 |
| | 雜種税 | 一五五、三四七 | 一五三、二四一 | 九八六 | 九七三 | 〇一三 | 二八六 | 一、八二〇 |
| | 計 | 七一〇、〇〇四 | 六八三、五九三 | 九六二 | 九七三 | △〇一一 | 八、四四八 | 一七、九六三 |
| 高雄州 | 戸税 | 二一八、九〇二 | 一七七、五三三 | 八一一 | 八九〇 | △〇七八 | 一二、七八九 | 二八、五九一 |
| | 營業税 | 二二一、八三八 | 一八二、一八二 | 八二一 | 九二〇 | △〇九九 | 一四、〇一〇 | 二四、六〇五 |
| | 雜種税 | 一三六、九七七 | 一二〇、七八三 | 八八二 | 九二六 | △〇四四 | 三、四九七 | 一二、六九七 |
| | 計 | 五七七、七一七 | 四八〇、四八八 | 八三一 | 九二一 | △〇七九 | 三一、二九六 | 六五、九三三 |
| 合計 | 戸税 | 九三九、二〇〇 | 八三〇、三二〇 | 八八四 | — | — | 三四、二四一 | 七四、六三九 |
| | 營業税 | 一、五五六、一一一 | 一、一五五、六六九 | 七四三 | — | — | 一二一、五〇九 | 二七八、九三三 |
| | 雜種税 | 四七六、五三七 | 四〇八、〇一五 | 八五六 | — | — | 二〇、一八〇 | 四八、三四二 |
| | 計 | 二、九七一、八四八 | 二、三九四、〇〇四 | 八〇六 | — | — | 一七五、九三〇 | 四〇一、九一四 |

（備考）一、本表は定期賦課に係る年税を揭記せるものなり
二、本表は各税共市街庄に於て徵收せる納期限後十日目の現計を調査したるものなり
三、本表新竹州營業税及雜種税中には新竹郡紅毛庄の分を含ます

# 征番私記

大路主人　水野遵纂輯

## ▼第六回

### 軍發長崎。報達淡水（承前）

又在滬英商テイト社員ハルディ氏の紹介により車城の土豪盛明號に面會なして南部旅行の事を商議し且つ二十二日に至りて漸く案内者並船等の雇入整ひたれば其の翌早打狗の港門より船を漕ぎ出しぬ。折節逆風にて小船は大浪に飄蕩されて航客も殆んど眩暈する程になりぬれども幸にして午後は風勢稍穏になり申の下刻に東港の河口に到着したり。さらば船中の疲勞を慰めむと河岸の村市中をそゞろ歩行して鶏菓子など買求め船に再び歸り來りし頃春月佼々と波間に生じ遠近の沙嘴に水禽の相呼べるありて海島の風景寂しくも又面白し頓て晩餐を畢りしかば余等は大工よ「大工ト八船頭ノコトナリ」此の地に絃歌を解するものやある歟と訊にければ彼は唯と應へて船を立ち去りしが暫くして一少女を背にし琵琶一面を携へ來れり。是れ即ち此の地の校書にて姓は鄭字は歎南と呼ぶ婦人にて侍りければ大工の餘りに匆卒かしさに驚きたり。されど斯の如き絶海孤島にも亦此風流的の韻事あるは意外に興ある事に思ひ待れば何か一曲を聽かまほしと望みたり。其の時鄭校書は徐に琵琶を撥き鳴して唱へ出しぬる歌曲の妙にして又何となく哀れに聽えければ物の哀れを知らざる水夫すら時ならぬ雨に袂を濕しけるこそ悲しけれ。其の翌日もまだ便風を得ざれども強て船を出して南方に駛せ枋寮に達して林源勝といへる雜貨商店の一房を借り請け投宿しぬ此の地駐在の武辨道標千總郭占鰲巡司王懋功來訪せり抑々此の枋寮の地たるや清國政府管轄地の南端にして此より以南は蕃害を畏れて通行する人なければ道路全く通せず。化外蕃民の住地とこそなれり。故に千總巡司等を此處に駐在防守せしめり。二十六日に至れども風勢未だ靜ならざれば樺山氏と共に郭千總王巡司を訪ひ歸路土廟に賽し土人の演劇を廟前に一見す（支那人の神前に劇を演ずるは我が邦の神樂と同じ）觀衆の中に伽羅宝蕃女十數名ありければ余は彼等を招集し蕃歌二節を唱奏せしめ別に臨み燒酎一甕を賞與し縱飮せしめり。其の風俗等は北部の蕃女と大同小異なれば茲に煩を省きて筆記を略しぬ二十七日順風を得たれば午後二時瑯嶠灣に到着し枋寮より同行せしところの林得勝の家に一泊し翌早社寮の頭人張光清の家に到る。瑯嶠より社寮には其の距離僅かに三十町餘なれど土人は生蕃の襲來を畏れ鳥銃弓箭を携へたる二人の若者をして余輩を護送せしめたりき二十九日十時頃張光清林得勝を嚮導として頭後を經て日幕多秀房に到る。此の地は臺島南端の岬角にて海水灣形を作り船舶の停泊す可きの便あるに似たれども如何せむ南風激烈にして海岸に樹木絶て生育せざる程なれば風帆船の難破は此の邊に最も多しと云へり。此の夜土人吳某の家に泊す。主人は四十歳許りの貧農にて僅小の茅屋に棲めり。赤貧如洗家無擔石とは是等の景況を指稱せしもの歟．然れども主人はいつくしくも海外の遊客を饗應なさむとて小家猪一頭を屠りて余等晩餐に供したりき。此の時傀仔角の大耳生蕃を見る。此處より生蕃

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地に行まほしけれども頭人等の生蕃は畏れて案内することを喜ばざれば食方なく蕃地行の念を思ひ止みぬ。三十日の朝呉姓の家を出立するに臨み銀圓三枚を與へて昨夕の厚意に酬ひ馬鞍山を越え再び頭役に出で張光旺の家に一泊し三十一日午後八時社寮に歸着し三十一日車城に移寓し林氏の家族に是れ迄の厚意を謝し酬勞銀を與へなどし再び船に搭し北走風港に寄泊し林讃の家にて炎熱を忍びて午餐を整へ戸外に出づるに土人の喚き罔れる樣大方ならざれば何事やあると路傍の人に尋ねにければ昨夜社不栗（シャフリー）社の生蕃二人を擒にせり。今にも彼蕃社より生蕃どもの討出復讎なすやも計られざれば斯く嚴戒候と答へけれ。然らば余輩も其の囚蕃を一見なさばやとて案内者を前に立て一箇の人家に入り見れば兩囚の中一人は社不栗社の酋長にて其の名をアルツと呼び他の一人は二十五六歳の壯者なり。風港の土人どもは殘忍非道にも兩足に長七尺の木械を箝め一房中に蕃囚を嚴鎖せり。其の囚は余等の到るを見て別に怪める色もなく沈靜默坐其の死を待てるもの丶如く見え其の衷心察せられて甚だ哀なりき。されど土人どもは決して之を斬殺せず。和議なれば必ず蕃社へ放還するの意なりと言へり。此の港より再び舟を泱せ北航二里餘又逆風に妨げられ終夜偏羅堂地方に碇泊し三日の日晩枋寮に於て船を棄て早走東港に到り其の地の官吏王從義に轎子雇入れの周旋を依頼なせしに其の寛漫なる事實に驚く可く午前十一時より午後五時までの時間を費して漸く二坐の轎子を雇入れたり。されど最早暮景に迫りたれば出立なす可きに便ならざれば其の夜は村中の耶蘇教會の禮拜堂中に一泊しぬ總て此の近方四五里の地は大竹を産する地方なれば家も柱も悉く竹ならざるはなく就中禮拜堂などは頗る清潔にて支那内地に於て總て見ざる所なり四日早王從義を訪ひ轎子雇入の厚意を謝し五香州烏鼠州蟄蕉脚など言へる村落を打ち過ぎ正午鳳山縣城に到達し又旂東といへる地より小船を賃して午後三時打狗港の寄寓日耳曼人ハルマン氏の樓房に歸着せり。

▼第七回　容降保力。破賊石門

長崎拔錨の有功丸は厦門に寄港し都督の公信を淸官へ交與し了り五月七日の早天瑯璠灣に航著しければ都督の顧問米國人甲比丹カツセル氏は譯官ジヨンソン氏を上陸せしめ社寮の頭人阿綿に招致し我軍來航の主旨を瑯璠地方の人民に傳達せしめり右ジヨンソン氏は厦門の原籍にて前年米國に渡航し該國の籍に入り歸厦の後も猶米領事の書記を請け前年セネラル、リセントル氏に隨ひて南部蕃社を周遊せし人なり又我參謀官は海岸の地形を相して天幕を甘蕃畑中に張り哨兵を四圍に置き生蕃の來襲に備へ戰討の用意怠りなく參軍の來着を願待たりしに十日の朝日進艦入灣し谷赤松の兩參軍上陸後直に令を傳へて近方の土人を雇集め胸壁を築き守備を嚴重にし輜重を本艦より運搬し駐屯の措置守戰の備稍整ひたれは五月十五日の朝甲比丹カツセル氏は譯官ジヨンソン氏を蕃界に遣して其景情を探偵せしめしに程もなく歸營して申すらく南部蕃社の酋長三名は日本人に面會することを企圖すれども日本人は此の島中の人民を屠戮せむために來航せりといへる支那人の流言を妄信すれば我營内に招致する事は甚難しされど彼の社界に到りて面會することは却て彼酋長どもの希ふところなりと譯官の報道斯くの如きなれば其翌日赤松參軍は甲比丹カツセル氏並に二三の士官を率ひ網砂といへる熟蕃の村落に出張し小麻里の酋長イサと應接あり其時甲比丹は左の數條をジヨンソン氏に傳へジヨンソン氏之

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を支那語に譯し熟蕃人再び之を生蕃語に譯して酋長と互に其意志を通することを得られき

第一項　赤松參軍は深くイサを信し自今朋友の交誼を結むと欲する至情を汝に示さむかために殆と蕃地の經界に近き處まで大纛を枉られたり

第二項　今回瑯瑀の地に上陸せし日本の軍勢は何そイサと戰爭することを要せむ故に參軍の意は全く汝と相親しみ何時なりとも汝の日本軍營に訪と欲する節は來營して妨けなかるべし

第三項　イサの舊友なるゼネラル、リセンドル氏屢々汝の深く信すべき人たることを語られたり又該氏も不日此の地に來られ日本人の友情あることを汝蕃社の人々に證明せらるべし

第四項　聞く頃日惡計ある支那人等はイサを欺きて日本人は此地の大耳を有する人民を悉く殺害すべき決意なせること是全く無根の流言にして日本人の汝との親睦を遮妨せむとする支那人の奸計なれば汝等は決して其妄說を信することなかれ

第五項　イサ若し我軍營に來り我友誼の情あることを確認し疑惑心を除却せむと欲すれば我等の誰人にしも汝の蕃社內に到り人質となり汝の歸營するまで滯留せしむるも我々於て妨なし

第六項　臺灣島中に於て今般我日本人の征討すべき人民は唯牡丹一社あるのみなり

第七項　イサ嘗て契約を定めて破船の難にあへる水夫を懇切に救ふことの如きは皆人々の傳承して賞讃するところなり

第八項　汝若し日本兵士に關し其身の危難を避けむ爲めに保護の證表を請くることを願はゞ參軍は其請を允可せらるべし

第九項　我軍は此島の南海岸を測量し暗礁を發見し浮標を置き破船の患を防ぐべき事業に着手せむとす故に汝は宜しく配下の人民に諭示して日本人は汝等の朋友なれば信義を守り日本人民又は其乘船に向ひ發砲すへからざる旨を確守せしむべし

第十項　日脚已に午を過ぎたり因て我等はイサと親友交誼の祝儀として一杯酒を傾け然る後歸營すべし此後とても無根の流言を耳聴せは速かに參軍に稟出し自己の疑團を氷解すべし

右の條々を懇々諭示せられければ酋長は全く我詐言なきを認め大喜悅の色を顯して答へけるには貴諭の條々悉く敬承せりされど南海岸を日本人の週歷することあらば恐らくは殘害を加ふべき惡人に逢遭することあらむ若し萬一の事ありし時に其譴責を請くるはイサの甚堪ふるところなり又日本人の小舟にて海岸を測量せらるゝことは自由なれども上陸することは堅く願はすと言ひにければ參軍は其機を察し後日再會討議の約をなして其日の談判了られけり却說十七日の夜半より大雨車軸の如く降續きしかは山澗の常として諸流一時に溢れ出て營中の彈藥糧餉を涵潤し營內の光景忽地に變して一面の湖水の觀を顯し那處此處に尖ける天幕の頭頂は無數の島嶼かと疑れたりされは其翌十八日東方半里餘の山麓高燥の地に本營を移轉し向後の水害を避くべきに事議一決しければ參軍は斥候の兵士を召し其地理見て參れと仰げれば兵士は其旨を領して四置淺近く進行せり此時一群の生蕃は深林中より突然小銃を亂射したれは此方も力拒能く戰ひたれとも奈何せむ衆寡敵せす徵集隊卒山口楞吉は淺手を負ひ伍長北川直征は首級を生蕃の手に授けたるは殊に遺憾の至なり此に於て本營より二十一日の早天再び斥候兵を派遣し生蕃の居動を窺はしむるに又も深林中より小銃にて狙擊なしにけれは心惡き生蕃の振舞かないて我勇威の程を見せくれむと蠻地に敵中へ斬て入り生蕃一人を討伏せたれは其勢に恐れけむ自餘の生蕃は山奧深く逃走せり去る程

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に本營に於ては更に軍議を凝らし斯く生蕃の大膽にも屢々官兵に手向ひなすこそ奇怪なれ是或は熟蕃の陽に我軍に服從し陰に生蕃と氣息を通じ我軍情を漏すことのあるべきも計られすされば其を先づ嚴査し然る後生蕃懲罰の處置をなすこそ宜しかるべしとて二十二日の朝左の禁令を熟蕃村落各處に貼示せり其文に曰く

在此近隣某生兵端但我日本人難分生熟之別故至將來抗敵我兵或携帶兵器或帮助兇惡又與生蕃交利器等有可疑形迹者悉照軍律處治儻有串通兇惡而匿其兇惡等事在後發腳即行該庄燒毀某及衆人留等須體此意若有目擊此等情形者必須速報雖生蕃之人改過悔罪欲來降者我不敢殺之又斬兇惡來我營者厚行重賞

特示明始七年五月大日本先鋒本營

本營より總勢二百人を四重溪近方の村落に派遣す其の日の十二時までに派遣の官兵は悉く熟蕃人の兵器を沒收したりければ生蕃の動靜を探偵なさむとて山奥に進入し石門の險隘に近ける程に兼て此處に潛伏して我兵の進來を待設けたる生蕃共は巖間々々の胸壁より覘をすまして小銃を霰雨の如く打出しければ此方もすかさず之に應して閧をどつと作り溪間の岩角を小楯にとり或は溪水中に佇立して一齊に打出しけり其聲山谷に轟き百雷の頭上に墮落する如く疑はれて勇ましことにこそ此時既に石門に戰爭ありと聞きければ本營より佐久間參謀は戰場に馳け付け勇氣にはやる壯士を制止し無謀の軍なして怪我なすな退けやくと大呼したれども四方の砲聲に遮碍せられ且つ我兵等は前日の復讐をなさむとて殊更に地理の不利なるにも關わらず士官は兵士に先だち兵士は士官に後れすして互に死生を忘れ先魁を爭へる眞最中なれば何かは以て聽き入るべき鬼々聲々諸共に胸壁間近く攻付たりされど山路は極めて險狹味方にとりては最も不利の地勢なれば參謀此に一策を運し一隊の海兵を指揮して石門背後の山腹より攀上らせ小銃を敵の膽後より峯下りに散々に打せければ兇悍無比の生蕃も此彈丸にや恐れけむ一溜りもなく胸壁を打捨て猿子の如く樹間岩間の嫌なく飛ふか如くに敗逃なしけるを前面の日本勢は隙もあらせす壁中に斬つて入り此處彼處に追詰めく牡丹社酋長父子を初め都合十二人の首級を掻き取り捷閧三度どつと揚け徐に本營さして凱旋せり是れより先生蕃ども我本營より進軍討掃の沙汰なきを見て日本兵も亦豚尾兵と一樣の弱蟲かなと頗る輕蔑の色ありしも今日此島中にて鬼とも呼はるゝ牡丹生蕃を僅二三時間の小接戰にて苦もなく討破りたるを見て始めて我軍威に慴伏し俄かに牛酒を軍門に捧け來り媚を呈して我兵の歡心を得むことを謀りけることそ淺果にも亦可笑き事なり。

本日我兵の死傷を算すれば士官には陸軍大尉石川幸安同金子忠至負傷、陸軍少尉伊澤満郎死陸軍十五等出仕山口五郎太負傷、一番中隊曹長山崎宗傳郎死、境二郎負傷、吉村直二郎郎死、徵集隊伍長兒玉利實坂本庄藏二木莊助負傷、又兵卒には一番中隊卒松田仁兵衛喇叭卒松下笑作徵集隊卒雨田利理負傷同卒美代早太郎郎死總計十四人の死傷とす又本日午後一時左の告諭を各處に貼示す其の文に曰く

現今我軍於四重溪間與生蕃交戰尤力備庴民勿敢近山邊我恐累白未分誤傷庴民故玆告示

七年五月

大日本先鋒本營

然るに車城人黃文玲なるものは愚かにも禁令を犯して石門近方を彷徨して遂に流彈の爲めに重傷を請け程なく黃泉の客となりければ都督は其死を憫み埋葬料金二十五元其父黃文知に下賜ありたりき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 詞苑

大正壬戌赤壁會。賦似長尾雨山。兼寄懷國分青崖。

藤波千溪

壬戌歲大旱。先生築東坡。躬耕釋來歎。瓦礫蓬蒿多。可憐日困匱。其如謫居何。供給何物有。種秔又栽茶。初秋既望夜。赤壁磯下過。仰看刺天鵠。高飛避細羅。少焉月出東。風不興水波。匏尊舉屬客。窈窕章相歌。爾來幾回閱。八百十歲華。俯仰感今昔。東西異山河。此地亦經戰。折戟沈汀沙。認得興廢事。憑吊爲洗磨。英雄今何在。末路令人嗟。只餘鳳凰堂。鳳去空棲鴉。兩翁太好事。畫舫浮水涯。以擬追蘇遊。期無負無差。槳櫂乃蘭桂。儔侶結魚鰕。忽聞洞簫起。舞蛟泣孀娥。尸祝已如此。遺蹟籠碧紗。才學駕蘇子。交游許涪皤。是日初識面。晤語心融和。不辭自今後。對榻俱吟哦。青老今曹劉。虎嘯降么麼。橫槊遡建安。碧海掣黿鼉。恨獨少來會。武昌千里賒。臨風遠東望。不知月西斜。斯會難復得。勝遊眞足誇。望夜旦須繼。霜露落寒柯。掀髯抵掌處。笑談醉顏酡。因思在內翰。金蓮寵偏嘉。命宮而磨蝎。謗譽交相加。昔日之富貴。一場春夢婆。

中嘉南聯合吟會席上偶成

森永竹陰

諸羅今夕晤群賢。來踐三生石上緣。
更喜中嘉南勝會。不才也共醉吟筵。

謹和竹陰先生瑤韵

臺中　王竹修

諸公堪繼竹林賢。我亦追尋翰墨緣。
群向酒邊重舉鉢。千秋長願有斯筵。

其二

諸羅山下萃英賢。詩酒論交亦夙緣。
愧我無才空有癖。叨陪末席醉瓊筵。

同上

臺南　陳芳圃

儒雅文風六一賢。雲龍聚首也因緣。
主賓傾盡東南美。有客高吟動綺筵。

同上

北門郡　洪子衡

久仰風流太守賢。羅山盛會訂詩緣。
識荊此日從吾願。且喜聯吟共酒筵。

同上

嘉義　許紫鏡

久聞東郡使君賢。好結騷壇翰墨緣。
此夜中嘉南雅會。紫微星爛照詩筵。

同

鳳山　陳春林

儒雅咸稱太守賢。起衰文運有前緣。
諸羅今日群仙聚。却喜清輝挹綺筵。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同　北雄　鎮海龍

也同晋代士多賢。濟々人文締雅緣。
好是相逢秋七月。筆花崔燦艷吟筵。

同　嘉義　林臥雲

記會心慕宰官賢。一託龍門信夙緣。
此日及叨聯雅會。文星耿々耀瓊筵。

同　嘉義　鄭述公

政美才高令尹賢。鷺鷗盟處結因緣。
西風八月秋容好。許否重來赴小筵。

弔伍子胥　二首　王寶藏

異國飄零淚點繁。望諸兄父獨含寃。
過關暗催鬢眉白。入郢何甘社稷翻。
但是盡情求孝悌。寧無大義失君恩。
貶褒名合垂千古。遺恨錢塘不忍言。

東城千里獨馳奔。寃士途窮易斷魂。
日落昭關思暗渡。簫吹吳市恨無言。
報仇却喜從屍辱。孤憤何堪把楚翻。
想是留功申子儆。待他復郢計恢存。

養病偶作　鵲仙　王寶藏

無端一病費維持。漸覺臨風力不支。
倚枕頻聽爐鼎沸。窺園每爲菊松悲。
多情隣友勞相慰。苦口山妻戒作詩。
勿藥何時占有喜。杏林深處好求醫。

次寶兄養病韵以慰之　斎城　王忠滿

珍重吟軀好護持。蠻煙瘴雨苦難支。
頓驚杜甫離家感。惆悵相如抱病悲。
大塊豈無生妙藥。名山應待賦新詩。
吉人定得蒼天佑。何必重尋扁鵲醫。

和寶藏詞兄養病韵　臺南　王臥蕉

才人遭阨數偏奇。造化不仁是小兒。
宇宙儘堪舒逸興。鬼神何竟擾清思。
料應藥鼎丹爐火。强作陽春白雪詩。
曠達吟懷眞爽朗。詞林樂地勝盧醫。

和鵲園仙子養病韵　高雄　梅坡居士

吟軀珍重要維持。誰道運乖使可悲。
明月有時遭翳蔽。孤高常復被人欺。
早知木鐸千廻折。方得金鋼百練詩。
此日惟求淸靜治。橘泉勤沐勝人醫。

瀑布　斎城　鵲園仙子

春風三月散新愁。水韻潺湲夜未休。
秦嶺竟分双島潤。吳江能達九天流。
浪淘直抉三千里。波沫横飛十二州。
更喜條々如練墜。星河無異落天頭。

祝布袋青年會　蔡如生

宏開盛會聚靑年。濟々蹌々盡世賢。
自治機關悉閱歷。同風政策任宣傳。
虔修道德身心守。奮發文章和漢全。
一視同仁冀異日。光輝照遍海南天。

## 臺灣日誌

### 九月

▼十四日

□淡水郡三芝庄管内小基隆外五茶業公司合同にて茶摘競技會を淡水郡小坑子茶業公司茶園に開く

▼十七日

臺南市主催、市内小公學校女教員會を臺南女子公學校に開く

▼十八日

□民法商法及關係法令を臺灣に施行する件の勅令及之に關係ある臺灣法令廢止に關する律令出づ

□未成年者飲酒禁止法の趣旨に準じ本島にても生徒及兒童をして酒類不飲用の習慣に馴致せしむべき旨總務長官より各州知事廳長及各直轄學校長に對して依命通達を發せり

▼二十一日

□瑞芳線三貂嶺より武丹坑に至る鐵道は營業を開始し双溪地方民は開通祝賀會を催はす

□賀來長官中南部各州巡視の途に上り二十三日歸北す

### 十月

▼一日

□各州市街庄協議會員全部改選せらる

□臺北市主催市制創始二周年記念祝賀會を鐵道ホテルに開く、地方市街にも同祝賀會を開くもの多し

▼七日

□林業關係者より成る臺灣山林會は七日臺北陸軍偕行社に於て創立總會を開く

▲九日

□田總督本日臺中を視察し十日海岸線鐵道開通式に臨場す

▼十日

□縱貫鐵道海岸線開通式を沿線通霄に擧ぐ

## 人事消息

▼吉田平吾氏(遞信局長、本誌評議員)九月十日内地より歸臺

▼東忠藏(高雄州内務部長、本誌編纂委員)同上

▼石井常藏氏(基隆要塞司令官)九月十日着任

▼島内國彦氏(澎湖要塞司令官)同　上

▼赤石定藏氏(臺日社長、本誌評議員)同十五日内地より歸臺

▼齋藤拓殖大學教授　朝鮮支那視察の途次同十七日視察の爲め來臺二十九日内地へ歸る

▼酒井雪介氏(專賣局事務官)歐米留學を終り同十七日對岸を經て歸臺

▼桑田文學博士　同十九日内地へ歸る

▼松田鶴三氏(總督秘書官)上京中滯京を命ぜらる

▼赤石初太郎氏　二十三日内地より歸る

▼高田富藏氏(臺北州知事、本誌評議員)二十五日内地より歸る

▼高田元治郎氏(電力理事、本誌評議員)二十九日内地へ歸る

▼飯田馬公要港司令官　二十九日上京

▼井村大吉氏(臺日社員)歐米視察を了りて十月二日歸臺、同六日上京

▼賀來總務長官同六日上京

▼花田中佐　報德會宣傳の爲め八日來臺

▼河内少將同　上

## 任命

大正十一年九月中

▲八月二十九日

總督府技手　荒木榮一

任總督府技師、土木局營繕課勤務ヲ命ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小平又次
臺灣産業主事ニ任ス、高雄州産業主事ニ補ス
▲八月三十日
九州帝國大學助手　小田定文
任總督府醫學專門學校教授
▲九月二日
總督府醫院醫長　小倉金作
上京ヲ命ス
▲九月五日
總督府祕書官　松田三德
東京ヨリ所澤ヘ出張ヲ命ス
總督府編修官　名和仁一
教科書調査會委員ヲ命ス
▲八月三十日
總督府市理事官　大橋長行
任國勢院事務官兼國勢院總裁祕書官兼大藏事務官
▲九月六日
總督府事務官　村田三郎
任總督府市理事官、臺北市庶務課長兼財務課長ヲ命ス
臺北州屬　片山定
任總督府專賣局副事務官
總督府事務官　深川繁治
遞信局監理課長、爲替貯金課長兼務ヲ命ス

醫學專門學校教授　松山榮
東京、京都、福岡、仙臺ノ四市ヘ出張ヲ命ス
▲九月七日
總督府專賣局書記兼總督府屬陸軍三等藥劑官　前島知德
總督府專賣局書記兼專賣局書記　細谷鍊三郎
總督府專賣局書記兼總督府屬　栄田虎猨
（各通）
任總督府專賣局副事務官
▲九月九日
總督府醫院醫長　迎諧
總督府醫院助産婦講習所講師ヲ命ス
總督府屬　馬場儀一
兼任總督府州理事官、臺北州勤務ヲ命ス
▲九月十一日
總督府技師　近藤十郎
東京、大阪、兵庫ノ二府一縣下ヘ出張ヲ命ス
▲九月十二日
州理事官　川村直岡
東京、大阪、靜岡、愛知、兵庫、鹿兒島、熊本ノ二府五縣下ヘ出張ヲ命ス
總督府師範學校長　田中友二郎
東京、京都、宮城、新潟、和歌山、廣島、大分ノ二府五縣下ヘ出張ヲ命ス
▲九月十三日

醫學專門學校教授　吉田坦藏
兼任總督府中央研究所技師
總督府技師　井手薫
土木局營繕課長近藤十郎不在中代理ヲ命ス
▲九月十四日
專賣局技師　上妻理人
九州各縣下竝大阪、兵庫、和歌山、岡山、靜岡及千葉ノ一府五縣下ヘ出張ヲ命ス
▲九月十五日
專賣局技師　中澤清助
專賣局事務官　杉本夏
（各通）
總督府中央研究所評議會員ヲ命ス
▲九月十六日
福岡縣小倉師範學校教諭　屋野義人
任總督府師範學校教諭、補臺北師範學校教諭
總督府技師　田中元治郎
蘭領東印度諸島ヘ出張ヲ命ス
▲九月十八日
臺灣中央衞生會委員ヲ免ス　勝山虎三郎
▲九月十二日
任總督府港務醫官補　桐林茂
▲九月十八日
歸京ヲ命ス　總督府祕書官　松田三德
師範學校教諭　大岩榮吾
臺南師範學校長田中友二郎不在中代理ヲ命ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▲九月二十日

總督府海事官兼
總督府港務官　藤井精次

任總督府港務官兼總督府海事官

總督府港務官兼總督
府海事官總督府技師　淺香貞次郎

任總督府海事官兼總督府港務官、兼總督府技師如故

▲九月二十二日

高等商業學校教授　遠藤昇三

東京府下へ出張ヲ命ス

鐵道部技師　小出三郎

東京、札幌及門司ノ三鐵道局管內へ出張ヲ命ス

▲九月二十五日

總督府祕書官　尾岡立顯

總督官房祕書課長松田三德不在中代理ヲ命ス

總督府參事官　佐藤勸

總督府官房祕書課長代理ヲ免ス

▲九月二十六日

總督府技師　藏成信一

歸朝ノ途次上京ヲ命ス

松延梅吉

任總督府師範學校教諭、補臺北師範學校教諭

▲九月二十八日

師範學校教諭　長沼享

補臺北師範學校舍監

醫院醫長　中村譲

(各通)

醫學專門學校教授　末盛進

臺灣地方病及傳染病調查臨時委員ヲ命ス

總督府技師　羽鳥重郎

臺灣地方病及傳染病調查委員ヲ免ス

醫院醫長　於保乙彥

臺灣地方病及傳染病調查臨時委員ヲ命ス

醫學專門學校教授　末盛進

臺灣地方病及傳染病調查委員補助ヲ免ス

## □編輯雜記□

▼東鄉委員、臺東花蓮港二廳下視察の爲め十月二十二日夜行汽車で高雄行、同地から海路出發

▼高橋愕君、十一月初旬出發、佛領印度支那へ出張に付、東鄉調查課長の發起で、十月二十一日夜新公園ライオンに送別會を開く、會者、東鄉、鐵田、水越、生駒、法水、原口、ランペツハ諸氏を初め二十餘名、酒三行、東鄉氏の送辭、高橋氏の謝辭があり、スキ燒をつゝいて互に縱談、九時頃散會

▼蜂谷彬君、東京朝日社に入り十月二十六日內地へ出發の豫定

## 寄贈書目

| 書名 | | 發行所 |
|---|---|---|
| 東亞經濟研究 | 同 | 其社 |
| 實業之臺灣 | 同 | 其社 |
| 臺法月報 | 同 | 其社 |
| 糖業 | 同 | 臺灣糖業研究會 |
| 臺灣教育 | 同 | 其社 |
| 極東公論 | 同 | 其社 |
| 大鵬 | 同 | 拓殖新報社 |
| 臺灣貿易表 | 同 | 臺灣總督府稅務課 |
| 朝鮮 | 同 | 朝鮮總督府 |
| 支那 | 同 | 東亞同文會 |
| 東拓月報 | 同 | 東洋拓殖會社 |
| 臺政新報 | 同 | 其社 |
| 會報 | 同 | 名古屋市教育會 |
| 臺灣鐵道 | 同 | 其社 |
| 青島商報 | 同 | 其社 |
| 臺灣農事報 | 同 | 臺灣農友會 |

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

| | | |
|---|---|---|
| 稅務月報 | 同 | 稅務職員共慰會 |
| 博愛 | 同 | 臺灣博愛社 |
| 貿易 | 同 | 日本貿易協會 |
| 臺灣鑛業會報 | 同 | 其社 |
| 臺灣警察協會雜誌 | 同 | 其社 |
| 南洋協會雜誌 | 同 | 其社 |
| 海事新報 | 同 | 帝國海事協會 |
| 週報（上海貿易） | 同 | 上海日本商業會議所 |
| 東洋 | 同 | 東洋協會 |
| 南洋經濟新報 | 同 | 新嘉坡商品陳列館 |
| 內外評論 | 同 | 其社 |
| 偕行社記事 | 同 | 陸軍偕行社 |
| 海友 | 同 | 大連海務協會 |
| 大陸 | 同 | 大陸社 |
| 地方行政 | 同 | 帝國地方行政學會 |
| 內外情報 | 同 | 外事課調查課 |
| 臺灣パツク | 同 | 臺灣パツク社 |
| 高砂パツク | 同 | 高砂パツク社 |
| 統計學雜誌 | 同 | 統計學社 |
| 遞信協會雜誌 | 同 | 遞信協會 |
| 滿蒙實業彙報 | 同 | 大連商業會議所 |
| 會計 | 同 | 明治大學出版部 |
| 統計集誌 | 同 | 東京統計協會 |
| 一味 | 同 | 本願寺臺灣開敎々務所 |
| 極東 | 同 | 極東社 |
| 對岸時報 | 同 | 福井縣對岸實業協會 |
| 國際經濟 | 同 | 國際經濟協會 |
| 產業事報 | 同 | 日本產業協會 |
| 臺灣醫學會雜誌 | 同 | 醫學專門學校 |
| 煙草通信 | 同 | 專賣局煙草課 |
| 日印協會々報 | 同 | 日印協會 |
| 臺政新報 | 同 | 臺政新報社 |
| 大亞 | 同 | 大亞義會 |
| まこと | 同 | 臺灣三成協會 |
| 大陸 | 同 | 大陸社 |
| 月報 | 同 | 小樽商業會議所 |
| 臺灣之茶業 | 同 | 臺北茶商公會 |
| 戰 | 同 | 其社 |
| 讀書會雜誌 | 同 | 滿鐵讀書會 |
| 臺灣 | 同 | |
| 海外重要記事 | 同 | 總督官房調查課 |
| 會報 | 同 | 名古屋市敎育會 |
| 警務彙報 | 同 | 其社 |
| 滿州之社會 | 同 | 滿州社會事業研究會 |
| JOURNAL INDO-JAPANESE ASSOCIATION. | | 日印協會 |

# 東洋協會支部事務竝決算報告

拜啓愈御清勝奉賀候陳者支部規則第八條第二項ニ依リ毎年一回定期總會開催可致筈ノ處御繁忙ノ折柄殊ニ當部ニモ別段重要案件等モ無之候得者本年ハ開會ヲ見合セ代フルニ大正十年度事務竝ニ收支決算左記之通リ本誌上ニ報告致候間御了承相願度此段得貴意候　敬具

大正十一年十月十二日

東洋協會臺灣支部長

賀來佐賀太郎

## □事務報告□

大正拾年度中ニ於ケル當支部事務ノ概要ヲ擧ケ報告スル事左ノ如シ

一、會員異動

大正拾年度末現在會員數

| | |
|---|---|
| 特待會員 | 一名 |
| 特別會員 | 十八名 |
| 通常會員 | 六百五十六名 |
| 支部會員 | 千四百七十名 |
| 合計 | 二千百四十五名 |

内譯

| | |
|---|---|
| 官吏 | 千三百五十七名 |
| 民間 | 七百八十八名（内地人 百九十名　本島人 五百九十八名） |

大正十年度中ノ入會者ハ通常會員六十二名支部會員百二十七名計百八十九名ニシテ退會及内地轉出者ハ通常會員百一名支部會員四百二十四名計五百二十五名ナリ之ヲ前年度末ノ現在數ニ比スレバ通常會員ニ於テ三十九名支部會員ニ於テ二百九十七名計三百三十六名ヲ減シタリ右ハ死亡退官及内地歸還等ノ結果

（次ヘ續ク）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ニヨル

二、役員異動

當年度ニ於テハ支部長下村宏支部副長評議員高田元治郎ノ兩氏退官ノ上内地歸還ニ付後任トシテ支部長ニ賀來佐賀太郎氏支部副長ニ川崎卓吉氏就任セリ常任幹事、評議員菊池武芳、阿部嘉七ノ兩氏及評議員原鶴次郎、加福豐次、服部仁藏、羽鳥精一ノ諸氏退任シ江口良三郎、高田富藏、吉岡荒造、常吉德壽ノ四氏評議員ニ就任セリ

三、支部事業

(イ) 當支部機關雜誌臺灣時報ヲ廢刊シ之ニ代フルニ總督府内臺灣時報發行所ノ發行ニ係ル月刊雜誌臺灣時報ヲ購入シ之ヲ各會員ニ配付スルコトハ前年報告セル如クナルガ本年度ニ於テモ亦タ此ノ例ニ依リ同誌ヲ會員ニ配付セリ

(ロ) 機會アル毎ニ知名ノ士ヲ招待シ講演會ヲ開催セリ

(ハ) 當支部設立ニ係ル私立臺灣商工學校ハ諸般ノ設備漸ク完成シタレバ一層内容ノ充實ヲ圖リ以テ設立ノ趣旨ニ副ハン事ヲ期シツヽアリ特ニ缺員中ナリシ主事ニ法學士佐藤龜久次氏ヲ招聘シテ校務ノ處理ニ當ラシメタリ同校入學志願者ハ逐年增加シ來リ殊ニ本年度ニ於テハ募集生百九十二名ニ對シ入學志願者ハ千百五十四名ニ達スルノ盛況ヲ呈シタリ右ハ當事者ノ施爲其宜シキヲ得タルハ無論ナルモ每回卒業生ノ就職後ノ成績特ニ良好ナルニ因ルモノト謂ハサル可ラス而シテ本年三月第三回卒業生ハ商科八十五名工科二十二名合計百七名ニシテ内七十六名ハ官廳會社銀行其他ニ就職シ三十一名ハ自家營業上級學校入學其他等ナリ

本年度末ニ於ケル同校ノ現況左ノ如シ

學級數九(講師四十六名(内專任講師六名))生徒數五百十一名(商科、三百七十名 工科、百四十一名)内(内地人生百七十二名 本島人生三百三十九名)ナリトス

其他當支部附屬臺灣文庫ノ圖書ヲ總督府圖書館ニ又タ故伊藤公揮毫ノ大額面ヲ同博物館ヘ寄附セシ廉ヲ以テ前者ニ對シテ銀杯一組後者ニ對シテ金杯一箇賞勳局ヨリ孰レモ支部ニ下賜サレタリ

□大正十年度收支決算書□

收入

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 前年度繰越金 | 円 一、一六〇・〇五九 |
| 會費收入 | 一三、二二一・三八〇 |
| 東洋協會ヨリ商工學校補助 | 六、四〇〇・〇〇〇 |
| 利子收入 | 一〇五・五一〇 |
| 計 | 二〇、八八四・九二五 |

支出

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 給與 | 円 四、四二八・七八〇 |
| 事務費 | 五八一・三三〇 |
| 事業費 | 六一四・八三〇 |
| 雜誌費 | 四、四五八・八六〇 |
| 集金費 | 一、三二五・五九〇 |
| 雜費 | 一五七・二一〇 |
| 商工學校補助費 | 六、四〇〇・〇〇〇 |
| 旅費 | 四四八・五八〇 |
| 計 | 一八、二九六・八一〇 |

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國鐵・鋼輸入額增加
Large Increase in U. S. Iron & Steel Imports. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 516.)

米國タイヤ市況
The Trend of American Tire Markets. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 519.)

一九二二年六月の米國農具類輸出狀況
Increased Implement Exports from U. S. in June. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 522.)

一九二二年六月の米國石油取引
American Petroleum Trade for June. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 529.)

一九二一/二二年の米國各產物收穫高
American Crop Prospects. (S. Aug. 26, '22. P. 309.)

米國の羊毛製メリヤス類輸入額
U. S. Wool Hosiery Imports Greater. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 590.)

米國のタイヤ市況
The Trend of American Tire Markets. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 600.)

米國の綿絲輸出貿易
A Growing Cotton Yarn Export Trade. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 649.)

米國の靴類輸出情況
American Exports of Boots and Shoes. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 653.)

合衆國の對支政策
The U. S. Policy in China. by George E. Sokolsky. (R. F. E. Vol. XXII, No. 3, Sept. 16, '22. P. 78.)

## 玖馬及其他

在玖馬失職支那人の米本國入國希望
All Chinese in Cuba want to get into the States. (M. T. Aug. 24, '22. P. 2.)

墨西哥近況
Mexico. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 635.)

ハイチの蘇木伐採及其輸出狀態
The Logwood Industry of Haiti (Com. R. Sept. 4, '22. P. 642.)

## 南亞米利加

最近に於けるブラジルの擾亂
Brazil; The Recent Disturbances. (S. Aug. 5, '22. P. 201.)

ブラジルの近況
Brazil. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 637.)

ブラジルの運動器具額市況
Market for Athletic Goods in Brazil. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 673.)

ペルー近況
Peru. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 639.)

智利の一般經濟狀態
Chili. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 636.)

アルゼンチンの經濟情況
Argentina. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 638.)

リヴアー・プレートの木材市況と其伐採業
Lumber Market and Industry in the River Plate. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 667.)

ボリビア、ヴエネヅエラ、玖馬の一般經濟狀態
Bolivia, Venezuela, Cuba. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 640.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ポーランドの煙草業
Tobacco Industry in Poland. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 471.)

チエッコ・スロヴァキアの商業情勢
Czechoslovakia. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 480.)

一九二〇/二一年のユーゴースラヴイア對外貿易
Foreign Trade of Yugoslavia. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 488.)

希臘のオリブ油產額
Olive-Oil Industry of Greece. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 645.)

土耳古の財政
Turkish Finance. (Com. R. Aug. 26, '22. P. 302.)

## ■阿弗利加■

### 埃及及其他

埃及の人口過剩
Over-Population of Egypt. (Stm. Aug. 27, '22. P. 17.)

東阿弗利加木材市況
East African Lumber Market. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 534.)

全力を盡し作業しつゝある南阿弗利加の金鑛
South African Gold Mines working at Full Capacity. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 480.)

## ■兩米大陸■

### 加奈陀

加奈陀の石油製品輸入取引
Canadian Trade in Petroleum Products. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 461.)

加奈陀の紙類及パルプ輸出情況
Canadian Exports of Paper and Pulp. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 537.)

加奈陀製靴類輸出情況
The Canadian Boot and Shoe Industry. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 540.)

本年七月の加奈陀自動車輸出情況
Canadian Automotive Exports Increased during July. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 658.)

加奈陀の東洋移民制限運動
Canada moves restrict Oriental Immigration. by Owen E. McGillicuddy. (E. E. R. Vol. XXII, No. 2, Sept. 9, '22. P. 40.)

### 北米合衆國

米國の棉花收穫高
U. S. Cotton Crop. (S. Aug. 5, '22. P. 204.)

一九二一/二二年の米國對外貿易
External Trade of the U. S. (S. Aug. 5, '22. P. 206.)

米國に於ける化學部の創設
Organization of Chemical Division. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 432.)

米國食料品輸出情勢
Trend of Foodstuff Exports. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 435.)

米國の護謨製品取引
U. S. Trade in Rubber Goods. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 444.)

米國木材輸出情況
Exports of Lumber and Market Conditions. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 446.)

高低定まりなき米國の陶器類取引
U. S. Ceramic Trade Fluctuation. (Com. R. Aug. 14, '22, P. 472.)

倫敦と紐育=仕事振の比較
London & New York: Business Habits Compared. (Stm. Aug. 13, '22. P. 9.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

シレジアの石炭狀況
The Coal Situation in Silesia. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 526)

一九二一年の獨逸產炭額
German Coal Production in 1921. (Com. R. Aug. 21, '22. P 526)

獨逸の玩具類製造狀況
The German Toy Industry. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 541)

伯林に於ける日常生活
Daily Life in Berlin. (T. d. No. 43117, Aug. 23, '22. P. 13.)

獨逸の羊毛業
German Wool Industry's Status. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 590.)

獨逸に於ける革類の値段
Leather Prices in Germany. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 611.)

一九二二年五月の獨逸鐵•鋼對外貿易
German Foreign Trade in Iron & Steel in May (Com R. Sept. 4, '22. P. 659.)

獨逸の產炭額減退
Decrease in German Coal Output. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 662.)

和蘭に於ける靴の上部用製革業
Upper Leather Industry of Netherlands. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 538)

一九二〇、二一、二二年の和蘭タイヤ輸入情況
Netherland's Tire Market (Com. R. Sept. 4, '22. P. 671.)

## 露　西　亞

露西亞の金鑛現況
Gold-Mining in Russia. (S. Aug. 5, '22. P. 209.)

ソヴエツト•ロシアの油產額
Production of Oil in Soviet Russia. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 462.)

ソヴエツト•ロシア(主としてペトログラード)の貿易狀況
Industry in Soviet Russia. (Com R. Aug. 28, '22. P. 272.)

ソヴエツト•ロシアの甜菜糖業
The Beet Sugar Industry in Soviet Russia. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 595.)

ソヴエツト•ロシアの對外貿易政策
Foreign-Trade Policy of Soviet Russia. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 623.)

ロシアの貿易上の位置
Commercial Importance of Russia. (A. E. R. Vol. XII, No. 3, Sept. '22. P. 447.)

## スカンデイナヴイア諸邦

丁抹鞣革業近況
Capacity of Danish Tanning Industry. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 465.)

瑞典の機械及電氣業
Swedish Machinery and Electrical Industries. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 467.)

瑞典の電化事業
Electrification of Swedish Industry. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 524.)

瑞典の製紙業
The Swedish Paper Industry. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 536.)

スカンデイナヴイア諸邦の一般的好況
General Improvement in Scandinavian Countries. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 582.)

## 瑞西•東歐及巴爾幹諸邦

補助金を受くる瑞西時計業
Subsidy for Swiss Watch Industry. (Com. R. Bug. 14, '22. P. 468.)

東部歐羅巴諸國の財政經濟狀態
Eastern Europe. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 512.)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國の化學品、藥品及染料輸出情況
British Trade in Chemicals, Drugs and Dyes. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 546.)

一九二二年七月中の英國對外貿易
British Foreign Trade in July. (Com. R. Aug. 28, '22. 584.)

英國の絹及絹製品輸入情況
British Foreign Silk Trade Increase. (Com R. Aug. 28, '22. P. 291.)

英國の石油製品輸入情況
U. K. Trade in Petroleum Products. (Com. R. Aug. 28, '22 P. 605.)

英國の財政狀態
British Financial Condition. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 626.)

## 佛蘭西・伊太利・白耳義

一九二一・二二年上半期の佛國輸出入貿易
France. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 510.)

佛國鐵・鋼產出高
French Output of Iron & Steel. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 517.)

リヨン地方の炭礦業
Coal Industry of Lyon District. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 661.)

伊太利の財界近情
Italy. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 428.)

伊太利の化學肥料
Chemical Fertilisers in Italy. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 433.)

伊太利の木材輸入情況
Italian Lumber Industry. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 448.)

伊太利の鐵・鋼業
Iron and Steel Industry of Italy. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 451.)

伊太利煙草產額の增加
Italy's Increased Tobacco Production. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 470.)

伊太利に於ける造船補助金法案
Italian Shipbuilding Subsidy Bill. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 475.)

伊太利の鑛物產額
Mineral Production of Italy. (Com. R Aug. 14, '22. P. 545.)

伊太利に於ける農業機械市況
Italian Market for Agricultural Machinery. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 672.)

一般に活躍を來せる白耳義の產業界
Belgian Industries generally show Greater Activity. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 380.)

白耳義の織物近況
Belgian Textile Situation. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 591.)

一九二二年七月の白耳義鋼鐵業
Belgian Steel Industry for July. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 593.)

## 獨逸及和蘭

獨逸對外貿易の恢復
Renaissance de Commerce Etranger de l'Altemagne. (E. E. No. 257, Mai 14, '22. P. 7.)

獨逸のヂレムマ
The German Dilemma. (T. d. No. 43093. July 26, '22, P. 15.)

ルール地方の產炭額
Ruhr Coal Output. (S. Aug. 5, '22. P. 204.)

獨逸の經濟的傾向
Germany. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 507.)

一九二二年七月の墺國財政狀態
Austria. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 511.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

西部歐羅巴の財政經濟狀態
Western Europe. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 578.)

中歐に於ける皮革類情勢
Hide and Leather Situation in Central Europe. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 655.)

## 英　吉　利

一九二二年の英國農產物豫收高
English Crop Forecast. (S. Aug. 12, '22. P. 246.)

英國產業界近情
Great Britain. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 427.)

英國木材輸入情況
Lumber Industry of the U. K. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 449.)

六月中の英國鋼鐵輸出額
Decline in British Steel Exports for June. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 450.)

一九二二年一/六月中の英國鐵及鋼業
Six Months' Trend of British Iron & Steel Industry. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 451.)

益々活氣を呈する英國羊毛取引
British Wool Trade more Active. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 456.)

一九二二年一/六月中の英國炭礦業
Survey of British Coal Industry. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 456.)

英國革製品輸出情況
British Export Trade in Leather Manufactures. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 464.)

英國の陶器類取引好況
British Ceramic Trade Increase. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 472.)

ノースクリフ卿
Lord Northcliffe. (T. d. No. 43110, Aug. 15, '22. P. 13.)

英國の護謨市況
The Rubber Markets. (S. Aug. 19, '22. P. 10.)

一九二二年上半期の英國輸出入貿易統計表
Trade Balances of the U. K. (S. Aug. 19, '22. P. 26.)

一九二〇/二二年最初七箇月中の英國綿花業
The Cotton Industry. (S. Aug. 19, '22. P. 26.)

英國生綿市況
The Raw Cotton Market. (S. Aug. 19, '22. P. 26.)

英國に於ける羊毛狀況
Review of the Wool Position. (S. Aug. 19, '22. P. 28.)

一九二〇/二二年最初七箇月中の英國羊毛取引
The Wool Industry. (S. Aug. 19, '22. P. 30.)

一九二一・二二年六月の英國亞麻、ヘンプ、黃麻市況
Flax, Hemp and Jute. (S. Aug. 19, '22. P. 32.)

一九二〇/二二年最初七箇月中の英國石炭輸出情況
The Coal Industry. (S. Aug. 16, '22. P. 34.)

英國の鐵・鋼貿易
Iron and Steel Trades. (S. Aug. 19, '22. P. 271.)

一九二一年の英國損失船舶統計
Wreck Statistics, 1921. (S. Aug. 19, '22. P. 273.)

英國の編物輸出情況
British Foreign Trade in Knit Goods. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 583.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

**Filipinos must largely bear Responsibility; Quezon wants them also to have Authority in Government.** (M. T. Sept. 11, '22. P. 1.)

難局に在る次年度比島各省の豫算節減
Hard to cut down Expenses. (M. T. Sept. 12, '22. P. 1.)

八月の比島對米輸出貿易
P. I. Exports to U. S. in August were $ 5,800,000. (M. T. Sept. 12, '22. P. 7.)

本年上半期の比島輸出貨物の噸量增加
Philippine Export Cargo showed Increase during First Half of 1922. (M. T. Sept. 14, '22. P. 10.)

汎太平洋商業會議參列代表派遣に關し協議されん
To discuss sending of Delegates. (M. T. Sept. 15, '22. P. 1.)

セブ港輸出貿易近況
Cebu Exports. (M. T. Sept. 16, '22. P. 6.)

製紙原料としての下級ヘンプ
Paper Pulp may be made from Low Grade Hemp. (M. T. Sept. 16, '22. P. 7.)

八月の比島ヘンプ產額＝首位レイテ縣
Leyte leads in Hemp Production; 86,193 bales produced in Islands Last Month. (M. T. Sept. 16, '22. P. 7.)

商工局長比島カヽオ業の發展を促す
Should develop Cacao Industry says Fidel Reyes. (M. T. Sept. 16, '22. P. 10.)

汎太平洋商業會議に比島も愈々代表を差遣せん
Will send Delegates to Honolulu. (M. T. Sept. 18, '22. P. 5.)

八月の比島對外貿易
Balance of Trade favours Islands. (M. T. Sept. 18, '22. P. 7.)

ウツド總督の比島統治概說
A Resume of Governor Wood's Administration in Philippines. (M. T. Sept. 19, '22. P. 5.)

## 濠太利及其他

一九二二年三月末現在濠洲對外貿易
Australian Trade. (S. Aug. 5, '22. P. 200.)

濠洲の壁紙市況
Australian Wall-paper Market. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 537.)

濠洲の經濟狀態
Economic Conditions in Australia. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 561.)

濠洲の商業情態
Improvement in Australian Commercial Situation. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 576.)

濠洲の紙類輸入市況
Australian Market for Paper. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 675.)

ジャワの鐵道
Les Chemins de Fer de Java. (E. E. No. 257, Mai 14, '22. P. 13.)

ニューギニアの航空探險
New Guinea from the Air. (T. d. No. 43123, Aug. 30, '22. P. 7.)

# ■歐　羅　巴■

## 一　般

西、北、中部歐洲の食料品情勢
Monthly Summary of European Foodstuffs Situation. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 434.)

一九二二/二三年の歐洲諸國產糖豫算
Larger European Sugar Crop Forecast for 1922-23. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 531.)

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

緬甸に於ける頁岩油採取業
The Oil Shale Industry in Burma. (R. G. Sept. 11, '22. P. 22.)

緬甸に於ける水力電氣の發達
Hydro-Electric Development in Burma. (R. G. Sept. 11, '22. P. 22.)

## ■南 洋 諸 島■

### 比　律　賓

比島綿織物輸入情況
Philippine Imports of Cotton Goods. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 458.)

スミス博士比島現行鑛業法改正を主張す
Dr. Smith Urges Changes in Mining Laws in Force Here. (M. T. Aug. 24, '22. P. 7.)

比島を征服せる蘭印の砂糖輸出貿易
Dutch East Indies beating Islands in Sugar Export Trade. (M. T. Aug. 25, '22. P. 7.)

島内汽船罷業解決に從ひ就航す
Interisland Ships sail following Strike Settlement. (M. T. Aug. 26, '22. P. 7.)

中部呂宋の蝗害終熄
Central Luzon Locust Menace Past. (M. T. Aug. 27, '22 P. 7.)

比島の逆貿易
Trade Balance of Philippines adverse. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 577.)

爲替下落を見越してのヘンプ•コプラの短期大輸出
Big Shipments of Hemp & Copra to be exported Shortly. (M. T. Aug. 28, '22. P. 1.)

比島圖書館と博物館の改良に就て、ケソン氏述
To improve P. I. Library and Museum. (M. T. Aug. 28, '22. P. 1.)

日本•支那に比し五十年方後るゝ比島の船舶界
Islands are Fifty Years behind China & Japan in Shipping. (M. T. Aug. 28, '22. P. 1.)

島内狂癲病院建設案=工費豫算百六十萬比
Insular Hospital for Insane will be built for P. 1,600,000. (M. T. Aug. 29, '22. P. 1.)

比島對米葉卷煙草貿易の景氣復活
Cigar Trade with States booming now. (M. T. Aug 29, '22. P. 1.)

比島と海上權
The Philippines and Sea Power. (M. T. Aug. 29, '22. P. 10.)

合衆國船舶法は當分比島に於て適用されざるべし
Won't yet apply Ship Law in P. I. (M. T. Sept. 1, '22. P. 9.)

積換貨物の新運賃率實施(比島)
New Freight Rate on Transshipment Cargo is in force. (M. T. Sept. 1, '22. P. 9)

セブ港輸出貿易近況
Cebu Exports. (M. T. Sept. 2, '22. P. 2.)

八月の馬尼拉關税大減收
Big Drop Registered in Manila Customs Returns for August. (M. T. Sept. 2, '22. P. 7.)

イロイロ輸出貿易近況
Iloilo Exports: Amount to P. 65,218. (M. T. Sept. 7, '22. P. 7.)

農務局を更に實際的たらしめんとの方案
To make Bureau of Agriculture more Practical. (M. T. Sept. 8, '22. P. 1.)

"比島民は大に責任を感じ政治上實權を把持せざるべからず"—比島大學に於けるケソン氏の講演

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

**バタンバン—アランヤ間鐵道敷設必要**

Un Resean de 140 Km. de Chemin de a faire de Seute. (De Battambang et Bak Preali a Aranya.) (E. E. No. 272, Aout. 27, '22. P. 1.)

**印度支那銀行理事會報告(一)**

Rapport du Conseil d' Administration de la Banque de l'Indochine. (E. E. No. 272, Aout 27, '22. P. 7.)

**ツエン・クワンの亞鉛鑛山**

Les Mines de Zinc de Tuyen-Quang. (E. E. No. 272, Aout 27, '22. P. 14.)

**印度支那土民食用"ヌオクマム"**

L' Alimentation indigene; Le Nuoc-mam. (E. E. No. 272, Aout 27, '22. P. 17.)

**トリアン瀑布の水力利用**

L' Utilisation des Chutes de Trian. (E. E. No. 273, Sept. 3, '22. P. 5.)

**印度支那銀行理事會報告(二)**

Rapport du Conseil d'Administration de la Banque de l'Indochine (Suite et fin.) (E. E. No. 273, Sept. 3, '22. P. 13.)

**印度支那に於ける工業情勢**

Le Mouvement Industriel en Indochine. (E. E. No. 274, Sept. 10, '22. P. 3.)

**河内共進會及西貢共進會の將來の開催期**

Le Foire de Hanoi doit etre Annuelle Celle de Saigon doit etre d'aboard et etre Annuelle aussi. (E. E. No. 274, Sept. 10, '22. P. 10.)

**一九二一年印度支那鑛產情況**

La Industrie Miniere et Metallurgique de l'Indochine en 1921. (E. E. No. 275, Sept. 17, '23. P. 13.)

## 暹羅・緬甸・印度

**暹羅の石油產額**

Petroleum Products in Siam. (Com. R Sept. 4, '22. P. 664.)

**暹羅に於ける製紙業**

La Fabrication du Papier au Siam. (E. E. No. 275, Sept. 17, '22. P. 4.)

**印度文官無試驗任用**

Appointments to Indian Civil Service: Other than by Examination. (Stm. Aug. 12, '22. P. 8.)

**印度の產炭額と其消費高**

Coal Production and Consumption of India. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 460.)

**印度鐵道の將來**

Future of Indian Railway. (Stm. Aug. 16, '22. P. 8.)

**一九二二年一/六月の印度對外貿易**

Foreign Trade of India. (S. Aug. 26, '22. P. 407.)

**印度の自動車市況**

Status of Indian Automobile Market. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 657.)

**印度立法部に於ける總督の演說**

The Indian Legislature. (R. G. Sept. 11, '22. P. 12.)

**緬甸の立法會議**

Burma Legislative Council. (R. G. Aug. 14, '22. P. 9.)

**一九二一年に於ける緬甸の治安報告**

The Policing of Burma. (R. G. Sept. 4, '22. P. 11.)

**緬甸の政事的情勢**

Burmese Political Situation. (R. G. Sept. 11, '22. P. 11.)

**ラングーン大學の公開講演**

University of Rangoon Public Lectures. (R. G. Sept. 11, '22 P. 15.)

**緬甸に於ける鐵道擴張と改善**

Railway Extensions and Improvements in Burma. (R. G. Sept. 11, '22. P. 21.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本の經濟的發展

Economic Developments in Japan. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 574.)

朝鮮に於ける自動車の利用

Motor Vehicles: A Prime Utility in Chosen. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 656.)

日本に於ける經濟的情勢

Some Phases of the Economic Situation in Japan, by Ruth K. Stowell. (R. F. E. Vol. XXII, No. 2, Sept. 9, '22. P. 52.)

日本新聞紙の對支正直政策同復

Japanese Press favours an Honest China Policy, by John Hart. (R. F. E. Vol. XXII, No. 3, Sept. 16, '22. P. 84.)

## 支　　　　那

對支援助提案＝日本の反對

Proposed Aid to China: Japanese Opposition. (T. d. No. 43103, Aug. 7, '22. P. 7.)

支那に於ける補助通貨の下落

Depreciation of Subsidiary Currency in China. (Com. R Aug. 14, '22. P. 494.)

支那棉花の減收

Chinese Cotton Crop Short. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 533.)

稍景氣恢復の支那市況

Chinese Market Slightly Improved. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 576.)

一九〇八/二〇年の支那鐵・鋼輸入額

Relative Importance of China's Steel Purchases. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 592.)

支那に於ける街道敷設

Highway Construction in China. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 607.)

漢口の銅輸入高

Imports of Copper into Hankow. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 659.)

香港の鐵・鋼輸入

Hongkong's Imports of Iron and Steel. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 660.)

歐洲新共和制の支那に於ける結果

Effect of New Republics in Europe upon China, by Charles P. Barkian. (R. F. E. Vol. XXII, No. 2, Sept. 9, '22. P. 39.)

陳維秉小傳

Rev. Wei-ping Chen, Ph. D. (R. F. E. Vol. XXII, No. 2, Sept. 9. '22. P. 44.)

廣東人の政潮

The Cantonese Political Currents, by Hin Wong. (R. F. E. Vol. XXII, No. 3. Sept. 16, '22. P. 74.)

支那の國際的交通機關

China's International Communication, by John Earl Baker. (R. F. E. Vol. XXII, No. 3, Sept. 16, '22. P. 88.)

## 佛 領 印 度 支 那

東京に於ける大工業

La Grande Industrie au Tonkin. (E. E. No. 257, Mai. 14, '22. P. 12.)

交趾支那に於ける華尼爾拉樹の栽培

La Culture du Vanillier en Cochinchine. (E. E. No. 262, Juin 18, '22. P. 8.)

ツーメ橋の擴張工事

L' Elargissement du Pont Doumer. (E. E. No. 262, Juin 18, '22. P. 9.)

印度支那に於ける漂布の利用

La Hanille Blanche en Indochine. (E. E. No. 262, Juin 18, '22. P. 13.)

老撾入國の捷徑に就て

La Voie d' Acces au Laos sera Siamoise si elle n' est Francaise. (E. E. No. 262, Juin 18, '22. P. 17.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 南支南洋其他
# 海外重要記事

臺灣總督官房調査課

■新聞雜誌略號一覽表■

| | |
|---|---|
| A. E. R. | American Economic Review. |
| Com. R. | Commerce Report. (U. S.) |
| E. E. | L' Eveil Economique |
| M. T. | Manila Times, daily. |
| R. F. E. | Review of Far East, weekly. |
| R. G. | Rangoon Gazette. |
| Stm. | Statesman, daily. |
| S. | Statist. |
| T. d. | Times, London, daily. |

## ■世界一般■

### 産業

世界の農具類市場に於ける米國製品情況
Prospects of Improvement in World Implement Market. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 438.)

世界織物近況一束
World Textile News in Brief. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 455.)

世界織物近況一束
World Textile News in Brief. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 532.)

五十萬噸減さ豫測さるゝ來年度の世界糖産額
500,000 ton Drop in Sugar Production is predicted Next Year. (M. T. Sept. 4, '22. P. 1.)

世界の砂糖狀態
The World Sugar Situation. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 644.)

世界織物近況一束
World Textile News in Brief. (Com. R. Sept. 4, '22. P. 648.)

### 海運

一九二二年の世界船舶噸數
World Ship Tonnage Figures for 1922. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 474.)

戰前及現時の世界商船狀況
Merchant Fleet of the World. (S. Aug. 19, '22. P. 22.)

一九二二年上半期の世界海運業
Survey of World Shipping, First Half of 1922. (Com. R. Aug. 28, '22. P. 614.)

## ■亞細亞■

### 一般

極東に於けるガソリン貿易
Gasoline Trade of the Far East. (Com. R. Aug. 21, '22. P. 528.)

華府會議さ遠東問題
The Washington Conference and Far East Questions, by Sir J. N. Jordan. (R. F. E. Vol. XXII, No. 3, Sept. 16, '22. P. 76.)

### 日本

日本の鐵道計畫
Japanese Railway Scheme. (T. d. No. 43091, July 24, '22. P. 7.)

日本の石油輸入取引
Petroleum Trade of Japan. (Com. R. Aug. 14, '22. P. 462.)

一九一三、一九/二一年の日本對外輸出入貿易
The Distribution of Japan's Trade. (Com. R Aug. 14, '22. P. 491.)

一九二二年八月に於ける日本の財政さ貿易
Japanese Finance and Trade. (Com. R. Aug. 26, '22. P. 307.)

Digitized by Google    Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪市高麗橋

# 株式會社三十四銀行

資本金五千萬圓

各地支店　東京、京橋(東京)、京都、神戸、兵庫、尼崎、尼崎東、西宮、姫路、廣島
德島、阿波池田、奈良、伊丹、傳法、臺南、高雄、(大阪市内)南、
天滿、雜喉場、堀江、日本橋、九條、朝日橋

本行之特色　銀行一般の業務の外擔保附社債信託法に依り信託事業を兼營す
事業資金部を置き工業資金の供給を爲す
外國爲替は香港上海銀行の代理店として最も便宜に取扱を爲す

臺北支店　臺北市本町二丁目

(電話三二四、五六、二一九五)